

平成 29 年度 自己点検評価書

平成 29 (2017) 年 6 月

九州共立大学

目 次

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等	1
II. 沿革と現況	3
III. 評価機構が定める基準に基づく自己評価	5
基準1 使命・目的等	5
基準2 学修と教授	13
基準3 経営・管理と財務	60
基準4 自己点検・評価	81
IV. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価	88
基準A 社会連携・社会貢献	88
V. エビデンス集一覧	96
エビデンス集（データ編）一覧	96
エビデンス集（資料編）一覧	97

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 九州共立大学の建学の精神と基本理念

九州共立大学の設置母体である学校法人福原学園(以下、「福原学園」と記す。)の教育活動の根幹を成す建学の精神は、創設者が掲げた「自律処行」である。昭和40(1965)年に開学した九州共立大学においても、この建学の精神「自律処行」を学是として教育研究活動を行ってきた。

「自律処行」に関して創設者は、まず「自律」について、「自分の志向や行為を道に照らして、その我儘不正を抑えることである」と解し、次に「処行」については、「是を以て聖人、無為の事を処し、不言の教を行う」(『老子』(2章))を典拠に「徳を以て事を断じ、知性に適った教を行うのを処行という。処行は絶対の徳で処し、絶対の道を行うことである」と意味づけている。そして「自律処行」の意味を「自らの良心に随い、事に処し善を行う」とまとめ、時代の趨勢や社会の状況に応じて「自律処行」の理解を深化させ柔軟に解釈してきた。

「自律処行」は、福原学園の各設置校の建学の精神として教育活動の根幹を支えてきたが、学園創立60周年(平成19(2007)年)を機に、在学生・教職員に建学の精神の浸透をより一層図るため、昭和52(1977)年発刊の『寿詞集』の記載に基づき、「自律処行」の意味を「自らの良心に従い、事に処し善を行う」に統一した。これを受け、九州共立大学学則第1条においても、「本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い、事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する」と明示し、在学生・教職員すべてに対し、教育活動の根幹としている。

2. 九州共立大学の使命・目的、個性・特色

本学の使命・目的は、学則第1条に明示されている通り「教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的道徳的及び応用的能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成すること」にある。

この大学の使命・目的に基づき、さらに学則第3条においては各学部の人材養成および教育研究上の目的を具体的に定めている。まず経済学部においては、「学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適応できる、幅広い職業人を養成することを目的とする」とし、スポーツ学部においては「学是「自律処行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする」と定めている。

本学は、福原学園のミッションならびに本学のビジョンを体現するため、平成26(2014)年度から第2次中期計画・第2次中期財政計画[平成26(2014)年度から平成30(2018)年度の5ヶ年計画(以下、「第2次中期計画」、「第2次財政計画」と記す。)]をスタートした。

第2次中期計画においては、まず福原学園のミッションを「建学の精神「自律処行(自らの良心に従い、事に処し善を行う)」に基づいた教育活動を行うこと」とし、本学のビ

ジョンを「自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動し、知識基盤社会で活躍し得る教養と課題追求能力・総合的判断力・問題処理能力を併せ持つ真摯な学生を育成する」こと、すなわち「社会に適応できる自立した職業人を養成する大学を目指す」こととした。

このビジョンを実現するための「業務・事業」として、「特色ある教育課程の編成」「学修成果を重視した教育課程の強化」「免許・資格取得支援の強化」「学生支援の強化」「就業力育成支援の強化」「国際交流支援の強化」「大学運営組織体制の強化」「教職員相互信頼の強化」「戦略的募集広報の強化」の9つを掲げ、さらにこれらの業務・事業を22件の具体的施策に分化し、それぞれの担当部門が組織的・継続的に取り組むこととしている。また、「職業人養成 教育大学」として、資格・免許取得をも学修成果に含め、学生の質に応じた教育活動を展開していくことに重点を置いている。

Ⅱ. 沿革と現況

1. 本学の沿革

本学は昭和 40(1965)年 4 月に開学し、今日までに至る沿革は下記の通りである。

年月	事 項
昭和 40 年 4 月	九州共立大学開設（経済学部経済学科 1 学部 1 学科）
昭和 41 年 4 月	経済学部第二部経済学科の開設
昭和 42 年 4 月	工学部「機械工学科」「電気工学科」「土木工学科」「建築学科」の開設
昭和 43 年 4 月	経済学部経営学科の開設
昭和 54 年 4 月	工学部「環境化学科」「開発学科」の開設
平成 6 年 4 月	生涯学習研究センターの設置
平成 6 年 6 月	情報処理教育研究センターの設置
平成 13 年 4 月	大学院工学研究科修士課程 「機械生産システム工学専攻」「電子情報工学専攻」「都市システム工学専攻」「環境システム学専攻」の開設 工学部「電気工学科」を「電気電子情報工学科」に名称変更 工学部「開発学科」を「地域環境システム工学科」に名称変更 総合研究所の設置
平成 14 年 12 月	大学院工学研究科修士課程を博士前期課程に変更
平成 15 年 4 月	大学院工学研究科博士後期課程 「機械電子システム工学専攻」「環境・都市システム工学専攻」の開設 経済学部第二部の学生募集停止
平成 15 年 5 月	学習支援センターの設置
平成 17 年 4 月	工学部「機械工学科」「電気電子情報工学科」の学生募集停止 工学部「メカエレクトロニクス学科」「情報学科」の開設 工学部「土木工学科」を「都市システム工学科」に名称変更 工学部「地域環境システム工学科」を「環境サイエンス学科」に名称変更 工学部「環境化学科」を「生命物質化学科」に名称変更
平成 18 年 4 月	スポーツ学部スポーツ学科の開設
平成 19 年 3 月	経済学部第二部「経済学科」の廃止届出
平成 19 年 4 月	工学部「都市システム工学科」を「環境土木工学科」に名称変更 工学部「環境サイエンス学科」「生命物質化学科」の学生募集停止
平成 20 年 4 月	工学部「メカエレクトロニクス学科」「情報学科」「環境土木工学科」「建築学科」の学生募集停止 スポーツ・トレーニングセンターの設置
平成 20 年 6 月	経済学部経済・経営学科の設置届出
平成 21 年 4 月	経済学部「経済学科」「経営学科」の学生募集停止 経済学部経済・経営学科の開設 大学院工学研究科博士後期課程の学生募集停止
平成 22 年 4 月	大学院工学研究科博士前期課程の学生募集停止 「総合教養教育センター」を「共通教育センター」に組織替え
平成 23 年 3 月	大学機関別認証評価受審の結果、財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていることが認定された。
平成 23 年 4 月	スポーツ学部スポーツ学科の 3 領域を廃止し、4 コースへ再編
平成 25 年 3 月	工学部廃止

九州共立大学

平成 27 年 4 月	経済学部経済・経営学科の 9 コース制を廃止し、6 領域へ再編 地域連携推進室を設置
平成 27 年 10 月	九州共立大学創立 50 周年記念式典を開催
平成 27 年 11 月	姫路大学(旧 近大姫路大学)との小学校教員養成プログラムに係る調印 締結
平成 28 年 4 月	スポーツ学部スポーツ学科のコーチングコースをスポーツ総合コース へ再編
平成 29 年 3 月	大学機関別認証評価受審の結果、財団法人日本高等教育評価機構が定め る大学評価基準に適合していることが認定された。
平成 29 年 4 月	地域連携推進センターに組織替え

2. 本学の現況

・大学名 九州共立大学

・所在地 福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘 1 番 8 号

・学部構成

平成 29(2017)年 5 月 1 日 現在

学部	学科	入学定員	収容定員
経済学部	経済・経営学科	400	1,600
スポーツ学部	スポーツ学科	250	1,000

・学生数、教員数、職員数

①学生数

平成 29(2017)年 5 月 1 日 現在

学部	学科	在籍学生数			
		1 年	2 年	3 年	4 年
経済学部	経済・経営学 科	289(2)	328(4)	324(60)	339(63)
スポーツ学部	スポーツ学科	294	290	288	270
合 計		583(2)	618(4)	612(60)	609(63)

() は留学生数で内数とする。

②教員数

平成 29(2017)年 5 月 1 日 現在

学部	学科等	専任教員数					助手
		教授	准教授	講師	助教	計	
経済学部	経済・経営学科	15	7	10	0	32	0
スポーツ学部	スポーツ学科	14	8	9	1	32	5
その他の組織	共通教育センター	4	2	5	0	11	0
合 計		33	17	24	1	75	5

③職員数 事務職員 47 人

Ⅲ. 評価機構が定める基準に基づく自己評価

基準 1. 使命・目的等

1-1 使命・目的及び教育目的の明確性

《1-1の視点》

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

1-1-② 簡潔な文章化

(1) 1-1の自己判定

基準項目 1-1 を満たしている。

(2) 1-1の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-1-①意味・内容の具体性と明確性

本学の設置母体である福原学園は、寄附行為第3条において、その目的を「教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、学是「自律処行」の精神に基づき、自己を自制し、知性と徳性を有する人材を育成することを目的とする」と明記している。【資料 1-1-1】

本学は、この寄附行為に基づき、九州共立大学学則第1条において、その目的を「教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を受けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的道徳的及び応用的能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成することを目的とする」と定めている。【資料 1-1-2】また、大学の目的を踏まえ、経済学部においては「学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて、質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適応できる、幅広い職業人を養成することを目的とする」、スポーツ学部においては「学是「自律処行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする」と、学部ごとに人材養成および教育研究上の目的等を具体的に定めている。【資料 1-1-2】

本学の教育活動の根幹を成す学是は、本学創設者福原軍造が建学の精神として掲げた「自律処行」である。この「自律処行」は、その意味を「自らの良心に従い、事に処し善を行う」とし、大学の「共立」という名称に込められた「学生と教職員が共に立つ」という創設者の強い思いとともに本学の使命・目的として明確に示している。

この学是については、学生便覧の冒頭に石碑に刻まれた写真とともにその解説を掲載している他、本学ホームページ、大学案内、入学試験要項、履修ガイド、講義要項(シラバス)(以下、「シラバス」と記す。)、教員プロフィールなどにも同様の解説を掲載し、周知を図っている。【資料 1-1-3～8】

特に学生募集のための大学案内や入学試験要項については、学是に関する解説はもとより、学是と教育課程との関連を明確にする目的で学位授与方針(DP)、教育課程編成方針(CP)、入学者受け入れ方針(AP)についても記載している。さらに、本学に入学する学生に対して、新入生オリエンテーションの際に「自律処行」の解説を行っており、入学式や卒業式の学長式辞さらには新入生オリエンテーションの学長挨拶等様々な場面で学

是について言及し、学生・保護者・教職員に広く明示している。

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 1-1-1】学校法人福原学園寄附行為 【資料 F-1】と同じ
- 【資料 1-1-2】九州共立大学学則 【資料 F-3】と同じ
- 【資料 1-1-3】平成 29 年度学生便覧(抜粋) 【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-1-4】九州共立大学 2018 年度大学案内 【資料 F-2】と同じ
- 【資料 1-1-5】平成 30(2018)年度入学試験要項 【資料 F-4】と同じ
- 【資料 1-1-6】平成 29 年度履修ガイド 【資料 F-12】と同じ
- 【資料 1-1-7】平成 29 年度講義要項(シラバス) 【資料 F-12】と同じ
- 【資料 1-1-8】平成 29 年度教員プロフィール

1-1-②簡潔な文章化

本学の使命・目的および教育目的は、「I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色」および「基準 1. 1-1-①意味・内容の具体性と明確性」で述べた通り、「簡潔な文章」で明確に記載している。

(3) 1-1 の改善・向上方策（将来計画）

建学の精神、使命・目的ならびに教育目標については、意味・内容の具体性と明確性を確保しつつ、その適切性の検証を継続していく。

1-2 使命・目的及び教育目的の適切性

《1-2 の視点》

- 1-2-① 個性・特色の明示
- 1-2-② 法令への適合
- 1-2-③ 変化への対応

(1) 1-2 の自己判定

基準項目 1-2 を満たしている。

(2) 1-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-2-① 個性・特色の明示

福原学園および本学の使命・目的は、建学の精神「自律処行」に基づいている。この建学の精神を本学では学是「自律処行(自らの良心に従い、事に処し善を行うこと)」とし、この学是に則り、第 2 次中期計画においては「自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動し、知識基盤社会で活躍し得る教養と課題追求能力、総合的判断力、問題処理能力を併せ持った真摯な学生を育成する」ことを本学のビジョンとして掲げている。すなわち、「職業人養成 教育大学」として社会に適応できる自立した職業人を養成することを大学の個性・特色としている。

この個性・特色は、広く社会に対して本学ホームページで公表するとともに、教職員に対しても学校法人福原学園第 2 次中期計画ガイドブックや福原学園ファクトブック等

において明示している。【資料 1-2-1～3】

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-2-1】学校法人福原学園第 2 次中期計画ガイドブック

【資料 1-2-2】大学ホームページ

(大学案内⇒建学の精神)

(大学案内⇒学長メッセージ)

(情報開示⇒Ⅲ. その他公開情報 情報公開<自己評価報告書>
⇒第 2 次中期計画の概要)

【資料 1-2-3】平成 28 年度福原学園ファクトブック

1-2-② 法令への適合

福原学園の目的は、寄附行為第 3 条に「教育基本法及び学校教育法に従い、学是「自律処行」の精神に基づき、自己を自制し、知性と徳性を有する人材を育成することを目的とする」と記しており、また、本学の目的については、九州共立大学学則第 1 条に「教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を受けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的道徳的及び 応用的能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成することを目的とする。」と記している通り、教育基本法および学校教育法が示す大学の目的の趣旨に適合している。【資料 1-2-4～5】

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-2-4】学校法人福原学園寄附行為 【資料 F-1】と同じ

【資料 1-2-5】九州共立大学学則 【資料 F-3】と同じ

1-2-③ 変化への対応

本学は平成 27(2015)年に創立 50 周年を迎えた。この 50 年の間、本学は時代の変化や社会のニーズに柔軟に対応しながら、学部学科の開設や廃止を始めとする様々な改革を行い、地域社会からの要請に応じた有為な人材を養成・輩出している。

経済学部においては、平成 27(2015)年度に、それまで専門教育課程として設置していた 9 つのコース制を改編し、「生活経済領域」「金融・会計領域」「公共マネジメント領域」「経営管理領域」「スポーツビジネス領域」「ビジネス実務領域」の 6 つの領域を科目群として設定し、目指す資格や身に付けるスキルおよび知識を学修成果(アウトカム)として明確化し、専門知識や技能を修得させる学部として再編した。【資料 1-2-6】

スポーツ学部においては、平成 28(2016)年度に、スポーツ系学部として必要な分野をすべて網羅する総合的な学習コースとして、「コーチングコース」を「スポーツ総合コース」へと名称変更し、同コースを核としてより専門的な資格取得を目的とした「スポーツ教育コース(教員免許等)」「スポーツトレーナーコース(アスレティックトレーナー等)」「健康フィットネスコース(健康運動指導士等)」の 4 コースに再編した。【資料 1-2-7】

また福原学園および本学は、著しく変化する社会情勢に対応し継続的な改革を行うことを目的として、5 ヶ年を一区切りとした中期計画を策定しており、現在は、第 1 次中期計画 [平成 20(2008)年度から平成 25(2013)年度以下、「第 1 次中期計画」という] の結果をもとに策定した第 2 次中期計画の 4 年目にあたり、第 2 次中期計画から新たに作

成したツリー図やガイドブック等で使命・目的等を明確にしながらか永続的な教育活動に取り組んでいる。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-2-6】平成 27 年度経済学部教育課程改革の方向性について

※平成 25 年度 第 13 回経営協議会資料（平成 26 年 2 月 25 日開催）

【資料 1-2-7】平成 28 年度スポーツ学部入学生専門教育科目カリキュラム(案)について

※平成 26 年度 第 12 回経営協議会資料（平成 27 年 2 月 4 日開催）

(3) 1-2 の改善・向上方策（将来計画）

福原学園および本学の目的である「自律処行」を通じた人間教育を実践していくことは教職員にとって不変の使命である。これを踏まえたうえで、今後も引き続き社会情勢等の変化に柔軟に対応しながら、法令への適合および個性・特色の明示に取り組むこととする。

1-3 使命・目的及び教育目的の有効性

《1-3 の視点》

1-3-① 役員、教職員の理解と支持

1-3-② 学内外への周知

1-3-③ 中長期的な計画及び 3 つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

(1) 1-3 の自己判定

基準項目 1-3 を満たしている。

(2) 1-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-3-① 役員、教職員の理解と支持

福原学園および本学の使命・目的は、毎年 5 月に開催される学園総会において、学園内の全教職員が一堂に会する中、理事長・学長が述べる所信表明において言及されている。【資料 1-3-1】

また、本学にあっては、全教育職員を参集し 4 月に学長が「九州共立大学の改革について」と題した学長方針として当該年度の主要重要課題について述べており、その際にも必ず本学の使命、展望、目標についても言及した。さらに、平成 29（2017）年 5 月には SD 研修会の一貫として事務職員に対しても、同様の学長方針が述べられており、教職員の理解は十分に得られている。【資料 1-3-2】

また、本学は平成 26（2014）年度からの 5 ヶ年間に亘る第 2 次中期計画を策定するにあたり、福原学園のビジョンならびに本学のビジョンを全教職員が共有するとともに重要課題に対して本学のあるべき理想の姿を可視化し全学的に取り組むことを目的として、第 2 次中期計画策定に係る説明会（平成 25（2013）年 7 月 17 日）を開催した。【資料 1-3-3】

この説明会では、学長が第 2 次中期計画策定の必要性と基本方針を説明したうえで、

「具体的な業務・事業」「成果指標」等については現場の教職員からアイデアを募り策定する方針を示した。【資料 1-3-4】

こうしたプロセスを通して策定された第 2 次中期計画は教職員の理解と支持を得ており、その実行にあたっては教職員の納得のもとに進められている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-3-1】平成 29 年度 学園総会 次第

【資料 1-3-2】平成 29 年度「九州共立大学の改革について」学長方針

【資料 1-3-3】福原学園第 2 次中期計画の策定について

※第 2 次中期計画策定に係る説明会資料（平成 25 年 7 月 17 日開催）

【資料 1-3-4】教職員の意見について

※第 2 回九州共立大学部会資料（平成 25 年 9 月 11 日開催）

1-3-② 学内外への周知

本学の教育理念である「建学の精神」は、学長が入学式・卒業式などの公的行事の式辞や新生オリエンテーションの挨拶の中で必ず言及している。

学生に配付する学生便覧やシラバスにおいても「自律処行」の解説を掲載して学生が日常的に目に触れるよう心掛けている。さらに 1 年生に対しては、平成 27(2015)年度より全学的な正課授業科目として「福原学」を設け、学園史や自校史の解説、学長および OB の講話等によって学是「自律処行」を理解させることで、本学学生としての帰属意識を深め、自己実現と社会貢献に向けた具体的な目標設定ができる力の涵養を目的とした授業展開を行っている。【資料 1-3-5～7】

外部に向けては、大学案内・入学試験要項、学園広報誌「Liberty」などの各種印刷物、ならびに本学のホームページへの掲載はもとより、平成 26(2014)年 10 月からスタートした日本私立学校振興・共済事業団が運営する「大学ポートレート(私学版)」にも参加し、より広く社会全般への周知も図っている。【資料 1-3-8～11】

また、地域社会との連携に関する諸活動を目的として平成 27(2015)年 4 月に地域連携推進室を設置した。さらに、平成 29(2017)年 4 月より「生涯学習研究センター」の機能を核とし、「地域連携推進室」、および「総合研究所」を統合した「地域連携推進センター」を設置した。大学の知識・人材を活用した「地域連携・貢献」「研究推進」「生涯学習」の各事業を一体的に行うことにより、地域活性化および人材育成の一翼を担う。

なお、本学が取り組んでいる地域貢献・連携事業を報告書に取りまとめて近隣の自治体等に配付しているだけでなく、自治体等と締結した連携協定についても、マスコミに取り上げられることで本学の活動が広く社会に周知されている。【資料 1-3-12～13】

さらに、平成 27(2015)年に創立 50 周年を迎えた本学では、周年事業として創立 50 周年記念誌「自律処行」を発刊し内外の関係者に配付するとともに、同年 11 月には記念式典の開催に合わせて新聞広告を出すことで社会に対しても本学の教育理念を広くアピールした。【資料 1-3-14～15】

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-3-5】平成 29 年度学生便覧(抜粋)

【資料 1-3-6】平成 29 年度講義要項(シラバス) 【資料 F-12】と同じ

- 【資料 1-3-7】「福原学」の講義要項(シラバス) 【資料 F-12】と同じ
- 【資料 1-3-8】九州共立大学 2018 年度大学案内 【資料 F-2】と同じ
- 【資料 1-3-9】平成 30(2018)年度入学試験要項 【資料 F-4】と同じ
- 【資料 1-3-10】学園広報誌「Liberty」2017vol.16
- 【資料 1-3-11】大学ポートレート(私学版)
- 【資料 1-3-12】平成 28 年度九州共立大学「地域貢献・連携事業」報告書
- 【資料 1-3-13】新聞記事
- 【資料 1-3-14】九州共立大学創立 50 周年記念誌「自律処行」
- 【資料 1-3-15】創立 50 周年記念の新聞広告

1-3-③ 中長期的な計画及び 3 つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

本学の中長期的な計画については、平成 20(2008)年度に 6 ヶ年計画である第 1 次中期計画を策定し、平成 25(2013)年度に最終年度を迎えた。その後、第 2 次中期計画の策定においても、著しく変化する社会に対応すべく、継続して改革を行う必要があることから、第 1 次中期計画での検討状況を十分に踏まえ、学園全体のミッションを定めたうえで学園設置校の目指すべき姿を本学のビジョンとして掲げた。

この第 2 次中期計画における基本方針については次の通りである。

第 2 次中期計画策定における基本方針

- ①実践力とチェック機能を備えたマネジメントサイクルを構築し、組織一丸となった学校運営を行うことが可能な組織体質に変革する。
- ②所属部門を問わず教職員が学園の抱える課題に関する認識を共有し、重要課題に対する達成目標を設定することで、学園のミッションに基づいたあるべき理想の姿を可視化する。
- ③第 1 次中期計画の実績を踏まえ、基本目標に基づき、重要課題に取り組む。
- ④学園設置校が協働して中期計画に取り組むことにより、自律処行の精神を体現する「福原教育システム」を構築し、志願者を増加させ、永続的な学園運営を行う。

本学は、第 2 次中期計画において本学のビジョンを、「自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動し、知識基盤社会で活躍し得る教養と課題追及能力・総合的判断能力・問題処理能力を併せ持つ真摯な学生を育成する」こと、すなわち「社会に適応できる自立した職業人を養成する大学を目指す」として掲げるとともに、学部学科ごとに「三つの方針」(入学者受け入れ方針(AP)、教育課程編成方針(CP)、学位授与方針(DP))を策定し、それぞれの専門分野において修得すべき知識・技能等を明確に定め、使命・目的および教育目的を反映している。【資料 1-3-16～17】

なお、平成 28 年 3 月 31 日付で文部科学省より通知された「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布について」により、平成 28(2016)年度中に「三つの方針」について一体的な見直しを行ったところである。

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 1-3-16】学校法人福原学園第 2 次中期計画ガイドブック
- 【資料 1-3-17】平成 29 年度学生便覧 【資料 F-5】と同じ

1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

本学の創設者福原軍造が掲げた建学の精神は、昭和 22(1947)年の福原高等学院開設より今日に至るまで脈々と継承され、福原学園ならびに本学の目的および教育目的の要諦となっている。この開学以来の教育理念を踏まえつつ、本学は時代や社会の変化にも柔軟に対応してきた。【資料 1-3-18】

経済学部は、昭和 40(1965)年度に経済学科の単科大学として開設し、昭和 43(1968)年度に北九州地区の著しい経済成長を背景に商的事務に対応できる人材養成への要望に応えるため経営学科を増設し 1 学部 2 学科とした。また、平成 21(2009)年度には、学生の「学びの幅の広さの確保の観点」と「多様化した学生のニーズに対応する観点」から、経済学科(3 コース)、経営学科(4 コース)の 2 学科から経済・経営学科(9 コース)の 1 学科へと再編した。

一方スポーツ学部は、平成 18(2006)年度に「現代のスポーツ活動・健康づくりに対する総合的・融合的なニーズに鑑みるならば、男女共学の大学において新しいタイプのスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成し、生涯スポーツ社会を実現して、国民の心身の健全な育成に貢献する必要がある(スポーツ学部設置認可申請書抜粋)」という設置の趣旨のもと、1 学部 1 学科(スポーツ)で開設した。【資料 1-3-19】

この他、学部以外の教育研究に係る附属施設として、共通教育センターをはじめ、附属図書館、総合研究所、学習支援センター、スポーツ・トレーニングセンターがあり、平成 27(2015)年度には新たに、地域連携活動に関する学内情報の一元管理と学内外への周知・PR を行う組織として「地域連携推進室」を設置した。さらに、近年、「地方創生」が声高に叫ばれるなか、大学にあっては、「地域連携・地域貢献」の拠点(中核)となることがこれまで以上に強く求められており、大学全体で組織化された地域との連携協同体制の構築が喫緊の課題となっていることから、平成 29(2017)年度より生涯学習研究センター、総合研究所および地域連携推進室を統合した「地域連携推進センター」を設置しており、これらは互いに関連性を保ちながら、教員および学生の教育研究を支援している。

また、九州女子大学・九州女子短期大学と共通の附属施設として、情報処理教育研究センター、九州共立大学・九州女子大学共通教育機構(以下、「二大学共通教育機構」と記す。)、国際交流・留学生支援室があり、これらは三大学に共通するそれぞれの教育目的に応じた機能的かつ効果的な取り組みを行っている。

なお、情報処理教育研究センターは、平成 29(2017)年度より、図書館(図書情報課)と共に学術情報センターに改編し、図書館設備および情報処理設備・機器の整備充実を図ることによる学生および本学職員の利用に供するとともに、学生の学習活動並びに本学職員の教育・研究活動および業務を支援し、あわせて地域社会の活動に協力し、学術情報の利用に寄与に努める。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-3-18】九州共立大学創立 50 周年記念誌「自律処行」

【資料 1-3-19】スポーツ学部設置申請認可申請書(写)

(3) 1-3 の改善・向上方策(将来計画)

建学の精神は、学長が大学の公的な行事や教職員が集う会合等において常に言及しており、学生に対しては「福原学」において、その本質の理解を目的とした授業展開が提供されている。

さらに外部に向けては、大学案内や学園広報誌をはじめとする各種印刷物、あるいは本学ホームページ、大学ポートレート(私学版)等に明示されているところであるが、今後も学内外において容易にかつ日常的に目に触れるよう継続して取り組んでいく。

また、教育目的の有効性を高めるうえで時代の変化や社会のニーズを的確に捉え、三つの方針や教育研究活動に反映させて行くため、福原学園と本学が組織として体系的に使命・目的を実践に移す仕組みを構築し、継続して必要な改善を行っていく。

今後も本学の知識および人材を活用した地域連携・貢献、研究推進、生涯学習に関する各事業を行うことにより、社会の活性化および人材の育成に寄与すると共に、学生参加型の地域連携事業プランの策定・実施に全学を挙げて取り組むこととする。

【基準1の自己評価】

本学は、教育基本法および学校教育法に従い、建学の精神「自律処行」に基づき、教育目的を明確に定めている。建学の精神や教育目的については、教職員、学生ならびに学外へ様々な手段を利用して浸透、周知され、法的適合や社会の変化や時代のニーズに柔軟に対応しており、実質的な教育研究組織との整合性を確保している。

また、本学は建学の精神と教育目的を踏まえた三つの方針(入学者受け入れ方針(AP)、教育課程編成方針(CP)、学位授与方針(DP))を定めて公表し、学内外の理解と支持を得ながら教育活動を推進している。

今後は、使命・目的の達成に向けた計画的で効果的な教育活動を展開するとともに教育の実際を常に点検・評価し改善を行い、第2次中期計画を確実に履行し、PDCAサイクルを通じて、円滑な大学運営を推進する。

基準 2. 学修と教授**2-1 学生の受入れ****《2-1の視点》****2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知****2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫****2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持****(1) 2-1の自己判定**

基準項目 2-1 を満たしている。

(2) 2-1の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）**2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知**

(1) 入学者受け入れ方針(AP)については、大学および学部ごとに策定し、大学案内、入学試験要項に明確に記載し、受験生ならびに保護者に周知するとともに、本学ホームページや大学ポータル(私学版)上でもその内容を広く社会に周知している。【資料 2-1-1~4】

記載内容は、表 2-1-1 の通りである。

表 2-1-1 入学者受け入れ方針(AP)

入学者受け入れ方針(AP)(アドミッションポリシー)	
九州共立大学は、学是「自律処行」を体現し、学位授与方針(DP)に掲げた目標を強い意志を持って達成しようとする人を受け入れます。そのために教育課程編成方針(CP)をよく理解し、各学部の教育目標に応じて真摯に学問修得に励む人を募集します。また、基本的な学習習慣を有し、国語総合(現代文)を通じて、読む、聞く、話す、書くという表現力、発信力、コミュニケーション能力の基礎を身につけていることを望みます。	
経済学部	<p>経済学部は、以下に示す教育・人材育成方針に賛同し、かつ経済学・経営学を積極的に学修する意欲と素養を持つ人を受け入れます。</p> <p>1) 自らを律することができる。自ら考えて判断し、責任を持って行動しようとする者。</p> <p>2) 自らを創造することができる。経済学・経営学の学問的知識とともに社会人としての基礎力を身につけることを通して、新たな自分を創りあげようとする者。</p> <p>3) 自らを取り巻く環境から学ぶことができる。国内外において地域の現状・課題を認識し、積極的に取り組もうとする者。</p>
スポーツ学部	<p>スポーツ学部は、以下に示す教育・人材育成方針に賛同し、かつスポーツ指導者・健康づくり指導者となる強い意欲と素養を持つ人を受け入れます。</p> <p>1) 各種スポーツにおいて高い競技力を有し、さらに科学的トレーニング等により、自らの技能を高める意思のある者。</p> <p>2) スポーツの競技力向上に関する強い意志を持ち、スポーツ技能・</p>

スポーツ学部	<p>競技力向上のためのコーチング技術やトレーニング理論を意欲的に学ぶことができる者。</p> <p>3)的確な判断力と高い力量をを持つスポーツ指導者の素養があり、そのための研究や実践に意欲的に取り組むことができる者。</p> <p>4)競技力を支える実践力を身につけようとする強い意欲があり、高度な研究と実践を通して、アスレティックトレーナーなどの各種スポーツ関連資格取得に必要な技能と知識を修得できる者。</p> <p>5)国民の健康保持・増進、高齢者の健康づくりなどに関心を有し、健康関連の高い知識や技能を身につけ地域社会に貢献する志を持つ者。</p> <p>6)広く社会に貢献する意欲があり、国際的スポーツ行事や競技会などの運営等に関わり活動するための幅広い教養と高いコミュニケーション能力を身につけることができる者。</p>
--------	---

(2) オープンキャンパスを年5回開催し、生徒および保護者などに対して、本学の入学受け入れ方針(AP)を説明し周知している。

生徒および保護者の近年の参加者数は、表 2-1-2 の通りである。

表 2-1-2 「オープンキャンパス」参加者数推移表

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
生徒数	950	822	1,242	993	814
保護者数	290	319	317	366	281
合計	1,240	1,141	1,559	1,359	1,095

(3) 本学単独の大学説明会を福岡市、北九州市、鹿児島県、沖縄県の4会場で開催し、高等学校の教員を対象に入学受け入れ方針(AP)を説明し周知している。

出席高校数、出席教員数については、表 2-1-3 の通りである。

表 2-1-3 「大学説明会」出席高校数および出席教員数推移表

年度 会場	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	出席者	高校数	出席者	高校数	出席者	高校数	出席者	高校数	出席者	高校数
福岡	62	59	58	56	59	58	45	44	28	28
北九州	53	50	50	49	58	57	55	52	60	58
鹿児島	25	23	22	19	25	22	30	29	14	14
沖縄	28	22	28	21	12	11	20	17	11	10
小計	168	154	158	145	154	148	150	142	113	110

(4) 本学では、年間を通して、高等学校単位および生徒個別単位での大学見学を受け入

れ、本学の入学者受け入れ方針(AP)を説明している。

大学見学の実施状況は、表 2-1-4 の通りである。

表 2-1-4 「大学見学」受入れ数推移表

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
高校数	11	16	8	10	6
生徒数	474	555	387	354	226

(5) 本学では、教員が高等学校へ直接出向いて行う出前授業も積極的に実施し、その中で本学の入学者受け入れ方針(AP)も説明している。

出前授業の実施状況は、表 2-1-5 の通りである。

表 2-1-5 「出前授業」実施状況推移表

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
高校数	6	14	29	18	41

(6) 身体の機能に障害のある人で、受験時に特別な配慮が必要な場合、あるいは入学後の修学において特別な措置が必要な場合は、出願前に入試広報課に相談いただくよう入学試験要項に明記し、受験生および保護者に対し周知している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-1-1】九州共立大学 2018 年度大学案内 【資料 F-2】と同じ

【資料 2-1-2】平成 30(2018)年度入学試験要項 【資料 F-4】と同じ

【資料 2-1-3】大学ホームページ 入試案内

【資料 2-1-4】大学ポータル（私学版）九州共立大学 本学の特色

2-1-② 入学者受け入れの方針に沿った学生受け入れ方法の工夫

本学の入学者受け入れ方針(AP)に基づいて、多様な能力を持った学生の確保を目的として、A0 入試、一般推薦入試、特別推薦入試、大学入試センター試験利用入試、一般入試、学力特待生入試、社会人入試、外国人留学生入試、学士入試および編入学入試を実施している。

特に、A0 入試、一般推薦入試、特別推薦入試、社会人入試、外国人留学生入試、学士入試、編入学入試では、活動、顕彰実績、志望理由、自己 PR および入学後の学修や課外活動への抱負などを記入する自己紹介書を出願書類として求め、面談または面接時の参考資料として活用している。面談および面接の担当者が、学部の入学者受け入れ方針(AP)に沿った人材であるかの確認を行うため、資料として準備した学部の入学者受け入れ方針(AP)とそれを意識した質問例を用い、自己紹介書を踏まえた質問および身近な一般的な事柄についての質問などを通して、受験生の潜在能力、適性、技能、学習意欲、入学の目的等を総合的に評価している。

また、多様な能力を持った学生の確保の観点から、A0 入試ではレポート方式(課題レ

ポートと面談による選抜)と実技方式(実技と面談による選抜)による 2 つの選抜方式を実施している。一般推薦入試においても、スポーツ学部では実技方式(実技試験、面接および調査書による選抜)と学力方式(基礎学力試験、面接および調査書による選抜)を実施している。経済学部においては、日商簿記検定 2 級以上または全商簿記検定 1 級の資格を持った受験生が、一般推薦入試で受験し合格すれば、授業料が半額免除となる「資格保有者特待生制度」も導入している。【資料 2-1-5~9】

本学の入学者の選抜については、「九州共立大学入学者選抜規程」に基づき設置される入学試験委員会により、公平、公正かつ適切に実施されている。大学入試センター試験利用入試以外の入試問題の作成については、九州共立大学入学者選抜規程に基づき、入学試験委員会の下に入試問題委員会を設置し、学力試験問題、小論文、課題、面談および面接試験問題のすべてを学内担当教員が作成している。入試問題委員会は、問題作成のほか、校正、採点および成績の報告を行っている。学力試験問題は、全学共通の問題を用い、小論文、課題、面談および面接試験問題については、学部ごとに入学者受け入れ方針(AP)を踏まえて作成している。【資料 2-1-10】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-1-5】平成 30(2018)年度入学試験要項 【資料 F-4】と同じ

【資料 2-1-6】平成 30(2018)年度社会人入学試験要項

【資料 2-1-7】平成 30(2018)年度外国人留学生入学試験要項

【資料 2-1-8】平成 30(2018)年度学士入学試験要項

【資料 2-1-9】平成 30(2018)年度編入学入学試験要項

【資料 2-1-10】九州共立大学入学者選抜規程

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

本学における、過去 5 年間の入学者数および入学定員充足率は、表 2-1-6 の通りである。

経済学部においては、過去 5 年間入学定員を満たしておらず、本学の最重要課題の一つとなっている。平成 29(2017)年度の入学者数は、入学定員の約 7 割となっており定員充足に向けて引き続き努力していく。

スポーツ学部においては、過去 5 年間の入学定員を満たしており、現状では安定している。また、入学者数は、入学定員を過大に超過する状況にはなく、教育の実施上問題は認められていない。

なお、大学全体の入学定員充足率は、平成 26(2014)年度以降は、9 割を超える充足率で推移している。

表 2-1-6 入学者数および定員充足率（過去 5 年間）

学 部	項 目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
経済学部	入学定員	400	400	400	400	400
	入学者数	232	324	296	329	289
	入学定員充足率	0.58	0.81	0.74	0.82	0.72

スポーツ学部	入学定員	250	250	250	250	250
	入学者数	302	294	307	311	294
	入学定員充足率	1.21	1.18	1.23	1.24	1.18
計	入学定員	650	650	650	650	650
	入学者数	534	618	603	640	583
	入学定員充足率	0.82	0.95	0.93	0.98	0.90

学生の受入数を維持するためには、本学への入学志願者の増加のため、広報活動が重要な要素である。なお、『「高等学校内ガイダンス」参加状況』および『「進学相談会」参加状況』の推移については、表 2-1-7～8 に示すとおりである。

表 2-1-7 「高等学校内ガイダンス」参加状況推移表

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
高校数	41	45	36	26	81
生徒数	463	363	429	273	892

表 2-1-8 「進学相談会」参加状況推移表

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
会場数	67	71	71	65	86
生徒数	676	708	680	660	948

(3) 2-1 の改善・向上方策（将来計画）

本学において、入学定員の確保は、最も重要な課題の 1 つである。入学定員の確保については、学内の協力体制と情報共有による一体的な学生募集・広報活動の推進を図るため、九州共立大学評議会の下に広報委員会を設置した。平成 29(2017)年度は、平成 31(2019)年度学生募集のツールとして大学案内および大学紹介DVDを刷新し、本学教育活動の周知を図っていく。

また、本学の第 2 次中期計画に基づき、入学者受け入れ方針(AP)や教育活動および学生指導の情報をオープンキャンパスや大学説明会(高等学校の教員対象)に加え、出前授業、高校訪問、大学見学等において積極的に発信するとともに、特に出前授業、高等学校内ガイダンスおよび進学相談会を積極的に活用することで高校生に、一層の周知を図り、志願者の増加に努めていく。

受験雑誌等の様々な媒体を活用した広報活動については、資料請求のルート进行调查・確認のうえ、その有効性について精査し、効果的な媒体による広報活動を展開することで、受験生、保護者および高等学校関係者の本学への理解を深め、最終的に志願者の増加、合格者の歩留まり率の向上を図り入学定員の確保に結び付くよう取り組んでいく。

2-2 教育課程及び教授方法

《2-2の視点》

2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化

2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

(1) 2-2の自己判定

基準項目 2-2 を満たしている。

(2) 2-2の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化

本学は、九州共立大学学則第1条において、その目的を「教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成することを目的とする。」と定めている。この教育目的ならびに本学のビジョン「社会に適応できる自立した職業人を養成する大学を目指す」を踏まえて、本学では、全学共通の学位授与方針(DP)を定め、その実現のため、全学共通の教育課程編成方針(CP)を定めている。【資料 2-2-1】

「学校教育法施行規則」(平成 29(2017)年 4 月 1 日施行)の改正により、全ての大学等において、教育上の目的を踏まえた「三つのポリシー(DP・CP・AP)」を策定・公表することが義務化され、参考指針として「卒業認定・学位授与方針(ディプロマポリシー)」「教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)」及び「入学者受入れ方針(アドミッションポリシー)」の策定及び運用に関するガイドラインが提言された。本学の三つのポリシーについては、ガイドラインで示されている三つのポリシーの一体的な策定の意義、策定に当たり留意すべき事項および運用に当たり留意すべき事項等を踏まえ、本学で定めている三つのポリシーを継承しつつ、ガイドラインで求められている一貫性、整合性、明瞭性、具体性の観点から見直しを行った。

また、各学部においても、全学共通の教育方針と各教育課程との関連を明確にするために、人材養成および教育研究上の目的等を学部の専門性や特色に応じて具体的に定め、その目的等を踏まえて、学部ごとの学位授与方針(DP)および教育課程編成方針(CP)を定め、本学ホームページや各種印刷物で明示している。【資料 2-2-2~8】

【全学共通】

全学共通の学位授与方針(DP)は、「社会人として自ら探求し、何事にも進んで取り組み、自らの責任で事が成せる」「職業人として豊かで幅広い心を持ち、実りある人生を送ることができる」「社会人として人と向き合えるコミュニケーション能力および職業人としての基礎的な力を兼ね備えている」の三つであり、本学は自らを「職業人養成 教育大学」と位置付け、即戦力で自立した職業人を養成することを目的としている。

この学位授与方針(DP)を実現するための全学共通の教育課程編成方針(CP)は「自律・自立できる社会人の養成科目の配置」「社会人として幅広い教養育成科目の配置」「専門的知識と実践力を身につける科目の配置」「学問領域を超えた学際的な知識修得科目

の配置」であり、この方針を教育課程に反映させている。

【経済学部】

経済学部は、九州共立大学学則第3条の2において、その目的を「学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適応できる、幅広い職業人を養成することを目的とする」と定めている。併せて、多様な目的意識を有する学生に、経済学領域、経営学領域の基礎を習得させるとともに、知識基盤社会において必要な「課題追求能力」「総合的判断能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「実践力」「調整能力」を有する人材の育成を目的としており、それを実現するために下記の教育目標を掲げている。

1. 自らを律する(自律)能力を培う教育を目指します。
2. 自分の考えをつくる(創造性)教育を目指します。
3. 総合的能力(総合的判断力・コミュニケーション能力等)を培う教育を目指します。
4. 情報化社会に対応できる教育を目指します。
5. 国際化に対応できる教育を目指します。

この教育目的および教育目標を踏まえて、経済学部の学位授与方針(DP)および教育課程編成方針(CP)を定めて明確化している。(表 2-2-1・表 2-2-2)

【スポーツ学部】

スポーツ学部は、九州共立大学学則第3条の3において、その目的を「学是「自律処行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする」と定めている。併せて、自己理解の基に、他者との協調性、寛容性、社会性、コミュニケーション能力を育み、リーダーシップの取れる人材の育成を目的としており、それを実現するために下記の教育目標を掲げている。

1. 学是「自律処行」の精神を体現し、的確な判断力と高い徳性を有するスポーツ指導者・健康づくり指導者養成のための教育を行う。
2. スポーツ技能向上に関する研究を推し進め、競技力向上、並びに高度のコーチング・トレーニング理論の教授が可能な教育体制を構築する。
3. スポーツ外傷・傷害とリハビリテーションやトレーニングに関わる研究を通して、競技者を支えることを目的にした教育を行う。
4. 青少年の発達段階に対応したスポーツ技能・体力向上・健康保持・増進を目的とした研究を地域の教育機関と連携して推進する。
5. 国民の健康の保持・増進のための運動や高齢者の健康づくりについての研究に基づき、質の高い教育指導を実現する。
6. インターンシップ等の学外実習や、市民参加型のスポーツクラブの展開などにより、地域社会に密着した活動を行う。

この教育目的および教育目標を踏まえて、スポーツ学部の学位授与方針(DP)および教育課程編成方針(CP)を定めて明確化している。(表 2-2-1・表 2-2-2)

表 2-2-1 学位授与方針 (DP)

学位授与方針 (DP) (ディプロマポリシー)	
九州共立大学は、以下の目標を達成して卒業する学生に学位を授与します。 1) 社会人として自ら探求し、何事にも進んで取り組み、自らの責任で事が成せる。 2) 職業人として豊かで幅広い心を持ち、実りある人生を送ることができる。 3) 社会人として人と向き合えるコミュニケーション能力、および職業人としての基礎的な力を兼ね備えている。	
経済学部	上記の大学 DP (学位授与方針) に、経済学部の達成目標として以下の項目が加わります。 1) 経済学および経営学 2 領域の学問体系の基礎を理解している。 2) 知識基盤社会で活躍しうる「幅広い教養」、および卒業後も自律・自立して学修できる「生涯学習力」を身につけている。 3) 国内外において職業を通して社会貢献できる力を身につけている。
スポーツ学部	上記の大学 DP (学位授与方針) に、スポーツ学部の達成目標として以下の項目が加わります。 1) スポーツ指導者・健康づくり指導者としての的確な判断力による理性的な行動ができる。 2) スポーツ指導者・健康づくり指導者として幅広い教養を持ち、他者との協調性、他者への寛容性を身につけている。 3) 国内外において積極的にボランティア活動を実践し、社会に貢献できる。

表 2-2-2 教育課程編成方針 (CP)

教育課程編成方針 (CP) (カリキュラムポリシー)	
九州共立大学は、学生が上記 DP (学位授与方針) の目標を達成できるよう、以下に示す教育方針で教育課程を編成し科目を設置しています。なお、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を可能な限り行います。 1) 自律・自立できる社会人の養成科目 2) 社会人として幅広い教養育成科目 3) 専門的知識と実践力を身につける科目 4) 学問領域を超えた学際的な知識修得科目	
経済学部	経済学部は、上記大学 CP (教育課程編成方針) を以下の教育課程 (科目編成) で具体化しています。 1) 経済学および経営学の 2 領域についての基本知識の修得科目 2) 経済学・経営学 2 領域にまたがる専門的知識の修得科目 3) 経済学・経営学専門分野の学修および資格取得科目 4) 上記 1)～ 3) で学んだ知識の実践的学修科目 これらの科目を通して国内外において活かせる「課題探求能力」「課題解決能力」「調査・分析能力」「コミュニケーション能力」「実践

	力」「調整能力」を育みます。
スポーツ学部	<p>スポーツ学部は、上記大学 CP(教育課程編成方針)を以下の教育課程(科目編成)で具体化しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ指導者・健康づくり指導者として身につけるべき競技・健康・生活・社会貢献全般についての知識修得科目 2) スポーツにかかわる専門領域の知識修得科目 3) 各種スポーツの実技科目 4) 上記 1)～ 3)で学んだ知識の実践的学修科目 <p>これらの科目を通して国内外において活かせる「協調性」「社会性」「リーダーシップ」「コミュニケーション能力」「礼節とマナー」「指導者能力」「課題探求能力」「課題解決能力」を育みます。</p>

以上のことから、本学の教育課程は、教育目的を踏まえた教育課程方針が明確化されている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-2-1】九州共立大学学則 【資料 F-3】と同じ

【資料 2-2-2】大学ホームページ(大学案内⇒教育方針)

【資料 2-2-3】平成 30(2018)年度入学試験要項 【資料 F-4】と同じ

【資料 2-2-4】平成 29(2017)年度学生便覧 【資料 F-5】と同じ

【資料 2-2-5】平成 29 年度経済学部講義要項(シラバス) 【資料 F-12】と同じ

【資料 2-2-6】平成 29 年度スポーツ学部講義要項(シラバス) 【資料 F-12】と同じ

【資料 2-2-7】平成 29(2017)年度経済学部履修ガイド 【資料 F-12】と同じ

【資料 2-2-8】平成 29(2017)年度スポーツ学部履修ガイド 【資料 F-12】と同じ

2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

(1) 教育課程の体系的編成

本学では、平成25(2013)年度に出された学長方針「九州共立大学における教育課程改革の方針」に従い、評議会の下に設置されている全学的な「教務委員会」および各学部、共通教育センターに設けられた「学部等教務委員会」を中心として、本学の教育課程編成方針に沿ったより有効性のある教育体制を構築するために、教育課程の改革に取り組んできている。また、特に学部の教育課程を中心とした教育体制の改革については、評議会の下に別途、学部の改革を検討するための「学部改革検討部会」を設置している。その取り組みにより、全学共通の教育課程編成方針(CP)に掲げる「自律・自立できる社会人の養成科目の配置」「社会人として幅広い教養育成科目の配置」「学問領域を超えた学際的な知識修得科目の配置」に沿った科目群を全学共通科目(総合共通科目、自由選択科目)として、「専門的知識と実践力を身につける科目の配置」ならびに各学部の教育課程編成方針(CP)に沿った科目群を専門教育科目として開設している。

【資料2-2-9～13】

専門教育科目については、学生に高い専門性を修得させるとともに、自発的思考を基に自らの将来像を早期から描き、学位授与方針(DP)に沿った人材を養成するため、各学部の特色を踏まえた科目群を設定し、各授業科目を各科目群に分類している。経済学部

においては、目指す資格や身に付けるスキルおよび知識を学修成果(アウトカム)として明確化し、自ら身に付けたい能力を思考して科目順次性に従って履修させるため、一定の学修成果を意識した科目の集合体を「領域」とし、6領域を設定している。スポーツ学部においては、進むべきルート(コースおよび免許・資格)が選択できる学生の育成を基本理念として、専門性を強めた科目群を「コース」とし、4コースを設定している。

【資料2-2-14~17】

さらに、学位授与方針(DP)を見据えて、全授業科目に係る体系的・有機的連携を明確化し、学生に身に付けさせる知識・能力と授業科目との間の対応関係を示して体系的な履修を促すために、履修系統図としての「カリキュラムマップ」および「カリキュラムツリー」を学部ごとに策定している。「カリキュラムマップ」においては、各授業科目について、シラバスから授業概要および授業の到達目標のカリキュラムを示すとともに、教育目標の中でその授業科目が重視する項目を設定し、教育課程編成方針(CP)との関連を明確にしている。また、各授業科目について、「カリキュラムツリー」における科目群ならびにその科目群内における位置付けを簡潔に表す「科目ナンバリング」を整備し、授業科目の系統性を明確にしている。【資料2-2-18~21】

また、本学では、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定め、両学部ともに、年間履修登録単位数の上限を、1・2年次生については46単位、3・4年次生については48単位とし、1学期の履修登録単位数を、4年次生を除き年間上限の半数を原則とし、30単位を超えることはできないとしている。この履修登録単位数上限の適切性ならびに履修指導等の学修支援については2-4に詳述するが、上限を定めて学生が適切に履修することを踏まえて、各年次・各学期に「必修科目」「選択科目」「自由選択科目」を適切に配当し、併せて開講する授業科目数のスリム化を念頭において各系統の授業科目を編成している。【資料2-2-16~17】

このように、各学部における教育課程を教育課程編成方針(CP)に即して体系的に編成しており、その詳細は以下の通りである。

【全学共通】

全学共通の総合共通科目および自由選択科目は、全学共通の教育課程編成方針(CP)に沿って、各学部の専門教育と総合的に連携する形で、社会で活躍するために必要な力＝“人間力”の向上のための教育課程を主体にした授業科目群で編成している。

特に、本学の「職業人養成 教育大学」としての位置付けならびに初年次における高大接続の必要性を踏まえ、幅広い職業人養成のための学生の社会的職業的自立支援・資格取得支援を含むキャリア教育科目、学習・生活の両面において、高校生を大学生へ円滑に移行させるための初年次教育科目などを重視した編成を行っている。

キャリア教育科目については、総合共通科目区分内のキャリアデザイン領域として、学位授与方針(DP)を見据えて全学共通で必修とし、目的意識の明確化、就職意識の醸成、就職支援を3年次後期まで一貫して行い、基準2-5に詳述するキャリアガイダンスと連携したキャリア支援体制を構築している。加えて、キャリア発展領域を設け、幅広い職業人養成という大学が有する機能をより一層強化するために、学生の社会的職業的自

立支援・資格取得支援を含む科目として「スキルアップ講座A～M」を選択科目として開設している。

初年次教育については、入学直後の学生に対し、高校から大学への円滑な移行を図るとともに、各学部の特性に基づき2年次以降のコースや専門領域選択を視野に入れた独自の授業展開をし、4年間を通じて体系的に学修する教育課程の導入的役割を果たす科目を開設している。特に、「福原学」と銘打った本学独自の科目においては、初年次教育を主目的としつつ、自校史の学修などを行うことにより本学の帰属意識や学友との仲間意識の涵養に努めている。また当該科目は、少人数構成によるクラスアワーの意味合いも有し、総合共通科目の基礎的重要科目として「総合共通コア科目」領域区分としている。

さらに、幅広く教養を身につけるという観点ならびに学部の枠を超えて他学部の専門科目を履修することを踏まえて、自学部の各履修区分において卒業要件単位数を超えて履修した科目および他学部の専門教育科目の履修科目などの単位を卒業要件単位数に算入できるよう、科目区分として「自由選択科目」を設置している。

外国人留学生用の日本語教育科目については、「留学生特別科目」として科目区分を明確化して編成している。留学生に対しては、入学時に日本語プレイスメントテストを実施しており、日本語能力に応じたきめ細かいクラス編成による日本語教育科目を受講させている。特に、初級の日本語教育の授業科目を充実させるとともに、日本語能力のキャリアアップを目的とした「スキルアップ講座N～Q」を配置している。【資料2-2-16～19】 【資料2-2-22～23】 【資料2-2-24】

【経済学部】

経済学部においては、専門教育科目を、目指す資格や身に付けるスキルおよび知識を学修成果(アウトカム)として明確化した6領域(科目群)に分類し、学部の教育課程編成方針(CP)に沿った教育課程を体系的に編成している。学生は、各領域の学修成果を理解し、自ら身に付けたい能力を思考し、科目順次性に従って履修させるため、各領域におけるキャリア別の履修モデルを作成している。これにより、学生は領域には所属せず、領域は一定の学修成果を意識した科目の集合体であり、学生は自らの興味や資格取得・進路選択を念頭に科目を履修できるものとしている。

経済学部の領域ごとの学修成果(資格等)は、以下の通りである。

	領 域	学修成果 (資格等)
①	生活経済領域	大学院進学、教員・学校職員、公務員、一般企業、経済学検定 等
②	金融・会計領域	銀行・証券・保険、公認会計士、税理士、国税専門官、ファイナンシャルプランナー技能検定、日商簿記検定 等
③	公共マネジメント領域	公務員(国家・地方・国税・海保・警察・消防・自衛官)、NPO職員(スポーツ・環境・福祉)、大学職員、病院事務職員 等
④	経営管理領域	一般企業(販売・物流・運輸・不動産・サービス他)、経営

		学検定、販売士、MOS、ISO環境 等
⑤	スポーツビジネス領域	スポーツメーカー・小売店、球団職員、イベント関連会社、イベント検定、体育施設管理者 等
⑥	ビジネス実務領域	ホテル・旅行会社、アパレル・ファッション業界、航空会社、医療・福祉業界、秘書検定、サービス接客検定、ビジネス系検定、国内・総合旅行業務管理者、TOEIC 等

このように学修成果を重視した教育課程編成により、6領域に必要となる授業科目を配置するとともに、資格・免許との対応性を明示している。これにより、社会で即戦力となる能力の育成を目指すものとし、社会人基礎力として必要とされている汎用的な情報処理能力や英語力を中心に据え、教養教育と連動して専門教育においても展開することで、実社会に必要な能力を身に付けさせることとしている。

学生は領域には所属しないので、2つ以上の領域の科目群を履修していくことが可能であり、学生の興味や関心に合わせて、各人の進路目標や資格取得を目指して、6つの領域(科目群)から体系的に科目を選択して学ぶことができるようになっている。主に1つの領域で学んでいる学生が、他の領域も複数並行して学ぶことも可能であり、より多様な選択肢に対応できることで、幅広い知識・能力のある社会的実践力を身に付けた人材を養成すること目的としている。

また、経済学部では、教育課程編成方針(CP)における実践的学修科目として、学生の社会的・職業的自立に必要な資質能力の涵養を目的とした参加型講義の授業科目「ワークショップ」を、1年次から4年次まで年次進行を踏まえて、体系的に配置している。授業科目「ワークショップ」においては、地域連携・地域貢献をテーマに、用意されたプロジェクトから複数選択し、学生が課題解決の意識を高める機会を提供している。具体的には、地方公共団体や公共性・公益性が高い企業において、ボランティア活動を行い、そこで自分自身の強みや弱みを認識するとともに、現状を把握する能力・コミュニケーション能力・課題発見能力の育成を図り、知識・技術の習得・活用について学ぶことを目的としている。【資料2-2-14～15】 【資料2-2-16】 【資料2-2-20】

【スポーツ学部】

スポーツ学部においては、学生に高い専門性を修得させるとともに、自発的思考を基に自らの将来像を早期から描き、卒業後の進路を明確にして、進むべきルート(コースおよび免許・資格)が選択できる学生の育成を学部の基本理念としている。この基本理念を踏まえて、学部の学位授与方針(DP)ならびに教育課程編成方針(CP)を定め、それらの方針に沿って、4コース体制の教育課程を編成している。

各専攻コース選択の意義を明確にするため、コースの垣根を高くすることで専門性を強め、「スポーツ総合コース」を学部として必要な分野を網羅する総合的学修の中核的コースとして位置付け、より細分化した専門的資格取得を目的とした「スポーツ教育コース」(教員免許等)、「スポーツトレーナーコース」(アスレティックトレーナー等)、「健康フィットネスコース」(健康運動指導士等)の3コースを設定している。

各コースにおいては、講義科目、実技・実習科目、演習科目を適切に配置することに

より、座学のみでなく、多種多様な実験・実習科目を配置し、自らが行動し体験することによる学修が可能となるよう、実践的な教育方法を採用している。また、各コース、ゼミで研究した学業成果を「卒業研究」（必修科目・8単位）として結実できるように体系的に配置している。

このようにスポーツ学部の専門教育においては、各コースの特色に応じた理論と実習を兼ね備えた教育課程で、知識や技能はもとより、体力・精神力、各スポーツ関連分野で求められる即戦力となる人材育成を行っている。【資料2-2-14～15】 【資料2-2-17】 【資料2-2-21】

(2) 教授方法の工夫・開発

① 初年次教育における工夫

本学では、入学直後の学生の意識を高等学校から大学に円滑に移行させるため、初年次教育を重視した教育課程を編成している。

全学共通の総合共通科目について、初年次教育を主目的として「福原学」および「職業とコミュニケーション」において、大学での学びの方法理解、主体的学修の起点としてノートの取り方、レポートの書き方、図書館の利用法などの内容をはじめ、本学の歴史について、建学の精神を正しく理解するための自校史に関する講義も行っている。

特に「福原学」においては、入学直後より本学で学ぶための帰属意識や仲間意識を涵養するために、また少人数クラスに配属してクラスアワーの意味合いも持たせている。

各学部において、学部の特色を踏まえた内容で実施している初年次教育(入学時オリエンテーションを含む)の詳細は以下の通りである。【資料2-2-16～17】 【資料2-2-25～28】

【経済学部】

経済学部においては、総合共通科目の「福原学」および「職業とコミュニケーション」を、学生の大学生活への順応を手助けする科目として位置付け、経済学部所属の教員が1年次の学生を担任形式で受け持ち(16クラス)、履修指導、修学・生活指導、専門科目を受講する上での予備知識、レポートの書き方等に至る導入教育等を行うとともにビジネス・パーソンをめざす者としてのマナーや心構えを培っている。また、学期の終わりには、ミニ論文の作成と報告・プレゼンテーションをグループ単位で実施し、自主的な学びの喜びを学生自身が感じるように教育している。

経済学・経営学の基礎教育を展開していくにあたっては、一つの基礎科目につき、複数の教員を担当させるとともに、1年次よりホームクラス制を導入し、少人数編成による授業を実施して、学生一人ひとりに対して、履修指導や大学生・職業人としての考え方、在り方などきめ細かく対応するようにしており、学ぶ意欲が希薄な学生への配慮も行うこととしている。また、経済学部の全体像を学生に理解させ、履修方法、学生生活、友達づくり支援等を目的とした新入生宿泊研修を、1泊2日で入学直後のオリエンテーション行事の一環として継続実施している。

【スポーツ学部】

スポーツ学部においては、原則として毎週1回(現在水曜日)1時限目が始まる前に、全教員参加の下、1年生を対象とした朝礼をスポーツ学部の恒例的行事として通年実施している。これにより、スポーツを学ぶ者としての基礎、特に人間力の向上、他者との協調性、他者に対する寛容性を培い、的確な判断力、コミュニケーション能力、行動力、実践力を培う教育を行っている。また、新入生宿泊研修についても、1泊2日の学外宿泊研修を入学直後の新入生オリエンテーションの一環として継続して実施しており、これらの本学部独特の「社会人としての人間力向上」の徹底教育は1年次スタート時から始まっている。これらの取り組みにより、大学4年間を通して、礼節、感謝、謙虚な心を養い、挨拶の徹底を行い、また集団行動やボランティア活動などを通して協調性や仲間意識、基本的なマナー、社会性を身に付けさせるようにしている。

② シラバスを活用した教授方法および内容の周知

学生に対して、授業の方法および内容ならびに授業計画を詳細に明示するシラバスを作成している。そこでは、授業科目ごとにその授業が重視する教育目標を示し、学位授与方針(DP)に基づく授業の到達目標が示され、学生に対して、各授業科目の学修に係わる評価の基準を明示している。

また、シラバスには、1単位の授業科目に必要な45時間の学修を考慮して、各回授業の予復修課題も記載して授業時間外に必要な学修等を指示し、単位の実質化を図っている。さらに、学生が授業時間外の学修を適切に行えるように、教員は当該授業の内容を授業終了後ただちに記録し、予修・復修のポイント、事前事後学修の指示確認、課題の確認や欠席授業の資料等を、学生が学内のパソコンから自由に閲覧できる「シラバスオンライン」を整備し、学生の学修時間の実質確保の一助としている。加えて本学では、各授業科目について、当該科目担当者とは別の教員がシラバスの校閲を行う「シラバスコーディネーター」を配置し、科目名称と授業内容ならびに到達目標と教育目標等の適切性、複数コマ開講の同一科目の内容等の統一化、当該科目と関連する科目の授業内容の連続性、成績評価方法の適切性などについて、第三者の視点で確認と点検を行う仕組みを整備し、平成20(2008)年度から継続して運用している。

シラバスオンラインおよびシラバスコーディネーターの詳細については基準2-3ならびに基準2-4で詳述する。

③ 教授方法の改善を進めるための取り組み

本学では、評議会の下に「九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会」を設置し、建学の精神および教育理念を目的に立脚した教育の質的向上に資するために組織的な研修および研究の取り組みを推進している。

「授業評価アンケート」を平成10(1998)年度から継続して実施している。詳細は2-6で述べるが、アンケートは毎学期末に非常勤も含めた全教員・全授業科目に対して実施し、その集計結果を踏まえてアンケートを実施した全教員に「授業改善報告書」の提出を求め、次期の授業方法の改善へフィードバックする取り組みを行っている。さらに、各授業における日常的な評価に対するタイムリーな授業改善の重要性に鑑み、学期途中でミニアンケートを平成25(2013)年度から追加導入している。ミニアンケートは、特に

様式を定めず、授業期間途中での学生からの授業に対する意見・要望等を徴することで、その時点での授業の振り返りや改善を可能とし、指摘された内容を次回以降の授業展開に即座にフィードバックできるようにするものである。

さらに、授業方法の改善および資質向上を図るため、授業を展開するにあたり留意すべき基本的姿勢や考え方、授業改善等の取り組み事例ならびに関連各種資料やデータを冊子にまとめた授業マニュアル「FDハンドブック」を平成27(2015)年度4月から刊行し、全教員に配付している。当該ハンドブックは、全学的な情報共有化を通じた、FD(Faculty Development)の実質化の一助として、教育内容・方法の改善に活用されている。

また、具体例を参考にして教授方法の改善を図る目的で、すべての教員が他の教員の担当授業を参観する「教員の授業参観」を行い、授業参観記録の提出を求める取り組みも実施している。【資料2-2-29～30】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 2-2- 9】「九州共立大学における教育課程改革の方針」「九州共立大学・九州女子大学における共通教育改革の基本方針」(H25. 6. 19 教授会資料)
- 【資料 2-2-10】九州共立大学評議会規則
- 【資料 2-2-11】九州共立大学教務委員会規程
- 【資料 2-2-12】「平成 26 年度 経済学部改革検討部会の設置について」他(教授会資料等)
- 【資料 2-2-13】「平成 26 年度 スポーツ学部改革検討部会の設置について」他(教授会資料)
- 【資料 2-2-14】九州共立大学 2018 年度大学案内 【資料 F-2】と同じ
- 【資料 2-2-15】九州共立大学学則 【資料 F-3】と同じ
- 【資料 2-2-16】経済学部履修規程 ※平成 29 年度学生便覧 【資料 F-5】に記載
- 【資料 2-2-17】スポーツ学部履修規程 ※平成 29 年度学生便覧 【資料 F-5】に記載
- 【資料 2-2-18】平成 29 年度 経済学部講義要項(シラバス) 【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-2-19】平成 29 年度 スポーツ学部講義要項(シラバス) 【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-2-20】経済学部 カリキュラムツリー・カリキュラムマップ・科目ナンバリング
- 【資料 2-2-21】スポーツ学部 カリキュラムツリー・カリキュラムマップ・科目ナンバリング
- 【資料 2-2-22】平成 29 年度 経済学部自由選択科目一覧
- 【資料 2-2-23】平成 29 年度 スポーツ学部自由選択科目一覧
- 【資料 2-2-24】平成 29 年度前期プレイスメントテスト実施要領(日本語)
- 【資料 2-2-25】平成 29 年度前期オリエンテーション・ガイダンス日程表
- 【資料 2-2-26】平成 29 年度前期オリエンテーション・ガイダンス配布資料
- 【資料 2-2-27】平成 29 年度前期授業時間割(抜粋) 経済学部・スポーツ学部
- 【資料 2-2-28】平成 29 年度新入生宿泊研修活動計画書 経済学部・スポーツ学部
- 【資料 2-2-29】九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程
- 【資料 2-2-30】FD ハンドブック 2017

(3) 2-2 の改善・向上方策(将来計画)

本学は大学の機能別分化の明確化の方向性に従い、「職業人養成 教育大学」と自らの位置付けを明確にし、学修成果を重視したより実学的な職業人養成にふさわしい教育課

程の改革に着手し、平成 28(2016)年度までに全学共通の共通教育科目も含めた全学部の教育課程の改革を行った。これらの改革については今後、年次進行管理と運用実態等の検証ならびに評価を行っていく。

さらに、学位授与方針(DP)と教育課程編成方針(CP)に基づいた科目の編成ができるように今回整備を行った履修系統図(カリキュラムマップ・カリキュラムツリー・科目ナンバリング)の点検も行い、教育課程の体系性をより明確に示すとともに、改善検討を進める。また、現在実施している授業評価アンケートの結果を基にさらに詳細な学生の学修時間の動向実態や学修行動の把握を行い、全学的な IR(Institutional Research)活動として分析を進める。

加えて、各学部の教育課程課程を通じた学修成果の把握をするためのアセスメントテストの体系化や、卒業時の学生の学修成果を社会に提示するための手法の開発などの具体的な質保証の取り組み強化の方法等も検討を進めていく。

このように今後も継続的に、大学として使命を果たせるよう学士課程教育における趣旨を点検し、学部の教育目的を踏まえ、さらなる「学士力」育成のための教育の改善・向上策を検討していく。

2-3 学修及び授業の支援

《2-3 の視点》

2-3-① 教員と職員の協働並びに TA(Teaching Assistant)等の活用による学修支援及び授業支援の充実

(1) 2-3 の自己判定

基準項目 2-3 を満たしている。

(2) 2-3 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

2-3-① 教員と職員の協働並びに TA(Teaching Assistant)等の活用による学修支援及び授業支援の充実

学長方針に基づく、教職協同体制のもと下記のことを実施している。

(1) 学修支援

学修支援については、平成 15(2003)年 5 月に、学修支援サービス(リメディアル教育・学生相談・資格取得など)の実施と学習意欲向上を目的とした「学習支援センター」を設置し、それまで個々の常勤教員が自主的に行ってきた学修支援を組織的に実施する体制を構築した。また、個別指導を充実するために平成 29(2017)年 4 月から職員を増員した。

① オフィスアワー(授業理解支援を含む)

学生生活や授業等に関する相談に対応するため、学生が来室しやすい「昼休みの時間帯を含んだ 90 分(11 時 30 分～13 時または 12 時 30 分～14 時)」に設定し、学内掲示板や研究室ドア、資料配付などを行い学生へ周知している。

常勤教員は、授業と同様に学期ごと 15 回の実施、また、非常勤講師も常勤教員の在室

時間帯に代わる対応方法(授業終了後対応、コメントカードの活用、メール対応等)により実施している。【資料 2-3-1~2】

② やる気支援

有志常勤教員による任意の取り組みであり、実施内容や回数・期間については教員に一任している。約半数の常勤教員が参画しており、資格取得や教員採用試験、就職試験等に向けた学生のやる気・知識・技能を向上させる実施内容となっている。また、平成 29 (2017) 年 4 月からは、学生が取り組みやすいプログラムを取り入れて実施している。

これらの学修支援状況は、「オフィスアワー支援記録書」や「やる気支援記録書」にて学習支援センターへ報告される。この記録書は、実施内容や受講学生の状況を把握し、学修支援の利用促進に役立てるとともに「キャンパスマイレージ制度」のポイント付与にも併用している。このキャンパスマイレージ制度は、多様化する学生を自発的に行動する学生へと成長させ、大学生活を有意義に過ごしてもらうことを目的として、平成 22(2010)年度より導入し、授業科目とは別に学修支援も受講し勉学に励む学生に対して、大学内の施設利用で獲得できるポイント数よりも倍増したポイントを付与し、学生のやる気を促している。【資料 2-3-1】【資料 2-3-3】

なお、学修支援の延べ受講学生数は表 2-3-1 の通りである。

表 2-3-1 学修支援の延べ受講者数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
受講学生数	4,533	7,152	9,683	8,066	12,461

(2) 授業支援

学期ごとに行っている授業評価アンケートについては、ファカルティ・デベロップメント (FD) 委員会の主導により全学的な体制で行われている。アンケートの設問についても全学統一の内容で実施されており、授業担当教員のみならず、その実施・集計処理等に職員も一体となって実施にあたっており、学生の評価・意見の吸い上げに努めている。

授業評価アンケートの集計結果については、業者委託により迅速な分析・提示が可能となっており、その集計結果に基づき、全教員に「授業改善報告書」を提出させ、自らの授業に対する自己点検を可能とする仕組みを構築しており、より組織的な授業改善に繋げている。また、当該学期の授業期間途中での各教員によるミニアンケート実施(実施時期、様式は教員任意：詳細は 2-6-②に詳述)による授業期間中の授業改善の取り組みも行っている。【資料 2-3-4~5】

特に本学では授業評価アンケートの最後に、授業実施に対する学生の意見をアンケートの設問内容に縛られない形で汲み上げる目的で「自由記述欄」を設定している。自由記述がゆえに一部不適切な記入等もあるものの、あえてそこに含まれる重要な学生の意見等を組織的に吸い上げる工夫をすることとしている。【資料 2-3-6】

学長、学部長等はデータ化された自由記述の内容結果について閲覧を行った結果で、必要に応じてその内容を授業担当教員への確認や授業参観等を行うことによって、学生

の意見や要望等を直接、大学のトップが吸い上げ、授業支援・改善等に繋げていく方策を採ることとしている。【資料 2-3-7~8】

加えて、学生の意見・要望を直接収集し学習環境を充実させるために常設の「提案箱」を学舎ごとに設置している。

また、年 4 回程度「キャンパスミーティング」を実施し、学生、学長および大学幹部との懇談の場を設定している。これら直に学生から寄せられた意見については、改善方策を迅速に検討し対応を図ることとしている。【資料 2-3-9~10】

なお、「提案箱」ならびに「キャンパスミーティング」については基準 2-7-②でも詳述している。

TA(Teaching Assistant)等の活用については、経済学部およびスポーツ学部では、教員の教育研究活動を直接支援するための TA および SA(Student Assistant)は制度化されていないが、平成 26(2014)年度から平成 28(2016)年度まで、特別教育研究制度を活用し、担当教員の指導の下、授業経験のある上級生に演習授業での教育補助を行わせた。

【資料 2-3-11】スポーツ学部では「サポート学生制度」を導入し、公募に応じた 2~4 年生(平成 29(2017)年度は 42 人が参加：4 年生 15 人、3 年生 17 人、2 年生 10 人)が新入生学外研修における集団行動の模範演技および指導、履修指導のアドバイスを行っている。同制度は宿泊研修の 1 ヶ月前より行われる、教員による事前レクチャー(5 日間)、学生による自主練習(1~2 週間)、教員による最終確認(1 日)を経て、指導学生のスキルアップ、指導法の習得といったサポート学生自身への教育も一つの目的となっている。新入生宿泊研修を経験した学生の多くがサポーターとしての達成感を感じるとともに、教育的な活動、指導的な活動への関心を高め、前期・後期に実施される新入生の朝礼にもサポート学生として参加し、集団行動、学歌指導などを行っている。経済学部においても例年、上級生メンバーが新入生宿泊研修に同行して、新入生に履修指導を行っている。上級生メンバーは、履修登録補助の他に、研修準備作業、クラス担任の指導補助、研修中のレクリエーションの計画・実行などを行っている。【資料 2-3-12】

また、総合共通科目の受講者が 100 人を超える授業については、TA に代わるものとして授業出席管理補助の学生アルバイトを担当教員の希望に応じて授業科目に配置(各学期延べ 6~7 人程度)しているほか、スポーツ学部では、実技・実験を補助するため、助手 5 人を配置するなど、授業支援の体制を整えている。【資料 2-3-13】

教職協働という観点からは、本学事務組織において教務部、学生支援部、就職支援部および入試広報部には、教員から選出された各部長が就任しており、各事務室内に部長席を設けいつでも執務が可能なように整備している。各部長と関係事務職員は常日頃から相互に意見等を密に交わし、教育研究に係る諸課題を速やかに解決・実行できる体制を整えている。

なお、平成 29(2017)年度から、教務部(教務課)、学生支援部(学生支援課)、就職支援部(就職支援課)および入試広報部(入試広報課)を教務部(教務課、入試広報課)および学生支援部(キャリア支援課)へ組織改編を行ったが、引き続き教員から選出された部長を配置する体制を継続している。【資料 2-3-14】

各種の専門委員会については、従来は教員のみで構成され事務職員は委員会事務のみを担っていたが、平成 21(2009)年度より各種委員会の要綱を改正し、全学体制での教職

協働体制を推進し教育研究支援を積極的に行うため、事務職員を構成員に加えている。

また、学部ごとには事務職員(パートタイマー)を配置し、教育研究に係る経理処理等の事務を担当することで、円滑な学部運営に寄与している。近年、外部の競争的資金の積極的な獲得に向けて、申請業務や実績報告書等の作成事務が増大しており、これに対応するため事務担当部署(総務課)を決めて所掌することとした。さらに外国人留学生の修学や生活指導については、学生支援課(平成29(2017)年度よりキャリア支援課)ならびに国際交流・留学生支援室において事務職員と教員が支援指導に従事している。

このように、事務職員を各種専門委員会に構成員として加えるなど、全学的な取り組みとして教職協働体制での大学運営や学修支援・授業支援を行うことで、全教職員が一丸となって教育研究に係る事項の企画立案・実施を担うことができ、より細かな支援活動を行うことができている。【資料2-3-15】

さらに本学では、これらの体制に加えて、全学的な授業支援および就学支援のためのシステムツールとして、学務情報システムの「学生カルテ(キャリアシート)」「出席管理システム」「シラバスオンライン」というシステムが構築されている。

① 出席管理システム

学生の授業への出席状況を把握することは、厳正な成績評価・単位認定に不可欠であるのみならず、学生への生活指導においても非常に有用である。このため本学では、学生の出席状況の把握を正確かつ効率的に行うため、「出席管理システム」を平成17(2005)年度より導入し、出欠記録をデータとして登録・管理している。

授業担当者は毎授業時に、出席カード、点呼またはPDA(Personal Digital Assistant)端末による学生証の情報読み取り方式で出席者を調査し、その出欠データをシステムに登録する。登録データは自動的に集約され、帳票化される。この帳票は、学生本人および授業担当者はもとより、学生が所属する学部の教職員が閲覧・印刷することができ、学期途中に保護者宛てにも出席状況を送付し、学生の就学状況の確認を促している。

本業務については、授業担当教員の出欠管理のみならず、このデータを基に、教務課、学習支援センターとクラス担任やゼミ担当教員等が連携し、出席不良学生の早期発見、学生の出席状況把握による就学支援や面談等を随時行う体制となっている。【資料2-3-16~17】

② シラバスオンライン

本学では、通常のシラバス(冊子)に加えて、Web上で確認できる授業記録「シラバスオンラインシステム」を導入している。このシステムは、平成20(2008)年度後期より導入開始し、全学的な授業支援ツールとして、常勤教員、非常勤講師ともに利活用している。冊子のシラバスを単にWebに掲載するだけではなく、毎回の授業の記録ツールとして活用し、学生に対する授業のアフターケアや、授業の振り返りとしてシラバスに沿った授業展開のチェック等も効果的に行うためのものであり、ファカルティ・ディベロップメント委員会主導により、原則、全講義科目の授業記録として活用することとしている。

利用にあたっては、より効果的に行うために、教員には授業終了後ただちに実施した授業について記録することとし、記録された内容は学内のパソコンから自由に閲覧できるようになっている。このシステムの導入により学生は、予修・復修のポイント、事前事後学修の指示確認、課題の確認や欠席授業の資料等の閲覧が可能となっている。

また、教員は、シラバスと毎回の授業を比較することにより、常に授業を振り返り授業改善を図るとともに、シラバスを常に意識した授業展開を従来にも増して心がけるようになった。特に、単位の実質化に向けて、教室外での事前事後学修の学生への適時的確な指示を与える事ができ、このシステムの利活用により学生の学修時間の実質確保の一助ともなっている。【資料2-3-18～20】

(3) 退学防止

退学者問題に取り組むため、各学部のクラス担任やゼミ担任による学生面談実施・記録および学習支援センターによる全学生の週間出席率の情報提供等での就学状況の情報の共有化や、全学教務委員会での履修未登録者への対応指示、4年次生の履修・成績チェックのルーチン化等、教職協働による各種の取り組みにより、退学予備軍の早期発見・早期対応にあたっている。

各学部においては、クラス担任やゼミ担任が随時受け持ち学生と面談を行い、生活面から就学指導、今後の方向性等、可能な限り学生との関わりを持つよう努めている。学生との面談後、所見を学務情報システム「Campusmate-J」の「学生カルテ」（電子化された学生カルテ）に記録することにより、担任以外の専任教員や事務職員も学生の現況について情報を共有することができるようになっている。【資料2-3-21】

また、前述のように、全学的に「出席管理システム」を導入しており、すべての授業の出席状況が授業実施翌日にはデータベースに集約されるため、このデータを基に全学生の週間出席率の推移を学習支援センターにおいて毎週集計し、集計結果をすべての専任教員ならびに事務職員（管理職および部活動指導者）に向け毎週メール配信している。このことにより、学生の出席状態を容易に把握することができるため、面談時等にも活用できる仕組みとなっている。

これらの取り組みによる具体的な効果は、退学率（除籍者も含む）の低下にみることができる。下表のように、平成23(2011)年度に大学全体で5.40%であった退学率は、平成28(2016)年度には3.92%と各年度の若干の上下動はあるものの減少傾向にある。このように、学生カルテや出席管理システムと連携する形で実施した教職協働による就学・生活指導等の施策が功を奏したものといえる。【資料2-3-22】

表 2-3-2 退学率推移表（過去5年間・全学・除籍者含む・5月1日現在在籍者数比）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
退学者数	60	79	65	76	89
除籍者数	48	30	28	18	27
合計数	108	109	93	94	94
退学率	4.74%	4.91%	4.17%	4.09%	3.92%

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-3-1】 学習支援センター資料

※オフィスアワー一覧、やる気支援時間割、報告書等

【資料 2-3-2】 平成 28 年度 非常勤講師オフィスアワー代替対応表

【資料 2-3-3】 キャンパスマイレージ関係資料（マジカ）

【資料 2-3-4】 九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程・委員会名簿

【資料 2-3-5】 「授業評価アンケート実施について(お知らせ)」

※ミニアンケート導入のお知らせ

【資料 2-3-6】 2016 年度 授業評価アンケート(質問用紙サンプル)

【資料 2-3-7】 平成 28 年度 授業評価アンケート集計結果(自由記述・抜粋)

【資料 2-3-8】 平成 28 年度前期・後期 自由記述欄データ閲覧希望者一覧

【資料 2-3-9】 2017 年度 キャンパスライフ(p.11 提案箱)

【資料 2-3-10】 平成 28 年度キャンパスミーティング実施要項

【資料 2-3-11】 平成 27 年度特別研究費研究報告書

【資料 2-3-12】 平成 29 年度新入生宿泊研修活動計画書

【資料 2-3-13】 出席調査学生アルバイト関係資料

【資料 2-3-14】 平成 29 年度 事務組織配席表

【資料 2-3-15】 学校法人福原学園例規集(各種委員会規則等) 【資料 F-9】 と同じ

【資料 2-3-16】 「担当授業科目受講者の出欠管理について(お願い)」

【資料 2-3-17】 「出席状況について」(保護者宛送付文書サンプル)

【資料 2-3-18】 シラバスオンライン学生周知文書

※平成 29 年度オリエンテーション・ガイダンス配布資料

【資料 2-3-19】 シラバスオンライン入力画面(抜粋サンプル)

【資料 2-3-20】 2016 年度前期・後期シラバスオンライン記入状況調査

【資料 2-3-21】 Campusmate-J 「学生カルテ」(抜粋サンプル)

【資料 2-3-22】 平成 27 年度および平成 28 年度の経済学部・スポーツ学部の退学者・除籍者比較表

(3) 2-3 の改善・向上方策(将来計画)

(1) 学修支援

学習支援センターについては、授業だけでは補えない部分の学修支援や就学支援を行っており、現在のような多様化する学生の志向や資質の向上対応に大変有効な機関である。

非常勤も含む全教員のオフィスアワーの体制整備も加えられ、学修支援活動の利用者は近年かなり増加している。有志教員による「やる気支援」の実施数も増加しており、「職業人養成 教育大学」としての各学部・共通教育の教育課程の再編に合わせ、学位授与方針(DP)を見据えた出口対策の強化の一環として、さらに学生の潜在的な需要を掘り起こし、教員の得意分野とマッチングさせることで、より充実した学修支援内容を提供できるよう努める。

平成 29(2017)年 4 月より、対応強化のために学習支援センター職員の増員を行った。

これにより、学生の出席状況を適時学部へ配信するなど、事務システム等を活用しての継続的発信および情報共有を通じて、学部と密に連携することができ、よりの確で緻密な支援が出来るようになった。このことにより、就学上問題のある学生の抽出、指導強化等をより適時的確に行うことで退学防止等にも繋がってきている。

(2) 授業支援

授業評価アンケートについては、授業改善のための重要な IR データともなるため今後も毎学期に実施する予定であるが、授業評価アンケートの自由記述欄の問題点等の抽出も含め、アンケート結果のより詳細な分析にも取り組むこととし、本学 FD 活動のより具体的な実質化、教育力向上のためのさらなる授業運営の改善へ繋げていくよう検討を進める。

また、学長、部長等の大学幹部と学生との意見交換の場として設定している「キャンパスミーティング」については、より効果的な頻度や開催時期の再検討を進め、様々な学生セグメント別の開催や、より多面的な相互理解を深める場としていく。

出席管理システムについては、厳正な成績評価および就学指導上、非常に重要なシステムとなっている。平成 27(2015)年度には事務システムの新学務情報システム更新に合わせて、出席管理システムのソフト・ハードを一新した。これにより、学生・教務情報データ等と出席データの連動が可能となり、今後のより有効な利活用を目指していく。

シラバスオンラインについては、各教員が各回の授業が終了した後に、当該週の授業の概要を Web 上に記録することで、教員・学生ともに授業の振り返りができるという側面と、事前学修・事後学修の指示や宿題等の課題の確認、また欠席授業の資料等の閲覧や特別欠席の課題指示等もこのシラバスオンラインに示すことで、学生の教室外における学修を効果的に補完することができ、単位の実質化の観点からも有効なツールである。さらなるその利活用の推進のためには、記載内容の充実が不可欠であり、今後は記載内容のチェック・評価や、振り返りによる授業改善への効果の検証方法などへの取り組みを行う。また、平成 25(2013)年度からは、一部の教室で電子黒板を導入しており、板書内容や資料提示等の記録をシラバスオンラインと連動させることも可能となっており、その積極的活用の促進とアクティブラーニングの一環としてより高度な授業展開へと反映させていくこととしている。

また、事務職員に対し、学生・教員から求められる各種支援活動の要望は年々増しており、特定の事務職員に負荷が偏る傾向にあるため、事務職員の人員確保および適材適所への配置をさらに推進する必要がある。併せて、各部局における業務の見直しを継続的に行い、業務の質的改革による効率化を図っていく。

さらには、今後の SD(Staff Development)義務化に向けて、一層の事務職員の資質および大学運営への参画意識の向上のため、FD 推進活動と合わせて、階層別研修や、大学経営・運営等に関する研修内容を充実させ、教員と事務の協働化推進を推し進める。

(3) 退学防止

退学防止の観点から、退学者およびその予備軍になると思われる学生が抱える問題は、過去の事例から、主に①高校と大学との違い(高大ギャップ)、②経済的な問題、③

無目的・不本意入学の三点に起因するものと考えられ、本学ではこれらを解決するためにも、退学予備軍の早期発見、早期対応の重要性に鑑み、初年次の教育システムのさらなる改革が必要であると考え、平成27(2015)年度からの新教育課程で両学部1年次必修科目の「福原学」「職業とコミュニケーション」を中心とした、1科目16クラス編成による少人数の「ホームクラス」制での初年次導入教育科目の運営を始めている。今後はこのホームクラス制による退学防止効果の検証・評価を行うとともに、平成27(2015)年度より導入した新学務教務システムの「学生ポータルサイト」では学生所見記録や出席状況はもちろん、学生基本情報や履修・成績情報等も教職員が随時閲覧できるなどシステムの利便性が向上しており、この利活用を合わせて、個々の学生の状況に応じた的確できめ細かな就学指導・支援策を実施していく。

2-4 単位認定、卒業・修了認定等

《2-4の視点》

2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

(1) 2-4の自己判定

基準項目 2-4 を満たしている。

(2) 2-4の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

経済学部、スポーツ学部とも、一年間の授業を行う期間、単位の計算基準、単位の認定および進級・卒業認定について明確に規定されている。さらに各学部の履修規程においても、関連する項目について詳細に定めており、それらに基づき単位認定、進級および卒業認定等は厳正に適用されている。【資料2-4-1~3】

単位は、履修登録手続きを正しく行い、授業に出席したうえで、シラバスに明記されている各科目の評価基準に従って認定される。

シラバスでは、授業科目ごとにその授業の概要、学位授与方針(DP)に基づく授業の到達目標および授業が重視する教育目標を示し、そのうえで各授業科目の成績評価の方法について、授業到達目標への到達努力の評価と最終到達度の評価の計8項目の基準で100%となるように明示されている。このように単位の認定に関しては、学則および履修規程上で明確に規定されており、シラバスに示す成績評価基準に基づき、厳正に行うようになっている。特に、シラバスには各回授業の予復修課題の内容を記載して、単位の実質化の一助ともしている。【資料2-4-4~5】

また、授業出席については、授業回数15回の内、3分の1を超えて欠席(出席が10回に満たない)した学生は、履修規程に定める試験の受験(単位認定)資格を満たさないものとして「失格」としている。このため出席状況は情報システム上で管理されており、厳正な成績評価を行っている。

成績は、表2-4-1の通りに評価基準の点数に応じて秀、優、良、可、不可で評価され、可以上を単位認定としている。なお、評価基準の点数が不合格で不可となった場合、成績通知書の記載については、評価点数が、0点の場合は「不可×」、出席不良の

場合は「失格」と表記し、不認定となった理由をより明確にすることで、学生の今後の学修改善に繋がるようにしている。また、成績評価はポイント換算し、GPA(Grade Point Average)算出の基礎点として活用している。

学生は、履修登録情報、授業出席情報、成績情報等を、本学ホームページの学生ポータルサイトを利用して、学内外のパソコン端末(学外は期間等により制約あり)から随時確認ができるようになっている。特に、各学期末には学生からの成績についての質問等を受け付ける機会も設定しており、厳正な成績評価と学生への説明に努めている。

表2-4-1 成績評価・GPA換算表

合 否	評価基準	「成績通知書」 評価表示	「成績証明書」 評価表示	G P (Grade Point)
合 格 (単位修得)	100～90点	秀	秀	4.0
	89～80点	優	優	3.0
	79～70点	良	良	2.0
	69～60点	可	可	1.0
不 合 格	59～ 1点	不可	表示されない	0
	0点	不可×		0
	失格	失格		0

本学入学前の既修得単位の認定については、学則第28条により、本学入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができるとしており、編入学、転学等の場合を除き、60単位を超えない範囲で認定をしている。また、在学中に他の大学等で単位を修得した場合および大学以外の教育施設等における学修についても、学則第26条および学則27条により、上述と合わせて60単位を超えない範囲で認定をしている。

進級・卒業等の要件については、学部別に下記の通りであり、各学部の履修規程で定められている。学生便覧に学則と合わせて履修規程を掲載して明示し、ガイダンス時に年間履修上限単位数、進級要件、卒業要件と併せて適切な履修指導を行っている。また、履修規程を補完する意味合いで、履修上の基本的なルールをさらに詳しく説明したガイドブックとして、各学部ともに「履修ガイド」を作成している。そのうえで、新入生・在学生の教務ガイダンス時に「履修ガイド」を用いた教務説明を丁寧に行っている。

規定されている進級・卒業要件の対象学生の査定については、教務課が資料を作成し、各学部の教務委員会にて精査された後に、各学部の教育運営委員会および評議会にて厳正に審議・認定されている。【資料2-4-6～8】

【経済学部の進級・卒業要件】

〈進級要件〉

経済学部については、旧教育課程(平成20(2008)年度入学生まで)では、「3年次より4

年次に進級するためには、演習Ⅰ(4単位)を含めて74単位以上の単位修得を必要としていたが、平成21(2009)年度からは、「2年次終了までに、40単位以上の単位を修得していない場合は進級できない。」(経済学部履修規程第22条)と改めている。これは、進級要件を3年次進級時に変更することにより、早い段階で履修に問題のある学生を発見し、的確な履修指導が可能となるよう、退学者の防止策の意味合いも含めて規程の改正を行ったものである。【資料2-4-2】

〈卒業要件〉

卒業要件としては、平成27(2015)年度の教育課程の改編に合わせて、従来の「キャリアデザイン科目」6単位、「総合教養科目」30単位、「専門教育科目」76単位、「自由選択科目」12単位、合計124単位の卒業要件を、「総合共通科目」30単位、「専門教育科目」76単位、「自由選択科目」18単位、合計124単位と変更した。さらに本学の特色でもある「自由選択科目」修得区分については、スポーツ学部も同様に「社会教育主事関連科目」「教職課程関連科目」の資格関連科目の配置のほか、他学部から提供される「他学部履修科目」や、自学部の各科目区分の卒業要件単位数を超えた単位を充当できる仕組みとなっており、学生の多様な学修ニーズに応えるようになっている。【資料2-4-2】

【スポーツ学部の進級・卒業要件】

〈進級要件〉

スポーツ学部については、従来は「2年次から3年次に進級するためには、キャリア基礎演習A(1単位)、キャリア基礎演習B(1単位)、スポーツ学演習入門A(2単位)、スポーツ学演習入門B(2単位)を含めて50単位以上の単位を修得しなければならない。」とし、3年次からの各コースの専門ゼミ所属を念頭に入門演習等の未修得者をなくし、体系的履修を通じてのゼミ所属へと到るような意味合いを進級要件に持たせていた。しかしながら、この進級要件に抵触して留年となった学生が退学に至るケースも多く見受けられ、平成27(2015)年度の教育課程の一部改編を機に、進級要件を「2年次終了までに、28単位以上の単位を修得していない場合は進級できない。」(スポーツ学部履修規程第22条)と、退学者防止の意味合いを含め改めている。【資料2-4-3】

〈卒業要件〉

卒業要件としては、平成27(2015)年度の教育課程の改編に合わせて、従来の「キャリアデザイン科目」6単位、「総合教養科目」24単位、「専門教育科目」76単位、「自由選択科目」18単位、合計124単位の卒業要件を、「総合共通科目」30単位、「専門教育科目」76単位、「自由選択科目」18単位、合計124単位と変更し、経済学部と同様に学生の選択の幅を拡げる卒業要件としている。さらに本学の特色でもある「自由選択科目」修得区分については、経済学部と同様に「社会教育主事関連科目」「教職課程関連科目」の資格関連科目の配置の他、他学部から提供される「他学部履修科目」や、自学部の各科目区分の卒業要件単位数を超えた単位を充当できる仕組みとなっており、学部学生の学修ニーズに対応し、設置された4コースでの資格取得選択の自由度の余地を残

す仕組みとなっている。【資料2-4-3】

両学部ともに前記の厳正な運用と合わせて、履修登録単位数の上限を各学部の履修規程で1・2年次は46単位、3・4年次は48単位と定めており、単位制度の実質化を保つための工夫も行っている。

大学設置基準第21条に定める「1単位45時間」の定義からすれば、まだ学修量が求められる設定になってはいるが、授業時間外の予復修の指示や、卒業までの各学年での単位取得の目安を、1年次終了までに35単位、2年次終了までに70単位、3年次終了までに110単位を修得するよう、履修ガイドにも明記し、新入生オリエンテーション、在学生ガイダンス等を通じて、単位の実質化へ向けて、教室外における予復修の必要性や、単位取得の偏りが生じないような指導も行い、学生の理解を深めるようにしている。【資料2-4-8】

さらに、授業の内容に関しては、各学部および共通教育センターの専任教員から選ばれた「シラバスコーディネーター」による、科目担当者とは別の教員がシラバスの校閲を行う仕組みを作っている。この仕組みにより、科目名称と授業内容および到達目標と教育目標等の適切性、複数コマ開講の同一科目の内容等の統一化、当該科目と関連する科目の授業内容の連続性、成績評価方法の適切性などについて確認と点検を、全学教務委員会の下で組織的に行っている。【資料2-4-9】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-4-1】九州共立大学学則(抜粋) 【資料 F-3】と同じ

【資料 2-4-2】経済学部履修規程(抜粋) ※平成 29 年度学生便覧 【資料 F-5】に記載

【資料 2-4-3】スポーツ学部履修規程(抜粋) ※平成 29 年度学生便覧 【資料 F-5】に記載

【資料 2-4-4】平成 29 年度 講義要項(シラバス)(抜粋) 【資料 F-12】と同じ

【資料 2-4-5】「平成 29 年度『講義要項(シラバス)』原稿執筆のお願い」

【資料 2-4-6】平成 28 年度 卒業査定資料(両学部・抜粋)

【資料 2-4-7】平成 28 年度 進級査定資料(両学部・抜粋)

【資料 2-4-8】平成 29(2017)年度 履修ガイド(両学部) 【資料 F-12】と同じ

【資料 2-4-9】「シラバス原稿の校閲について」(シラバスコーディネーター依頼書)

(3) 2-4 の改善・向上方策(将来計画)

進級・卒業要件の査定以外の通常の単位認定については、各学期の成績提出締切日の確認徹底・周知と、その後の成績変更等について取り扱いの厳正化のため、教務部長への理由文書提出の義務化など管理強化を継続的に行う。

同一科目複数担当者の科目については、「科目担当者会議」を開き各担当者間で成績評価の不均衡を避けるために、シラバスに明示する成績評価基準の統一性とその厳正な適用について調整・検討等を行うために全学教務委員会から指示していく。さらに一部の科目(英語等)において、統一教科書の選定導入も始めており、今後は対象科目の拡大も検討していく。

また、全授業科目の合格率(単位取得率)や平均得点等の評価・分析による全学的成績基準の策定等が必要と考えている。さらには、これらを踏まえて、授業科目と授業内容

の整合性・適合性、成績評価方法の適切性などに関しては、シラバスコーディネーターの第三者視点での確認・点検に加えて、今後は、教育課程の体系性、教育課程編成方針(CP)に適った科目内容の整合性チェック等に力点を置いた教育課程の点検を各学部・共通教育センターの教育運営委員会で組織的に行うことも検討する。

履修登録上限単位数に関しては、今後も1単位45時間と定める単位制度の実質化の観点からも継続的な取り組みが必要であると考えているが、一律的な運用だけでなく、成績優秀者の柔軟なCAP制の運用についてもGPA制度も絡めて検討し、より良い単位実質化の実現を考えていく。合わせて、GPA制度については、教育実習内規の基準、福原学園独自の学力特待生や奨学金制度、学長表彰制度対象学生の査定や更新基準などで利用されているが、さらに頑張る学生の士気向上にも繋がる活用の検討や、成績不振者の退学勧告や進級査定時の活用などの利用拡大についても具体的検討を進める。

2-5 キャリアガイダンス

《2-5の視点》

2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

(1) 2-5の自己判定

基準項目2-5を満たしている。

(2) 2-5の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

本学ではキャリア教育および教養教育の実施体制の整備を図るために、従来の総合教養教育センターを平成22(2010)年度から共通教育センターに改組し、教養教育(共通)科目と専門教育科目を系統的・総合的に学ぶ体制を整備することで、「社会で活躍するために必要な力=就業力」を養成し、学生の社会的・職業的な自立を目指している。

そのため、全学部を対象にキャリア教育や情報教育、インターンシップ、語学、異文化教育など、より実践的な学びの場を提供し、学生の就業力を育成する支援を行っている。

キャリアでは、学生一人ひとりにあった個別指導(個人面談、窓口相談、面接指導・履歴書やエントリーシート等の添削、キャリアカウンセリング)を徹底している。特に平成26(2014)年度より面接指導を強化し、平成28(2016)年度は個人への対応の充実を図るため、面接指導に加え内定者との座談会を並行して実施した。【資料2-5-1~2】

平成28(2016)年度実績で、面接指導は179人、座談会は178人が参加し、計357人の学生と接することができた。個人面談では就職活動をする学生全員と面談ができており、週3日、午後に実施しているキャリアカウンセリング(平成28(2016)年度の実績は176件)と合わせた多様な形態での学生への個別指導は、平成26(2014)年度からの第2次中期計画の達成数値目標である、就職率95%以上を確保するために重要な取り組みだと考えている。【資料2-5-3】

また、平成28(2016)年度の学内合同セミナーは2回実施し、平成28(2016)年9月開

催(4年生)は50人、平成29(2017)年1月のセミナー(新4年生)には497人の学生が参加した。併せて学内での個別会社説明会も並行して開催し、97社の企業に延べ287人の学生が参加した。学外での合同セミナーにおいては、大学側よりバスを準備して、565人の学生をまとめて引率し、企業とのマッチングを増加させた。【資料2-5-4~6】

就業力を育成する施策の一つとして、インターンシップへの取り組み強化も本学の方針として取り上げている。インターンシップ(企業研修)は正規科目として設置し、履修を希望する学生には、自己開拓を含め、九州インターンシップ協議会、北九州商工会議所等の公的団体、学内教職員紹介企業などを対象にマッチングを行っている。インターンシップを受講した学生の数は平成28(2016)年度の実績で15人であった。【資料2-5-7~8】

教職協働による多様な取り組みの結果、エビデンス集(データ編)の【表2-10】のように平成28(2016)年度の就職率は98.0%(昨年度より0.3%増)、進路決定率は97.2%(昨年度より1.3%増)であり、年々向上している。

なお、卒業後の未就職の学生や離職した卒業生についても就職相談・斡旋を行っている。また、スポーツ学部においてはキャリア形成の一助のために、平成28(2016)年度は、「福原学」の授業内で各コースの資格等を取得した上級生が、1年生に各コースの説明をし、質問を受けるといった形式のコースガイダンスを行っている。

【エビデンス集・資料編】

【資料2-5-1】学生相談件数一覧表

【資料2-5-2】就職内定者座談会報告書

【資料2-5-3】就職支援相談シート報告書

【資料2-5-4】学内合同企業セミナー2017

福岡県若者しごとサポートセンター

2018年学内企業・公務員セミナー

【資料2-5-5】学内個別会社説明会実施状況

【資料2-5-6】学外合同セミナー関係資料

【資料2-5-7】平成29年度講義要項(シラバス) 【資料F-12】と同じ

【資料2-5-8】インターンシップ参加人数(過去3年間)

(3) 2-5の改善・向上方策(将来計画)

平成27(2015)年度より、キャリア教育科目として基礎学力を補う科目(ステップアップ講座)や就職活動・資格取得に役立つ科目(スキルアップ講座)を開講し、学生一人ひとりのニーズにあった就業力育成支援をさらに強化していく。

本学では「職業人養成 教育大学」を打ち出し、即戦力で自立した職業人を養成するために、4年後を見据えた就職活動準備のためのキャリア教育を入学時から実施していくことの徹底を図る。

就職活動をする学生への個別支援をさらに強化していく。特に主体的な就職活動が出来ない学生、就職活動に対する意欲・やる気が低い学生、就学そのものに問題がある学生などへの働きかけを、教職協働で早い時期から徹底する。

2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

《2-6の視点》

2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

(1) 2-6の自己判定

基準項目 2-6 を満たしている。

(2) 2-6の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

本学では、学生の学修状況・資格取得・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなど、教育目的の達成状況を点検・評価するため、各種の調査・アンケートを実施している。

本学は、クラス担任制を導入しており、担当教員(キャリアアドバイザー)は1年次の履修登録から深く学生と関わり、卒業まで履修指導・生活相談等を行う体制を整えている。履修科目と連動させ、1年次においては必修科目の「福原学」「職業とコミュニケーション」、2年次以上は必修の演習科目の担当者(経済学部)や、各専攻コース担当教員(スポーツ学部)とリンクさせている。担当教員は随時学生と面談を行い、その結果を「キャリアシート(電子化された学生カルテ)」に記録し、継続的に履修指導・生活指導に活用することで、4年間を通して学生個人ごとの教育目標の達成状況の把握ができるようにしている。キャリアシートのデータは担当教員以外でも閲覧可能であり、学生の就学状況や指導状況の把握が組織的にできるように、前述の学習支援センター等とともに情報共有されている。【資料2-6-1】

学生の意識調査としては、「学生生活実態調査」を実施し、学生生活全般にわたる実態を正しく把握し、今後の学生サービスの改善等に反映させるための基礎データの収集を行っている。また、平成22(2010)年度から平成26(2014)年度までの5年間、本学卒業生採用の企業に対し、企業が求める人材像および新卒者の重視する資質についてのアンケートを実施した。本学卒業生の印象はチームワークやコミュニケーション力が非常に高く、周囲に耳を傾けて素直に仕事に取り組む姿勢が評価され、マナーや礼儀においても一定の評価を得ていた。本学卒業生がさらに向上するために必要な能力はリーダーシップや分析能力、論理的思考能力等であった。この分析結果については、本学のキャリア指導等に反映させている。【資料2-6-2～3】

学生の資格取得については、各学部における教員免許取得状況をはじめ、経済学部における全国大学実務教育協会資格、スポーツ学部における日本体育協会等関連資格の取得状況について関係する事務部署と学部教員の連携により、随時把握に努めている。

また、九州共立大学中期計画アクションプランでは、「免許・資格取得支援の強化」として、毎年度成果指標の目標値を定め、実績値を報告している。【資料2-6-4～5】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-6-1】 Campusmate-J「学生カルテ」(抜粋サンプル)

【資料 2-6-2】平成 28 年度 学生生活実態調査アンケート結果報告

【資料 2-6-3】九州共立大学卒業生に関するアンケート調査結果

【資料 2-6-4】学校法人福原学園第 2 次中期計画ガイドブック

【資料 2-6-5】資格取得者数一覧(平成 22 年度～平成 28 年度)

2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

教育内容・方法の改善および水準の向上への取り組みについて、本学では平成 10(1998)年度より「授業評価アンケート」を継続して実施している。アンケートは毎学期に全教員・全授業に対して実施され、その結果を基に授業の改善、水準の向上を図るために、アンケート集計後には、集計結果はすぐに学生が閲覧できるように公開し、同時に教員にも配付している。この集計結果を踏まえてアンケートを実施した全教員に「授業改善報告書」の提出を義務化し、次期の授業改善へフィードバックされる取り組みを行っている。

また、平成25(2013)年度より、この授業評価アンケートのさらなる改善策として、「ミニアンケート」を学期途中で追加実施する変更を行った。授業評価アンケートは、学生からの当該授業の評価結果により、各教員が自らの授業を振り返り、学生にとって満足度の高い授業の実現を目指すものであるが、授業における日常的な評価に対する適時的確な授業改善へのフィードバックは非常に重要であると考えている。このミニアンケート実施により、授業期間途中での学生からの授業に対する意見・要望等を徴することで、学期途中の早期における授業振り返り・改善を可能とし、ミニアンケートで指摘された内容を次回以降の授業展開に即座にフィードバックされるようになった。この導入により、授業改善報告書の様式も改定し、ミニアンケートの実施方法や対応策・効果等を問うものに改め、より教育内容・方法等の改善に有用な手段の評価・分析に繋げるものとなるようにしている。【資料2-6-6～12】

加えて、教員相互の「授業参観」も実施しており、他の教員の授業を参観することで、自らの授業レベル向上のため、専任教員全員が授業参観を実施し、実施後に「授業参観報告書」を提出することにより、参観を受けた教員も、その評価を参考として一層の授業改善・向上を図るものである。【資料2-6-13】

さらには、専任・非常勤の全教員に対し授業改善、資質向上を図るため、授業を展開するにあたり留意すべき基本的な姿勢や考え方、関連する各種の資料やデータを冊子にまとめた授業マニュアル「FDハンドブック」を平成27(2015)年度4月に刊行した。このFDハンドブックは、毎年継続的に発行をすることとしており、年々の活動の振り返りによる授業改善等の取り組み事例などを盛り込み、毎年の内容充実等、改訂を重ねることで、継続的組織的なFD活動の一つとして位置付けるとともに、これによる全学的な情報共有化を通じて、FDの実質化の一助とし、教育内容・方法の改善に活用されている。

【資料2-6-14】

このような授業改善への取り組みの結果については、表2-6-1のように学生からの評価である授業評価アンケートの評価ポイントの平均値に現れるとの考えから、第2次中期計画の一つの取り組み項目として、授業評価アンケートの評価結果の平均値4.0ポイント以上キープ(満点は5.0ポイント)の目標を上げ、学生満足度を向上するよう努めて

いる。授業評価アンケート結果の評価ポイントの平均値は次表のように継続的に上昇傾向にある。【資料2-6-15】

表 2-6-1 授業評価アンケート結果平均値（過去 6 年間）

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
評価ポイント 平均値	3.97	4.02	4.06	4.12	4.14	4.14

※全設問項目(20項目)の平均値

また、スポーツ学部では、「免許・資格取得支援」結果評価のフィードバックの一つとして、各種資格試験等に合格した卒業生の講演を企画し、また勉強方法など合格者の声を手記形式で届ける冊子類を作成、配付している。【資料2-6-16】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-6-6】「授業評価アンケート実施方法の変更について」

※ミニアンケート導入のお知らせ

【資料 2-6-7】「平成 28 年度前期・後期 授業評価アンケートの実施について」

【資料 2-6-8】2016 年度 授業評価アンケート(質問用紙サンプル)

【資料 2-6-9】平成 28 年度前期・後期 授業評価アンケート結果集計

【資料 2-6-10】「ミニアンケート」実施サンプル

【資料 2-6-11】平成 28 年度前期・後期 授業改善報告書(抜粋)

【資料 2-6-12】平成 28 年度前期・後期 授業改善報告書提出者一覧

【資料 2-6-13】平成 28 年度授業参観の実施について

【資料 2-6-14】FD ハンドブック 2017

【資料 2-6-15】授業評価アンケート結果学部毎平均値

【資料 2-6-16】教職実践ガイド-Q & A- [平成 29 年度改訂版]

(3) 2-6 の改善・向上方策（将来計画）

今後については、各アンケート調査の集計・分析結果から出てくる新たな課題への迅速な対応を図れるように、入学時、在学中、卒業時まで一環した意見収集等を継続的に実施することで、エンロールマネジメントの視点に立ち、大学全体で教育目的と照らした学生満足度向上への取り組みに関する点検・評価を実施する体制を評議会中心に検討していく。

また、必要なIR活動については、学園的視野での推進を強化し、諸データの収集と管理の一元化に加え、それらの数値化・可視化に向けた分析を行い、分析結果に基づいた大学教育の質保証や向上に関する支援をより組織的に推進していく。

加えて、平成26(2014)年度から開始した第2次中期計画では、福原学園のミッション「自律処行」に基づいた教育活動を、目標を明確にした具体的施策と、目標の達成状況を定量的に把握できる成果指標の設定により、毎年度の事業計画において履行した結果を点検・評価し、改善していく仕組みを構築しており、今後も教育目的の達成状況の点検・評価の一層の実質化を図っていく。

本学の中期計画、事業計画および事業報告書、自己評価報告書は、本学ホームページ上に公開しており、今後は、授業改善に関してFD活動の取り組みや授業評価アンケートの結果等についても、本学ホームページ上での公開も行う。

2-7 学生サービス

《2-7の視点》

2-7-① 学生生活の安定のための支援

2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

(1) 2-7の自己判定

基準項目 2-7 を満たしている。

(2) 2-7の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-7-① 学生生活の安定のための支援

本学では、学生生活の安定のための支援として、以下の支援を行っている。

(1) 学生生活安定のための支援組織

本学では、学生生活に関する支援・サービスを行う組織として学生支援部、その下に学生支援課を設置している。学生の生活指導・福利厚生に関する事項については、学生支援部長を委員長とする学生支援委員会で審議され、必要に応じて教育運営委員会、評議会の意見を徴したうえで決定するなど全学的な支援体制を構築している。

また、学生の健康面・心理面を支援する組織として本学園に福原学園保健センターを、さらに留学生の生活面を支援する組織として理事長・副理事長の直轄組織である経営企画本部の下に国際交流・留学生支援室を設置しており、これらは学生支援部と連携しながら本学の学生生活全般について支援を行っている。

(2) 奨学金制度（学生への経済支援）

① 本学独自の奨学金

平成 20(2008)年度より、「頑張る学生を応援する奨学制度」として、大学独自の奨学制度の運用を開始している。この制度は、学力が優秀で学友会活動等に積極的に参加する学生を対象とした「優秀奨学金」、スポーツ・文化活動・社会貢献の何れかで実績を残した学生を対象とした「奨励奨学金」、学力・人物ともに優れた経済的困窮者を対象とした「育英奨学金」の3部門から構成される。応募は公募制を採り授業料の半額を給付とし、平成 28(2016)年度の実績では、計 9 人の学生が採用されている。

また、平成 28(2016)年度からは新たに、家計支持者の失職や死亡など、家計急変者に対する支援制度として、「福原弘之奨学生制度」「教育研究支援募金奨学生制度」が新設され、福原弘之奨学生制度に 1 人、教育研究支援募金奨学生制度に 4 人の学生が採用された。【資料 2-7-1】

特筆すべきことは、当初より全て給付型を堅持している点である。また、経済支援型のみならず多様な内容の奨学金制度を設置することで、修学や課外活動への動機付けの向上に有効に機能している。

② 本学独自の貸与制度

経済的困窮者を対象とし、卒業年次の後期学納金に対する貸与制度を設けている。この制度は、品行方正、学力優秀で就業中に学納金支弁の途を失った学生の中から、卒業後の就職先が決定した者を対象に貸与を行うもので、最終段階でのセーフティネットとして有効な役割を果たしている。【資料 2-7-2～3】

(3) ポータルサイトを利用した学生支援

学生用のポータルサイトでは、大学からの連絡、履修申請・確認、成績確認、出席確認、休講・補講・教室変更確認、求人情報確認等のメニュー等を配置し、学生生活を送る上で必要な情報を把握・管理している。また、同ポータルサイトには学生個人アドレスを登録させ、大学からメールを配信できるシステムをとっており、災害等の緊急時には学生へ直接連絡することが可能である。

(4) 学長表彰制度

学業、課外活動、学生生活等で学生の模範となる成績や行動を収め、本人はもとより学生のやる気を引き出し、学生の意識向上と大学広報に貢献した者および団体に対して学長表彰を行っている。なお、平成 28(2016)年度の学長表彰者は表 2-7-1 の通りである。

【資料 2-7-4】

表 2-7-1 平成 28 (2016) 年度学長表彰者

部 門	内 容	表彰人数	備 考
学 業	成績優秀者	8 人	各学年各学科 1 人
自学自習	資格取得	21 人	
	学会活動等での評価	—	
生活全般	ボランティア活動等の社会活動	2 団体	地域貢献活動
課外活動	国内外の大会で優秀な成績を収めた個人・団体	個人 105 人 9 団体	
優秀賞 (スポーツ部門)	全国大会ベスト 8 以上	個人 26 人 2 団体	
最優秀賞 (MVP)	個人：全国大会 3 位以上 団体：全国大会 4 位以上	個人 1 人	7 人制ラグビー日本代表に選出

(5) 課外活動

本学の課外活動は、「学友会則」に示す通り建学の精神「自律処行」に則り心身の練磨に努め、共同生活を通して相互の親睦融和を図り、明朗な大学を建設することを目的とした「学友会」組織の下に運営されている。【資料 2-7-2】スポーツ学部を擁している本学の課外活動は、専門領域の知識を備えた「人材育成」「協調性」「社会性」「リーダーシップ」「コミュニケーション能力」「礼節とマナー」「指導者能力」を育む上で重要な役割を果たしている。課外活動の加入率は全体で約 67.4%である。

課外活動の支援として、指導者の充実・施設・設備の充実・全国大会出場経費の援助

を行っている。指導者の充実として各クラブ・サークル・同好会・愛好会活動には専任教職員を部長・顧問に据え、クラブの活動状況に応じて監督・コーチ・トレーナーを配置し、本学教職員で指導できない部分は、外部にコーチ・トレーナーを委託している。

クラブの施設は、授業が行われる学舎に隣接しており授業終了後、速やかにクラブ施設に移動できることが本学の利点である。遠征時に使用出来る車両として大型バス3台、マイクロバス1台、ワゴン車3台を所有し、移動費や交通費の負担を軽減している。また、全国大会に出場する学生に対しては、大学と試合会場間の交通費・宿泊費を援助している。【資料2-7-4】その他、全国大会へ出場するクラブ・個人は、福原学園協力会および九州共立大学同窓会「自由ヶ丘」に申請し、出場経費の補助を受けている。

① クラブ・サークル

クラブ・サークルは、現在(平成28(2016)年5月時点)、スポーツ系29団体、文科系11団体、合計40団体の公認クラブ・サークルがある。【資料2-7-5】各公認クラブ・サークルには、活動支援の一環として学友会予算の配分を行い、財政的支援を行っている。また、後援会から部員数に応じた財政的支援を受けている。

また、公認クラブの中で、大学の経営戦略として7団体(硬式野球、陸上競技、体操競技、サッカー、バスケットボール、ラグビーフットボール、レスリング)を強化クラブと指定し活動費等の支援を行っている。

(6) 健康・心理的支援

① 健康管理支援

保健センターでは、学生の生活支援のために、入学時に新入生全員が提出した「健康状況調査票」をもとに、既往症、感染症、身体障害の有無等について調査を行っている。また、毎年4月に全学生を対象に学校保健安全法に基づいて定期健康診断を実施している。

その他に、スポーツ系のクラブ・サークルに所属する学生が多いことから、スポーツ学部の教員が毎年「スポーツ事故の対応と緊急対応セミナー」を開催し、熱中症対策、心肺蘇生法等に関する講演や、AED(自動対外式除細動器)の使用方法等の実習を行い、受講者には修了証を発行している。

② 健康相談

保健センターにカウンセリングルームを設置し、臨床心理士1人によるカウンセリングを月曜日から金曜日の12時30分～16時30分を実施している。支援として、学生の心身の状況に合わせて、担任・学内各課および保護者との情報交換、連絡、報告を実施している。カウンセリングは原則予約制であるが、学生の心の不安定さから出現している身体症状を早期に見出し、随時カウンセリングできる体制にしている。また、心と体のリーフレットの配付や留学生にも理解できるように外国語での掲示を行い、誰もがいつでも利用できるようにしている。

③ 学内禁煙

平成 27(2015)年度春季学生大会において、学生から提案があった学内改善要望事項が審議され、「学内全面禁煙」が賛成多数で承認された。学生大会での学内改善要望である「学内全面禁煙」について学生支援委員会(平成 27(2015)年 6 月 3 日開催)で検討を行い、喫煙者の禁煙を支援するとともに、非喫煙者の受動喫煙を完全に防ぐ衛生対策を実施する必要があることから、平成 27(2015)年度第 7 回評議会(平成 27(2015)年 6 月 10 日開催)に大学敷地内全面禁煙を提案し承認された。

後期授業開始(9 月 24 日)とともに敷地内全面禁煙としたが、当面は段階的に学内全面禁煙に取り組み、学内にある喫煙場所(4 ヶ所)の灰皿を撤去し、経過措置として受動喫煙等健康被害のない場所 2 ヶ所に喫煙場所を設置した。平成 28(2016)年 4 月以降は喫煙場所を 1 ヶ所としており、喫煙率 5%以下(学内全面喫煙数値目標)の時点で喫煙場所を廃止することとしている。

また、学生に対する喫煙防止・禁煙教育を「福原学」「職業とコミュニケーション」「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」「ゼミ」の授業で行い、新入生オリエンテーション(平成 28(2016)年 4 月)で喫煙防止に関する講演会を実施した。

(7) 学生寮

学生寮は、男子寮(福秀寮(給食):2 棟(定員 230 人))、女子寮(藤原寮(自炊):2 棟(定員 22 人)、クレイン寮(給食):2 棟(定員 50 人))で構成しており、「九州共立大学学寮規則」に基づき、運営しているが、経済状況の影響か近年は学生寮への入寮者が毎年増加している。

平成 28(2016)年 4 月現在では、福秀寮は 219 人、藤原寮は 9 人、クレイン寮は 41 人の学生が入寮している。福秀寮は、200 人を超える学生が入寮しているため、寮生の中から寮長 1 人、副寮長 2 人を選出し寮監を補佐している。また、寮長、副寮長、学生支援課担当者などで毎週 1 回ミーティングを行い、寮生活の問題点・改善について意見交換を行っている。【資料 2-7-6】

(8) 国際交流

① 海外協定校との連携

海外の大学と友好交流基本協定を結び、学生の派遣交流、教職員の派遣交流、教育情報の交流等を行っている。【資料 2-7-7】学生の派遣交流では、平成 28(2016)年 4 月現在で南北アメリカ、オセアニア、アジア、ヨーロッパ 31 大学と交流協定を結んでおり、正規学生としての編入学生の受け入れ、日本語・日本文化を学ぶ短期留学生の受け入れを行い、世界各地からの留学生受け入れと本学学生の派遣を行っている。【資料 2-7-8】教職員の派遣交流では、平成 22(2010)年から毎年協定校から教員を 1 年間受け入れており、留学生の語学指導、生活指導等を行っている。また、平成 28(2016)年 3 月には、本学教員 2 人が協定校で講義を行った。

② 地域貢献・交流

二大学共通教育機構は日本語学習の場として、近隣他大学・地域の外国人にも広く門戸を開いており、地域の日本語・日本文化教育の拠点として活動している。さらに、留

学生は近隣小学校での国際化教育授業への参加、地域の祭りへの参加、ホームステイなど様々な交流事業に協力し、地域の国際化にも大きく貢献している。

また、留学生は生きた日本文化に触れることを切望しており、国際交流ボランティアの協力を得て、「留学生を囲むクリスマスパーティー」「留学生との交流会」「折尾まつりでの国際屋台村」等で地域住民との交流を深めている。【資料 2-7-9】

③ 海外留学プログラム

在学生の国際感覚と語学力を養うため、例年夏期と春期に、海外姉妹大学などで運営されている語学・文化研修に参加するプログラムを実施している。研修期間はおおよそ2～5週間で、個人でも参加でき、一定の条件を満たした研修参加者には、単位の認定も行っている。プログラムとしては5ヶ国8コースを用意し半年から1年間の留学も可能としている。

④ 海外プログラム特待生制度

平成20(2008)年度に海外プログラム特待生制度が改正され、大学独自の特待生制度の運用を開始している。この制度は、海外に渡航して語学やスポーツ能力の向上を目指す学生に往復渡航費の全額または一部を援助するもので、学生の海外交流促進と経済的支援を目的としている(ただし一度限りの申請に限られる)。対象は学力特待生などすべての特待生および奨学生、留学生を除く2～4年生を条件として、①私費で海外の大学または短期大学(付属機関を含む)において開講されている授業または語学研修プログラムに参加すること。または、上記の機関のクラブ等に所属し活動することとし、研修先大学等に許可をもらっていること。②渡航期間が3週間以上であること。③前年度のGPAが1.5以上あることとしている。募集は公募制を取り、学生支援委員会で審議し学長が決定、一人10万円を給付している。【資料 2-7-1～3】

(9) 「朝食をお得に食べよう」キャンペーン

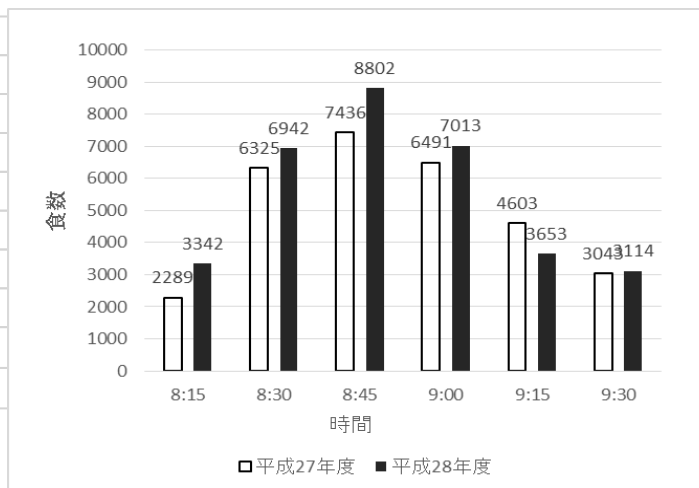
朝食を摂らない学生が多い現状を改善し、朝食を食べる習慣をつけさせ乱れがちな食生活を見直してもらおうと、学生支援の一環として近隣他大学に先駆けて平成24(2012)年10月より「朝食キャンペーン」を開始し、同年11月より大学および大学後援会から補助を得て、ワンコインの100円で朝食が提供できるようになった。最近、各大学で「100円朝食」を提供(期間限定、食数限定)する大学が多くなってきているが、本学の「100円朝食」は通年で食数の限定なしで提供しているところに最大の特色がある。

朝定食(100円朝食)の利用者は年々増加し、平成27(2015)年度は在籍学生の内66%の学生が100円定食を利用しており、大学が提供する学生支援サービスとして多くの学生に受け入れられている。また、朝定食が学生の生活習慣の改善に繋がっているかを把握するために、平成26(2014)年4月より学生証(磁気カード)を利用しデータ収集を行い、「いつ・誰が利用したか」をデータ化し、学生の授業出席率や成績などとの関係性の分析を行い、より規則正しい学生生活が送れるよう支援を行った。【資料 2-7-10～11】

平成26(2014)年度と平成27(2015)年度の食数比較は、表2-7-2の通りである。

表 2-7-2 朝食キャンペーン 平成 27(2015)年度と平成 28(2016)年度の食数比較

平成27年度		平成28年度	
経済学部	スポーツ学部	経済学部	スポーツ学部
4646	6083	6405	5539
3424	5097	3962	5235
2697	4940	3565	3660
963	2221	1561	2923
36	5	0	0
11766	18346	15493	17357
0		0	
30112		32850	



【エビデンス集・資料編】

【資料 2-7-1】九州共立大学奨学金運用要項

【資料 2-7-2】平成 29 年度学生便覧 【資料 F-5】と同じ

【資料 2-7-3】平成 29 年度キャンパスライフ

【資料 2-7-4】平成 28 年度全国大会・国際大会出場一覧表

【資料 2-7-5】平成 28 年度ファクトブック

【資料 2-7-6】平成 28 年度福秀寮洗濯機・乾燥機設置年次計画

【資料 2-7-7】平成 29 年度キャンパスライフ

【資料 2-7-8】留学生受入状況

【資料 2-7-9】平成 28 年度第 41 回修了スピーチ文集

【資料 2-7-10】朝食キャンペーンにおける学生への効果

(朝食キャンペーンと出席率および成績の関係について)

【資料 2-7-11】九州共立大学における 100 円定食キャンペーンはどのように利用されているか (2014 年度の利用実態分析)

2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

本学では、学生生活実態調査アンケートを毎年後期ガイダンスで実施し、学生生活全般にわたる実態を正確に把握し、学生サービスの改善に反映させている。また、3 年生のみ大学生調査 (ジェイ・サーブ) を併せて実施している。アンケート集計結果は、学生支援委員会および福原学園 IR 委員会で分析・検討を行い、評議会ならびに教育運営委員会に報告を行っている。【資料 2-7-12~13】

加えて、学習環境を充実するために常設の「提案箱」を学舎ごとに設置し、学生の意見・要望の投書を直接収集している。収集した意見等については、該当部署にて回答書を作成し、評議会での検討を経て対応するとともに本学ホームページに投書に対する回答も掲載している。

また、新入生オリエンテーションで冊子「キャンパスライフ」を学生へ配付し、「提案箱」について紹介しているが、最近では、「提案箱」への投書は低迷しており、もっと自由に提案できる環境を工夫したい。

この他、年 4 回程度実施される「キャンパスミーティング」では、テーマや学生セ

グメント別に代表の学生と、学長や大学幹部との意見交換が直接できる懇談の場を設定している。これらの機会ですぐに学生から寄せられた意見は評議会において点検し、改善方策を迅速に検討し対応することとしている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-7-12】平成 28 年度 学生生活実態調査アンケート

【資料 2-7-13】平成 28 年度 学生生活実態調査アンケート結果報告

(3) 2-7 の改善・向上方策（将来計画）

朝食キャンペーンについては、毎日朝食メニューをチェックし、学生の希望を反映したメニューになるよう食堂運営者と協議するとともに、今後もサービスの質の維持のため点検・改善を続けていく。

平成 27(2015)年 9 月 24 日より学内は全面禁煙としたが、今後も引き続き学生に対する禁煙教育、喫煙防止に関する講演の実施など啓発活動を行うとともに、全教職員による学内巡回指導についても定期的実施する。

学生寮では老朽化防止や防犯上の問題を解決するために設備等の改修や備品等の購入を行い、寮生の生活の質の向上を図っていく。

留学生の日本人学生との交流は、授業以外では一定程度交流はあるが、現状以上に交流を促進していく。そのため、今後は日本人学生ボランティアを募集し人数を増やし、お互いの交流を活性化させていく。

海外プログラム特待生制度を利用して海外研修・短期留学等に参加する学生も徐々に増えてはいるが、まだ全学的に周知されているとは言い難い状況にある。掲示等・ガイダンスでの説明機会を増やし、より一層 PR を行っていく。

2-8 教員の配置・職能開発等

《2-8 の視点》

2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取組み

2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

(1) 2-8 の自己判定

基準項目 2-8 を満たしている。

(2) 2-8 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

本学は、経済学部には経済・経営学科の1学科、スポーツ学部にはスポーツ学科の1学科、計2学部2学科の構成である。教育課程を適切に運営するための必要な教員は、大学設置基準第13条の規定による学部の種類(経済学関係および体育関係)、収容定員規模に並び、適切に配置している。

平成29(2017)年度の教員配置については、大学設置基準に定める経済学部の必要専任

教員数は20人であるが、23人(うち、教授10人)の専任教員を配置しており、同様に、スポーツ学部の必要専任教員数は17人であるが、26人(うち、教授10人)の専任教員を配置している。また、大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数は26人で、全教育課程で大学設置基準上必要な専任教員数は63人に対し、助教以上の専任教員数は75人(内訳は、教授33人(44.0%)、准教授17人(22.7%)、講師24人(32.0%)、助教1人(1.3%)で設置基準を大きく上回っており、本学の教育課程上の教員配置について問題はない。

このように、大学設置基準上必要専任教員数を上回る専任教員を配置しており、教員一人当たりの在籍学生数は全体平均で約32.3人となっている。これは、本学が自ら「職業人養成 教育大学」と位置付け、即戦力で自立した職業人を養成する目的に従い、各学部のキャリア教育や領域、コース制による実学的専門教育に対応するために、十分な教員配置を行っているためである。

本学の教員構成に関しては、表2-8-1に示す通り大学全体での年齢別構成比が、50歳代で28.0%と最も高くなっているが、これを除いた30～60歳代は21.3～24.0%であり、概ねバランスが取れている。

表2-8-1 助教以上の専任教員の年齢別構成

年 齢	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代
人 数	0	18	21	16	17	3
構成率	0	24.0	28.0	21.3	22.7	4.0

平成29(2017)年度の教員の専兼比率については、新旧教育課程が並行して開講されているが、合算して共通教育科目(留学生特別科目を含む)は両学部平均で59.0%、専門教育科目については経済学部で80.9%、スポーツ学部で76.3%、自由選択科目および自由科目は両学部平均で54.8%が専任教員の比率となっており、専門教育における専任教員の占める割合は高くなっている。

平成21(2009)年度からは、専任教員の1週当たりの責任授業時間を定めており、平成25(2013)年度以降については、標準授業担当コマ数(1コマ90分)を教授・准教授が原則8コマ以上、講師は原則7コマ以上、助教が6コマ以上と定めている。また、学部長は原則5コマ以上と減コマ調整するなど、学長特別補佐、学科長、コース主任、各部長職等の職位に応じて基準コマ数より減コマ設定をしている。これにより、各教員の授業時間数の平準化を図るとともに、役職者の業務負担に対しコマ数軽減の調整も行い、より大学運営に参画できるような体制作りにも資するようにしている。さらに、この各標準コマ数を超えて担当する場合については、教員人事評価にプラス評価として反映することになっている。【資料2-8-1】

さらに、上記の標準授業担当コマとは別に、学習支援センターにおける教育支援活動(授業理解支援)をオフィスアワーにおいて全教員1コマ相当分を行うことを義務付けており、学修支援および授業支援への充実を図れるようにしている。【資料2-8-2】

平成28(2016)年度の平均担当授業時間数は、経済学部については、教授6.9コマ、准教授7.5コマ、講師6.7コマである。スポーツ学部は、教授5.8コマ、准教授7.0コマ、講師6.8コマ、助教6.0コマである。また、共通教育センターについては、教授4.5コマ、

准教授7.0コマ、講師6.1コマである。このように、教授および准教授については標準授業担当コマ数より少ない平均担当授業コマ数となっているが、この職位層は役職者等が多いために減コマ調整されているためである。講師および助教については、ほぼ標準担当コマ数となっており、これらのことから専任教員の授業担当時間の配分は適切である。【資料2-8-3~4】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-8-1】「教員の授業担当コマ数について」

【資料 2-8-2】学習支援センター資料

※オフィスアワー一覧、報告書等

【資料 2-8-3】平成 29 年度 担当科目一覧

【資料 2-8-4】平成 29 年度 科目担当者一覧

2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取組み

「福原学園就業規則」により、教員の採用については、「福原学園任用規則」を定め、これに基づく「九州共立大学教育職員選考基準」に則り公募している。教員の昇任については、「福原学園昇任昇格規程」を定め、「福原学園大学教員人事計画委員会規則」および「九州共立大学教員人事計画委員会規程」を定め、これに基づく「九州共立大学教育職員昇任要項」に則り昇任審査を行っている。これらは、規則および規程等により明確に定められており、適切に運用されている。【資料 2-8-5~6】

また、教員評価については、「福原学園就業規則」に基づき、「福原学園人事評価規程」を定め、人事評価を行っている。この評価制度は、「人事評価規程」に規定する「人事評価表」に基づき各教員(被評価者)が提出する自己申告シートに基づいて学部長ら(評価者)が評価するものである。評価は年 1 回、4 月 1 日から 3 月 31 日までを評価の対象期間として実施され、評価の結果は昇給等の人事処遇に反映させている。

大学教員の評価項目は、「教育評価」「研究評価・対外活動評価」「管理運営」の三つに大別され、「教育評価」については「講義等」「学習支援」「課外活動・生活支援」「学生評価」の 4 点、「研究評価・対外活動評価」については「研究業績」「外部資金」「対外活動」の 3 点の評価対象にポイントを置き、可能な限り客観的な判断ができるよう数値を取り入れた評価を行っている。評価は、各教員が自己申告した粗点と、一次評価者である学部長および学長に配分された裁量による評価点の合計点数をもって行われ、最終的な評価は福原学園に設置されている大学教員人事評価委員会で決定される。

この評価制度は、3 年間の試行期間を経て、平成 24(2012)年度から本格導入しており、教員の改善努力や成果を公正公平に評価し、これを処遇に結び付けることで、各教員の教育力および研究能力の向上に役立っている。さらに、平成 26(2014)年度からは教員の職務意欲を一層高めることで教育の質向上と組織の活性化を図ることを目的として、人事評価結果を基に、成績評語が「S 評価」であった教員を当該年度の「最優秀教員」として、また授業評価アンケートの集計結果による学生の授業評価等が優れていた教員を当該年度の「ベストティーチャー」として公表する取り組みを始めた。【資料 2-8-7】

また、教員の資質・能力等教育研究活動の向上のために、FD 推進活動等組織的な取り

組みについては、本学は、大学設置基準第 25 条の 3 に基づき、「九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」を制定し、組織的な FD 活動を展開している。この FD 委員会は、全学的組織として学長を委員長とし、教育の質的向上、授業改善等に向けた諸施策の企画・立案、FD に係る研究会および講習会の企画・運営、学生による授業評価等の企画・実施・改善を担っている。【資料 2-8-8】

これら取り組みの一環として、中核となるのが学内の FD・SD 研修会の実施である。これについては、各年度で大学を取り巻く課題によりその実施内容は異なるが、地域の大学コンソーシアムが主催する FD フォーラムや、高等教育関係団体が主催する外部研修会へ参加した教職員が、そこで得た各大学の先進的取り組み等の情報を FD 委員会主催の本学研修会でフィードバックし、FD に精通する教職員の育成を図り、各学部・共通教育センター、事務局に分かれて部署ごとに課題となっているテーマで研修会を行うなど、工夫を重ねながら継続して実施している。また、外部講師を招聘しての FD 講演会は外部の情報共有と FD 推進意識の向上を図るために定例的に開催されている。このように、FD および SD の研修会については、学内 FD・SD 研修会として年 2 回、全教員の参加を義務（事務職員については日常業務に支障のない限り参加）付けて実施している。【資料 2-8-9～13】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-8-5】九州共立大学教育職員選考基準

【資料 2-8-6】九州共立大学教育職員昇任要項

【資料 2-8-7】福原学園人事評価規程

【資料 2-8-8】九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

【資料 2-8-9】平成 28 年度 第 1 回 FD・SD 研修会(次第)、出欠表

【資料 2-8-10】平成 28 年度 第 2 回 FD・SD 研修会各部署別研修会実施報告書、出欠表

【資料 2-8-11】九州共立大学第 2 次中期計画一覧〔平成 28 年度版〕

九州共立大学中期計画アクションプラン一覧〔平成 28 年度版〕

【資料 2-8-12】平成 28 年度 九州共立大学中期計画実績報告書一覧

【資料 2-8-13】学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書

2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

本学の教養教育は全学部共通の教育課程を導入し、この教育課程の円滑な運用のために九州共立大学共通教育センター(以下、「共通教育センター」と記す。)を設置している。共通教育センターには専任教員を配置し、学部からは独立した組織として教養教育の推進および運用上の責任体制を明確にしている。

また、共通教育センター教育運営委員会を共通教育センターの意思決定機関として位置付け、その下に共通教育センター教務委員会を設置している。さらに教養教育科目およびキャリア教育科目の円滑な運用のために教養教育専門委員会およびキャリア教育専門委員会をそれぞれ併設している。一方で、教養教育は、各学部の専門教育との連携が不可欠であり、各学部の人材育成方針および教育目標と齟齬のないよう、九州共立大学教務委員会において最終的な調整を図る体制をも構築している。【資料 2-8-14～15】

加えて、本学は併設校である九州女子大学の教養教育担当者から成る九州女子大学共

通教育機構とともに二大学共通教育機構を平成 23(2011)年度に組織化した。この二大学共通教育機構の下には、両大学における教養教育の在り方を検討するため、教職協働による二大学共通教育機構運営会議および二大学共通教育機構教務委員会を設置して、両大学における教養教育の共通化、教務面の連携・調整、人的資源の有効活用(人材交流)等の検討を行い、二大学共通教育機構が主導して策定した、新たな教養教育課程(総合共通科目)を平成 27(2015)年度から導入した。

なお、二大学共通教育機構教務部会は、教育課程のスタートに伴い、総合共通科目および担当教員等に関する調整・検討機能のさらなる充実を目的に、二大学共通教育機構教務委員会に組織替えした。【資料 2-8-16～17】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-8-14】九州共立大学における教育課程改革の方針

【資料 2-8-15】九州共立大学・九州女子大学における共通教育改革の基本方針

【資料 2-8-16】九州共立大学・九州女子大学共通教育機構教務委員会の設置について

【資料 2-8-17】九州共立大学・九州女子大学共通教育機構教務委員会要項

(3) 2-8 の改善・向上方策(将来計画)

教員の確保と配置については、今後とも大学設置基準等に定められた基準を遵守し、本学の教育課程に即して、欠員の補充および新規採用を現行の規程に基づいて進めていく。

教員評価については、「最優秀教員」および「ベストティーチャー」の公表を継続し、教員の職務意識を高めて教育の質向上に繋がる取り組みを進めていく。

全学的な研修会の定例実施等のFD活動により、教員各々の教育内容に関する意識が向上し、学生の授業満足度の向上に繋がっていることから、今後ともFD委員会主体の取り組みを継続していく。さらに、評議会の下でFD活動と教務委員会等関係委員会との連携を図り、FD実質化の検証体制の確立や、内部質保証および学修成果測定にかかる評価の視点を強化していく。

教養教育については、二大学共通教育機構教務委員会を活用し、教養教育の円滑な実施に向け、総合共通科目および担当教員等に関する調整・検討を進める。

2-9 教育環境の整備

《2-9 の視点》

2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理

2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

(1) 2-9 の自己判定

基準項目 2-9 を満たしている。

(2) 2-9 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理

(1) 校地、校舎

本学キャンパスの校地面積は 265,786.08 m²、校舎面積は 56,190.93 m²であり、校地、校舎ともに大学設置基準を満たしている。敷地面積の詳細や各建物の名称、種別、建設年度、構造および面積等は【資料 2-9-1~2】の通りである。

なお、スポーツ(体育)関連施設、図書館および情報処理施設の概況について、以下に述べることとする。

① 図書館等

本学附属図書館は、キャンパス中央に位置し、4,933.31 m²を有している。経済学部、スポーツ学部の分野を中心に約 22 万冊を所蔵している。閲覧座席数 431 席(収容定員の 16.6%)、学生の自学自習に対応する施設はもとより、図書館内にゼミ室・グループ学習室を設置し、図書館の資源を活用した授業展開にも応えられる環境を整えている。

図書館の建物は、平成 25(2013)年度の文部科学省私立学校施設整備費補助金の採択を受け、耐震補強工事ならびに障害者対応エレベーターの設置工事を行った。資料については、学部・共通教育センター教員選定図書、図書情報課選定図書、学生リクエスト図書、職員および非常勤教員リクエスト図書の 4 種類に分けて収集・整理している。また、図書館内には蔵書検索(OPAC)用 PC が 20 台設置され、情報リテラシー教育や卒業論文ならびにレポート作成における様々な情報入手方法の習得について、授業担当者と図書館職員が連携して取り組んでいる。なお、図書館の開館時間は、平日 20 時まで、土曜日 17 時まで開館している。

また、図書館 4 階には、学生用タブレット 43 台、電子黒板 3 台を備えたアクティブラーニングのための教室として、先進学修ラボが備わっている。

さらに、映像資料については、約 3,300 の教材ソフトや映画ソフトを所蔵しており、図書館の他にも AV ルームを別学舎(図書館横の学思館 2 階)に設置し、学生が DVD などを個人ブースで自由に視聴できる環境を整えている。

② スポーツ(体育)関連施設

平成 18(2006)年 4 月のスポーツ学部開設以降は、文武両道を標榜する大学であることを内外に広くアピールすることを目的として、特にスポーツ(体育)施設の充実に力を入れてきた。

以下、主なスポーツ(体育)施設について、その概要を示す。

(a) 鶴鳴記念館(体育館)

メインアリーナは、バスケットボールコート 2 面を有しており、その他バレーボール、バドミントン、ハンドボール、剣道等の公式試合の開催にも対応可能である。2 階の観客席は、約 2,000 人の収容が可能であり、卒業式・入学式などの式典はもちろん、平成 20(2008)年には、大学の施設としては日本で初めてプロバスケット Bj リーグの公式試合を開催した。

(b) 耕技館(複合体育館)

1 階に柔・剣道場、2 階にはシャワー室、3 階には体操競技場、レスリング場、空手道場を備えている。中でも体操競技場は、国際水準の設備を整えており、過去には日本や

韓国のオリンピック選手団の強化合宿にも利用された。

(c) 第二体育館

メインアリーナは、フットサルコート1面を有しており、その他バドミントン等の公式試合の開催に対応可能である。また、ダンス室も兼ね備えている。

(d) 野球場

野球場は、ナイター設備やバックネット裏に約200人が収容できるスタンドを備えており、公式戦の開催が可能である。外野部分は天然芝を敷設しており、その広さは甲子園球場並みであり、隣接して守備練習専用のサブグラウンドも配している。

(e) 3種公認陸上競技場

陸上競技場は全天候型400mトラックで、心理的にも好タイムが期待できるとされているブルータータンを採用し、インフィールドは天然芝を敷設している。日本陸上競技連盟第3種公認の陸上競技場として公認記録会などの大会に使用されている。

また、陸上競技場に隣接した投擲練習場やハンマー投・円盤投・砲丸投の投擲練習が行える囲いネット、やり投のボルトレーニングで使用する壁などの練習環境を整備している。

(f) 屋内公認温水プール

学生からの要望により、平成24(2012)年4月に25m×6コースの温水プールを備えた「福原学園屋内公認プール棟」を建設した。短水路ではあるが公式競技にも対応可能であり、採暖室や床暖房も備えていることから年間を通して利用が可能である。本プールでは、水泳部のほか、他のスポーツ系クラブの部員もリハビリ等の目的で利用している。

(g) サッカー、ラグビー場

プールと同様に多くの学生から要望があったことから、平成24(2012)年7月にサッカー場1面、ラグビー場1面の人工芝グラウンドを建設した。ナイター設備を完備し授業や課外活動に使用しており、公式試合にも対応可能な設計となっている。

また、サッカー場とラグビー場の間には多目的グラウンド(人工芝)も備えており、ハンドボールやフットサルの練習場として利用されている。

(h) トレーニングセンター

スポーツ学部A館1階には、800㎡の規模を誇るトレーニングセンターがあり、フリーウエイト系およびカーディオ系の各種トレーニングマシンを完備している。これらのマシンについては授業やスポーツ系クラブ生の基礎体力づくりはもとより、健康づくりを目的とした一般学生や教職員の利用も多い。

なお、本ルームはスポーツ学部開設と同時にスタートし既に11年が経過しており、マシンの老朽化が進んだことから、平成24(2012)年度から5年計画でマシンの更新(買い替え)を行っている。

③ 情報処理施設

情報処理教育研究センター(平成 29(2017)年度から学術情報センター)では、教育および研究のための情報インフラの整備を行ってきた。国立情報学研究所が運営する学術情報ネットワーク(SINET)および商用ネットワークにより、ギガビットのネットワークを構築し、一方の回線の障害が発生しても他方の回線が補うことによってネットワークが途切れることがないようになっている。

授業で使用し、あるいは学生の自学自習のためのパソコン教室は全部で 7 教室 374 台を提供している。いつでも学生が利用可能なオープンルームは 34 台、講義のみで利用する教室が 2 教室で合計 80 台、主に講義で利用し空き時間は学生が利用できる教室が 4 教室で 260 台配置している。加えて、平日は夜間使用を希望する学生のため、20 時 30 分まで開館している。また、ソフトウェアについてはワード、エクセルを中心としたマイクロソフトオフィス製品、画像や映像、さらには PDF ソフトなどのソフトウェアが利用できるようになっており、学生の自学自習に貢献している。

パソコン教室の利用者数は、講義の履修状況によって変動はあるが、平均 7,060 人/月にのぼる。平成 26(2014)年度の年間利用者数は 79,182 人、平成 27(2015)年度は 84,720 人である。

現在、座学中心の学修からフィールドワークや課題解決型のアクティブラーニングが教育効果があると注目されるなど、情報環境は日々変化している。これらの変化に対応するため、情報処理教育研究センター内に研究員 5 人を配置し ICT(Information and Communication Technology)を活用した教育方法の研究に取り組み、SINET5 への移行や無線 LAN アクセスポイントの設置などの整備を進めている。

また、最近の情報処理教育研究センター(平成 29(2017)年度から学術情報センター)の事業としては、これらのサービスに加えて、情報セキュリティの啓蒙活動やメールマガジンによる情報を提供することによって、より充実した学生生活実現のためのサービスを展開している。

(2) 教育研究環境の整備

本学園では、福原学園経営戦略会議の下に福原学園教育研究環境整備委員会を設置し、施設の老朽化に伴う建て替えや耐震化等の計画・推進を中心とした福原学園全体の教育研究環境整備について、財政状況を踏まえながら中・長期的な視野で再配置計画の検討を進めている。この委員会の下に本学と九州女子大学・九州女子短期大学それぞれ部会を設置しており、この部会では、福原学園教育研究環境整備委員会からの諮問事項に関する協議や連絡調整を行うとともに、同委員会に上程することを前提として大学独自の将来計画の策定についても協議している。

大規模な施設関係事業については、この福原学園教育研究環境整備委員会において策定した施設設備計画を含む第 2 次中期財政計画に基づいて実施しており、本学では平成 26(2014)年度に附属図書館の耐震補強工事を行った。

バリアフリーに関しては、全学舎ならびに体育館において車いす用の専用スロープと多目的トイレを完備している。また、平成 26(2014)年度に附属図書館の耐震補強工事を

行った際には同時にエレベーターを設置するなど、障害者への配慮を念頭に置いた環境整備に取り組んだ。

平成 28 (2016) 年度に日本高等教育評価機構による認証評価実地調査において、学舎の耐震について指摘を受けた。このことから、平成 31 (2019) 年度をスタートとする第 3 次中期財政計画における耐震強化を前倒しし、平成 29 (2017) 年度から第一学舎の教室、研究室等の移転計画について福原学園教育研究環境整備委員会九州共立大学部会における検討を開始したところである。

施設設備に関する学生の意見については、「キャンパスミーティング」や「提案箱」(詳細は 2-7-②に記述) によってくみ上げる仕組みを整備している。

(3) 施設の管理運営

本学の施設設備の維持管理については、ビル管理会社に一括で業務委託しており、各建物に常駐する「管理人」ならびに「清掃員」が、建屋内の清掃・営繕、建屋周辺の環境整備(植栽や芝生の維持管理を含む)に従事している。

プール棟については、日本体育協会公認のスポーツ指導者(水泳上級コーチ)の資格を有したスポーツ学部の教員がプール棟全体の管理運営を行っているが、プールに関しては他の施設にはない特殊な管理が必要なことから、専任職員 1 人を配置し、監視業務の統括と水質の維持管理等を行うことで徹底した安全管理に努めている。

学内施設全体の管理運営は、総務課管財係の担当者が行っており、上記業務委託会社の担当者との連絡・調整、年間計画に基づいた法定点検(消防設備、エレベーター、水道、AED、各種電気設備など)の実施に従事している。

警備面では、業務委託をしている警備会社の警備員が出入口(本学正門と東門の 2 ヶ所)に設置している守衛所に常駐しており、定期的な学内巡回、建屋の施錠・開錠、不審者等の侵入防止に努めている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-9-1】施設・設備一覧

【資料 2-9-2】九州共立大学学舎配置図

2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

授業を行うクラスサイズは、原則として英語等の「言語教育科目」については 30 人程度、「キャリア教育科目」は 35~40 人、「教養教育科目」は最大 150 人、「情報教育科目」はパソコン教室の収容人数に応じ 40~80 人と設定している。この基準に基づいて開講コマ数や教員の持ちコマ数を全学教務委員会を中心に策定している。【資料 2-9-3】

学生の履修登録時において、この基準数を超えた場合、教養コア科目については抽選となることを学生にも周知しており、速やかに教務課で無作為抽選の上、掲示により他の授業科目への登録変更等を授業開始後 1 週間の期間で促し、早期の履修変更に対応している。【資料 2-9-4】その他の超過ケースについては、クラス数を増やし当該教員が担当可能な場合はコマ数増の調整をしたり、非常勤講師に追加依頼を行うなどの調整をして、適切なクラスサイズの維持運用に努めている。また、専門教育科目に関しては、

クラスサイズの上限設定は特に行っていないが、過去の受講者数の動向や授業評価アンケートの結果等を踏まえて、教育効果を考慮したより適切なクラスサイズで運用するようにしている。特に、初年次導入科目については、ホームクラス制の機能を持たせるために20人程度の少人数クラスとなるように、担当コマ割りおよび時間割作成の段階から調整するようにしている。【資料2-9-5】

【エビデンス集・資料編】

【資料2-9-3】九州共立大学および九州女子大学のクラスサイズの現状について

※二大学共通教育機構運営会議資料

【資料2-9-4】平成29年度前期 オリエンテーション・ガイダンス配付資料

【資料2-9-5】平成29年度 前期受講者数一覧(抜粋)

(3) 2-9の改善・向上方策(将来計画)

福原学園教育研究環境整備委員会ならびに福原学園教育研究環境整備委員会九州共立大学部会においては、施設設備の経年劣化への対応と震災等に対する安全対策を目的として、「福原学園第3次中期財政計画(平成31年度～平成35年度)」の立案に向けた施設設備の将来計画を策定する。

特に本学においては、昭和40(1965)年築の第一学舎および昭和51(1976)年築の西第一学舎については耐震補強工事が必要なことから、これらの代替施設として位置付けされている深耕館の再利用計画について検討しており、平成29(2017)年度には、部会においてその原案を作り、平成30(2018)年度より改修工事を行う予定である。

【基準2の自己評価】

学生の受け入れについては、明確な方針に基づいて受け入れている。収容定員充足率については、経済学部が100%こそ満たしていないが、平成28(2016)年度は80%を上回っている。平成29(2017)年度は70%を上回るまでであったが、今後もオープンキャンパス等の募集体制および入試体制の検証を行い、学生確保に努めていく。

教育課程および教授方法については、教育課程の編成方針を明確にし、その方針に沿って編成した教育プログラムを実施している。また、教授方法についても工夫している。

学修および授業の支援については、TAの活用はまだ制度化されていないが、教職協働で多様な支援を行っている。

単位認定、進級および卒業認定については、基準を明確にし、適正に行っている。

キャリアガイダンスは、教育課程内外で実施し、成果を上げている。進路決定率は97.2%である。

教育目的の達成状況の評価とフィードバックについては、様々な工夫をして実施している。

学生サービスは、適切に行っている。

教員の配置については、教育目的および教育課程に即して十分な数の専任教員を配置している。また、FDは適切に実施し、教養教育実施の体制も整えている。

教育環境については、適切に整備、管理、運営している。

基準 3. 経営・管理と財務

3-1 経営の規律と誠実性

《3-1 の視点》

3-1-① 経営の規律と誠実性の維持の表明

3-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

3-1-③ 学校教育法、私立学校法、大学設置基準をはじめとする大学の設置、運営に関連する法令の遵守

3-1-④ 環境保全、人権、安全への配慮

3-1-⑤ 教育情報・財務情報の公表

(1) 3-1 の自己判定

基準項目 3-1 を満たしている。

(2) 3-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-1-① 経営の規律と誠実性の維持の表明

福原学園は、寄附行為第 3 条に「教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、学是「自律処行」の精神に基づき、自己を自制し、知性と徳性を有する人材を育成することを目的とする」と定め、本学学則第 1 条に「本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的道徳的及び応用能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成することを目的とする」と定めている。【資料 3-1-1～2】

この寄附行為ならびに学則に基づき、「福原学園組織規則」をはじめとする「九州共立大学組織規則」「福原学園就業規則」ならびに各種会議規則等の諸規定を適切に定め、規律と誠実性を維持して経営・運営されている。【資料 3-1-3～5】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-1】学校法人福原学園寄附行為 【資料 F-1】と同じ

【資料 3-1-2】九州共立大学学則 【資料 F-3】と同じ

【資料 3-1-3】福原学園組織規則

【資料 3-1-4】九州共立大学組織規則

【資料 3-1-5】福原学園就業規則

3-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

福原学園は、教育機関としての使命と目的を果たし、安定的な経営と教育研究のさらなる向上を図るために、平成 26(2014)年 3 月の理事会・評議員会において、「第 2 次中期計画」・「第 2 次財政計画」を策定した。この第 2 次中期計画には、特色ある教育課程の編成、学修成果を重視した教育課程の強化、免許・資格取得支援の強化、学生支援の強化、就業力育成支援の強化、国際交流支援の強化、大学運営組織体制の強化、教職員相互信頼の強化、戦略的募集広報の強化の 9 つからなる業務・事業を掲げ、合計 22 件の具体的施策に取り組んでいる。この第 2 次中期計画に基づいてその使命・目的を実現すべく組織的・継続的な努力を行うこととしている。

また、全教職員がこの計画を共有し、その達成に向けて一致協力して取り組めるよう、

計画をガイドブックとしてまとめ全教職員に配付した。【資料 3-1-6】また、保護者や一般市民の理解を深めてもらえるよう、学園広報誌「Liberty」や本学ホームページ、大学ポートレートに第2次中期計画を掲載して公表しており、公共性を有する教育研究機関として、規律ある姿勢と誠実性を内外に表明している。【資料 3-1-7~9】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-6】 学校法人福原学園第2次中期計画ガイドブック

【資料 3-1-7】 学園広報誌「Liberty」2017 vol.16

【資料 3-1-8】 大学ホームページ

(情報開示⇒Ⅲ.その他公開情報)

【資料 3-1-9】 大学ポートレート (私学版)

3-1-③ 学校教育法、私立学校法、大学設置基準をはじめとする大学の設置、運営に関連する法令の遵守

福原学園の寄附行為ならびに本学の学則をはじめとする大学の設置、運営に関する諸規則については、全て関係法令(学校教育法、私立学校法、大学設置基準等)に基づいて制定されており、法令改正等の通達があった場合は、遅滞なくそれに対応している。教職員は、「福原学園就業規則」や「九州共立大学組織規則」をはじめとする諸規程【資料 3-1-10~11】に基づき業務を遂行しており、その他、教育機関として必要な研究活動における不正防止、ハラスメントの防止、個人情報保護等に関する諸規程【資料 3-1-12~15】についても定め、徹底した法令遵守を心掛けている。また、これら学内の規則・規程等については教職員であれば誰でも閲覧できるよう学園ホームページ上に「福原学園 例規集」を設け、体系的に整備し掲載している。

規則・規程等の改廃については、「福原学園規則等の呼称及び番号を定める規則」ならびに「福原学園規程等審査委員会規程」に定める諸手続きをもって行われており、厳格な運用が図られている。【資料 3-1-16~17】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-10】 福原学園就業規則

【資料 3-1-11】 九州共立大学組織規則

【資料 3-1-12】 九州共立大学の研究活動における不正防止に関する規程

【資料 3-1-13】 福原学園ハラスメントの防止及び対策に関する規程

【資料 3-1-14】 九州共立大学ハラスメント防止委員会要綱

【資料 3-1-15】 福原学園個人情報の保護に関する規程

【資料 3-1-16】 福原学園規則等の呼称及び番号を定める規則

【資料 3-1-17】 福原学園規程等審査委員会規程

3-1-④ 環境保全、人権、安全への配慮

学園内の環境保全については、「福原学園安全衛生管理規程」に「職員の安全及び健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進する」と規定されており、同規程に基づく衛生委員会を組織している。【資料 3-1-18】労働安全衛生法に基づく衛生管理者については、「福原学園衛生管理者の選任に関する要綱」に基づき適切に選任され、衛生

管理者と上述した衛生委員会の委員による定期巡視をはじめ、AED(自動体外式除細動器)講習会、熱中症予防講習会等を開催し、本学を含む福原学園の教職員が講義と実技を受講するなど実践的な活動をしている。【資料 3-1-19】さらに、「福原学園防火防災管理規程」を定め、法人事務局総務課で学園全体での防災訓練を実施するとともに、学内では学生・教職員が一体となり、年に1度地元の消防署と連携して防火訓練を実施している。

【資料 3-1-20】平成 25(2013)年度以降は単なる避難訓練の実施にならないように毎年テーマを設定して実施している。平成 25(2013)年度には、大学敷地外に設置する学生寮における寮生の避難訓練を実施し、平成 26(2014)年度には、火気を取り扱う食堂の調理場から出火したことを想定した避難訓練を実施した。さらに平成 27(2015)年度からは、法人事務局と連携して学園全体の教職員を対象に大規模地震の発生等の災害を想定した防災訓練を実施した。この他にも、「防火防災対策マニュアル」を作成し、整備している。

【資料 3-1-21】

また本学は、課外活動が盛んな大学であることから、「スポーツ事故の防止と緊急対応の手引き」【資料 3-1-22】を作成し、外部の指導者を含む課外活動指導者に配付するとともに本学ホームページにも掲載して誰もが対応できるように周知徹底し安全管理を図っている。

人権への配慮については、本学、法人事務局、九州女子大学・九州女子短期大学と主担当を交代しながら学園横断的に、毎年度1回人権・同和教育研修会を開催し、福原学園所属の全教職員に対する人権問題の啓発に取り組んでいる。【資料 3-1-23】

ハラスメントについては、新年度に実施される新入生オリエンテーションでハラスメント防止に関する指導をするとともに、ハラスメント防止委員会の設置、「福原学園ハラスメントの防止及び対策に関する規程」に基づくハラスメント相談員の選任ならびに「ハラスメントに関するリーフレット」の配付を行い、学生も含め福原学園全体で組織的に対応している。【資料 3-1-24~26】たとえば、平成 27(2015)年度の経済学部FD研修会ではテーマをLGBT(Lesbian Gay Bisexual Transgender)と設定した研修会を実施した。これは、翌年度に性同一性障害の学生が入学することが予定されていたことによる。このように本学では各種の問題にその都度すぐに対応できる体制をとっている。平成 28(2016)年度においても、人権・同和教育研修会において多様な性について講演会を開催したところである。

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-18】福原学園安全衛生管理規程

【資料 3-1-19】福原学園衛生管理者の選任に関する要綱

【資料 3-1-20】福原学園防火防災管理規程

【資料 3-1-21】防火防災対策マニュアル

【資料 3-1-22】スポーツ事故の防止と緊急対応の手引き

【資料 3-1-23】平成 28 年度「人権・同和教育研修会」資料

【資料 3-1-24】九州共立大学ハラスメント防止委員会要綱

【資料 3-1-25】福原学園ハラスメントの防止及び対策に関する規程

【資料 3-1-26】ハラスメントに関するリーフレット

3-1-⑤ 教育情報・財務情報の公表

各種教育情報については、本学ホームページに「情報開示」のバナーを設け公表している。また、財務情報については、福原学園で「財務情報の開示要領」【資料 3-1-27】を定めており、本学ホームページの「情報開示」に、「資金収支計算書及び内訳表(予算及び決算)」「活動区分資金収支計算書及び内訳表(予算及び決算)」「事業活動収支計算書及び内訳表(予算及び決算)」「貸借対照表」「財産目録」「監事の監査報告書」「事業活動収支推移表(5ヵ年分)」「貸借対照表関係比率推移表(5ヵ年分)」「事業活動収支及び活動区分資金収支計算書関係比率推移表(4ヵ年分)」【資料 3-1-28】を公表している。さらに、「福原学園ファクトブック」に「財政」の項目を設け、学園の財政状況に関するデータを掲載し、情報の共有化を図っている。【資料 3-1-29】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-27】 財務情報の開示要領

【資料 3-1-28】 大学ホームページ

(情報開示⇒Ⅲその他の公開情報 4.財務状況)

【資料 3-1-29】 平成 28 年度福原学園ファクトブック

(3) 3-1 の改善・向上方策（将来計画）

本学は、平成 26(2014)年 3 月に第 2 次中期計画ならびに第 2 次財政計画を策定した。この第 2 次中期計画を着実に達成するため、毎年事業計画を策定し、年度末に事業報告を取りまとめて検証するとともに翌年度の改善・是正に結び付け、PDCA サイクルを組織的に機能させ、着実な遂行を図る。また、諸法令を遵守するとともに学内の環境保全、人権、安全への配慮に努め、有事の事態に備えるために全学的な訓練を実施する。

3-2 理事会の機能

《3-2 の視点》

3-2-① 使命・目的の達成に向けて戦略的意思決定ができる体制の整備とその機能性

(1) 3-2 の自己判定

基準項目 3-2 を満たしている。

(2) 3-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-2-① 使命・目的の達成に向けて戦略的意思決定ができる体制の整備とその機能性

福原学園には、法人管理運営組織として、理事会、評議員会、常務理事会を置いている。また、理事長の諮問機関として経営戦略会議を、その下に中期経営計画委員会、経営企画運営委員会および教育環境整備委員会等を設置している。【資料 3-2-1~2】さらに、経営と教学の意見交換の場として教学運営懇談会を置いている。【資料 3-2-3】理事会、評議員会および経営戦略会議の審議事項・協議事項に関しては、各会議の透明性確保の観点から、学園ホームページ上で教職員に公開している。【資料 3-2-4~6】また、これらの会議での詳細な内容は、本学では評議員会において報告があり、大学全ての構成員に周知されている。

理事会は、理事総数の3分の2以上の出席により成立し、迅速な意思決定をするため、毎月開催するほか、必要な場合は臨時に開催している。理事の選任に関しては、「寄附行為」第6条に基づき、理事9人以上10人以内および監事2人と定めている。理事の選任は「寄附行為」第7条に基づき、①九州共立大学及び九州女子大学の学長ならびに自由ヶ丘高等学校の校長の3人、②評議員のうちから理事会において選任された者4人、③学識経験者(学長及び校長又は評議員である者を除く。)のうちから、理事会において選任された者2人または3人としている。監事の選任については、寄附行為第8条に基づき、理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任することとしている。【資料3-2-7】

理事のうち1人を理事長として、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任する時も同様とする。また、理事のうち1人を副理事長、2人以内を常務理事とし、理事総数の過半数の議決により選任する。副理事長及び常務理事の職を解任する時も、同様とすると規定している。これら役員 の適性、親族関係者等の選任の制限、任期、補充、解任および退任に関することは、「寄附行為」第9条から第12条までに規定している。

理事会の下に常務理事会を置き、理事会で決定するこの法人の業務について予備審査を行い理事会に付議すべき議案を決定するとともに、この法人の日常の業務を決定し執行している。

理事会は原則として月1回以上、評議員会は必要に応じ、常務理事会は原則理事会開催の一週間前に開催し(平成28(2016)年度において理事会は19回、常務理事会は13回、評議員会は7回開催)、法人の管理運営に関して適宜意思決定を行っている。平成28(2016)年度の理事会における理事の実質出席率は平均96.8%であるが、寄附行為第13条第9項に規定する「理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。」という条項に照らすと出席率は100%となり、適正に運営している。【資料3-2-4~5】

経営戦略会議については、平成28(2016)年度において7回開催【資料3-2-6】し、大学改革および学生募集戦略に関すること等、学園全体の経営に関する戦略の方針を審議し決定している。【資料3-2-1】

【エビデンス集・資料編】

【資料3-2-1】 福原学園経営戦略会議規則

【資料3-2-2】 福原学園経営戦略会議のもとに設置する委員会等

【資料3-2-3】 福原学園教学運営懇談会要項

【資料3-2-4】 平成28年度福原学園理事会 *

【資料3-2-5】 平成28年度福原学園評議員会 *

【資料3-2-6】 平成28年度福原学園経営戦略会議 *

【資料3-2-7】 学校法人福原学園寄附行為 【資料F-1】と同じ

* 福原学園ホームページ「福原学園 会議情報」

(3) 3-2の改善・向上方策(将来計画)

理事長の諮問機関として設置している経営戦略会議については、管理運営に関する基

本方針や教育改革等を遂行するために必要な事項について審議している。経営戦略会議の下には目的別に中期経営計画委員会や教育環境整備委員会等の「委員会」を、さらにその下には各大学や高校に「部会」を設置し、意思決定にあたっては現場の意見を速やかに吸い上げ、組織的に審議・決定する体制を整えている。今後も引き続き、迅速かつ機能的に戦略的意思決定を行うよう努める。

3-3 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ

《3-3の視点》

3-3-① 大学の意思決定組織の整備、権限と責任の明確性及びその機能性

3-3-② 大学の意思決定と業務執行における学長の適切なリーダーシップの発揮

(1) 3-3の自己判定

基準項目 3-3 を満たしている。

(2) 3-3の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-3-① 大学の意思決定組織の整備、権限と責任の明確性及びその機能性

本学の意思決定組織については、大学の使命・目的に沿って平成 25(2013)年度末から大幅な改編について検討を重ね、学長のリーダーシップの下で恒常的な見直しと迅速な意思決定を行うことを目的として、「部局長会議」の機能強化に主眼を置いた改編を行い、平成 26(2014)年 4 月から新たな体制をスタートさせた。【資料 3-3-1】

当面は、この組織体制をもって教育改革のサイクルがうまく機能しているか検証し、必要に応じて改善を加えながら進めていく予定であったところ、大学のガバナンス改革の推進を趣旨とした学校教育法の改正(平成 26(2014)年 6 月 27 日公布、平成 27(2015)年 4 月 1 日施行)が行われることとなったことから、本学においてもその趣旨を踏まえた意思決定組織の再改編についてあらためて取り組むこととした。

このたびの学校教育法の改正は、学長のリーダーシップの下で戦略的に大学を運営することができるガバナンス体制を構築するため、学長を補佐する体制の強化を目的とした「副学長の職務の拡充」と、大学運営上の権限と責任の一致を目的とした「教授会の役割の明確化」の二点について改革を求めるものであった。

本学では、まず「副学長の職務の拡充」について、学校教育法第 92 条第 4 項の趣旨に沿って、本学副学長の職務内容を規定している「九州共立大学組織規則」の一部改正を行った。【資料 3-3-2】

次に、「教授会の役割の明確化」に関しても法改正の趣旨に則り大幅な改革を行った。中央教育審議会大学分科会の「大学のガバナンス改革の推進について(審議まとめ)」によれば、「必ずしも学部ごとに教授会を置かずに、教育課程委員会や教員人事委員会などの形で、それぞれの分野で能力のある適任者を選任することは可能であるし、より実質的・積極的な議論が期待できる場合も考えられる。」とあることから、本学においても機能別に教授会を置くこととした。具体的には、入学者選抜のための入学試験に関することを審議する「入学試験委員会」と、主に教員の教育研究業績の審査に関することを審議する「九州共立大学大学教員人事計画委員会」の二委員会については、その審議内容

の重要性に鑑み本学の教授会と位置付けることとした。また、両学部の教授会ならびに共通教育センター会議については、学校教育法第93条第2項1～3号に規定する内容について学長に対し意見を述べる機関とし、それぞれを「学部教育運営委員会」「共通教育センター教育運営委員会」、さらに全学教授会を「全学教育運営委員会」と名称を変更し、上述の二委員会と併せこれら五つの委員会を本学の教授会と位置付けることとした。この改革については、まず九州共立大学学則において教授会の定義を変更したうえで、「九州共立大学教授会規則」を廃止すると同時に「九州共立大学教育運営委員会規程」を新たに制定し、従来の教授会の役割であった教育研究に関する「審議機関」を「学長に意見を述べる機関」に変更することを明確化した。【資料3-3-3】

なお、学校教育法第93条第2項第3号に規定する「教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの」に該当する審議事項については、その基本方針を明文化し、特に教育運営委員会においては今後審議する事項と、これまで教授会で審議していた事項で今後は審議しない事項とを明確に区分し、審議する事項については「学長裁定」として本学ホームページに掲載することとした。【資料3-3-4】

さらに本学では、この学校教育法の改正と併せ、学長のリーダーシップのさらなる強化を目的として、意思決定組織についても改編を行った。平成26(2014)年度の改編では、部局長会議の下に全ての各種委員会を置くことにより、同会議を評議会における審議の議題整理と事前審査の機関として位置付け、情報の集約と意思決定の迅速化を図ることとしたが、今回の改編ではこの部局長会議を廃止し、同会議の機能については全て評議会に統合することとした。これにより、従来の各種委員会および新たに教授会として位置付けることとした五つの委員会を含む全ての委員会を評議会の下に置くこととなり、本学の教育研究に関しては全て学長が評議会において意見を徴したうえで意思決定を行う仕組みを構築することとなった。【資料3-3-5】

【エビデンス集・資料編】

【資料3-3-1】平成26年度九州共立大学管理運営体制改編図

【資料3-3-2】九州共立大学組織規則

【資料3-3-3】九州共立大学教育運営委員会規程

【資料3-3-4】学長裁定「平成29年度九州共立大学教授会の審議事項について」

【資料3-3-5】平成27年度九州共立大学管理運営体制改編図

3-3-② 大学の意思決定と業務執行における学長の適切なリーダーシップの発揮

本学の最高意思決定機関である「評議会」は、学長が議長を務めることによりその責任と権限を明確にしている。【資料3-3-6】また、3-3-①で述べた機能別教授会として定めた委員会ならびに評議会の下に設置した委員会のうち、「大学教員人事計画委員会」、「入学試験委員会」、「自己点検・評価委員会」ならびに「FD委員会」については審議内容の重要性に鑑み、学長自らが委員長となり委員会を主宰している。【資料3-3-7～9】

学長の業務執行にあたっては、特別補佐2人を置き、学長を補佐する体制を整備するとともに、これらのメンバーに学部長、事務局長を加えた「経営協議会」を毎月第1水曜日に開催し、学長が議長となって本学の戦略的重要課題や教員人事に関することなど

大学経営の根幹をなす事項について審議している。【資料 3-3-10～11】

これにより、意思決定そのものもさることながら、決定事項の実施や情報の伝達においても迅速化が図られ、学長の的確な経営判断と強力なリーダーシップを下支えする機能を構築している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-3-6】九州共立大学評議会規則

【資料 3-3-7】九州共立大学入学者選抜規程

【資料 3-3-8】九州共立大学自己点検・評価実施規程

【資料 3-3-9】九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

【資料 3-3-10】福原学園学長特別補佐選考規則

【資料 3-3-11】九州共立大学経営協議会要綱

(3) 3-3 の改善・向上方策（将来計画）

平成 27(2015)年の改正学校教育法では、学長のリーダーシップの確立とそのための学長補佐体制の充実ならびに教授会の役割の明確化等が求められることとなった。本学においては、改正前から学長の権限と責任を明確にし、そのリーダーシップを十分に発揮することができる体制を構築していた。法改正の趣旨に則り、あらためてガバナンス体制の総点検・見直しを行い、特に機能別教授会の設置と評議会を中心とした意思決定組織の改編を行った。現在、改編後の機能・組織をもって第 2 次中期計画ならびに諸改革に取り組んでいるところであるが、今後も率先して改革にあたっていくものとする。

3-4 コミュニケーションとガバナンス

《3-4 の視点》

3-4-① 法人及び大学の各管理運営機関並びに各部門間のコミュニケーションによる意思決定の円滑化

3-4-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックによるガバナンスの機能性

3-4-③ リーダーシップとボトムアップのバランスのとれた運営

(1) 3-4 の自己判定

基準項目 3-4 を満たしている。

(2) 3-4 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-4-① 法人及び大学の各管理運営機関並びに各部門間のコミュニケーションによる意思決定の円滑化

福原学園には、寄附行為に基づき、法人全体の管理運営組織として、理事会、評議員会、常務理事会を設置している。【資料 3-4-1～4】また、理事長の諮問機関として主に福原学園全体の運営について審議する経営戦略会議、さらに、経営と教学の意見交換の場として教学運営懇談会を設置している。【資料 3-4-5～6】これら法人が主宰する管理運営組織には、本学の学長、事務局長が理事ならびに委員として出席しており、本学の意思の反映に努めている。

理事会、評議員会、および経営戦略会議の審議事項や協議事項については、各会議の透明性の確保の観点から、学園ホームページ上で教職員に公開している。【資料 3-4-7】

また、これらの会議での詳細な内容は、評議会において事務局長が報告し、評議会メンバーが各学部や部局に持ち帰って報告することにより、大学全ての構成員に周知されている。さらに、毎年5月には福原学園の全教職員が集う学園総会を開催し、教職員の模範表彰や永年勤続表彰を行うとともに理事長が所信表明を行い、当年度の事業計画等の経営方針について教職員への周知を図っている。【資料 3-4-8】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-4-1】 学校法人福原学園寄附行為 【資料 F-1】 と同じ

【資料 3-4-2】 学校法人福原学園寄附行為施行細則 【資料 F-1】 と同じ

【資料 3-4-3】 福原学園理事会会議規則

【資料 3-4-4】 福原学園常務理事会規則

【資料 3-4-5】 福原学園経営戦略会議規則

【資料 3-4-6】 福原学園教学運営懇談会要項

【資料 3-4-7】 福原学園ホームページ「福原学園 会議情報」抜粋

【資料 3-4-8】 平成 28 年度福原学園総会 次第

3-4-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックによるガバナンスの機能性

福原学園の監事は、寄附行為第 8 条ならびに第 9 条により、本法人の理事、評議員若しくはその親族その他特殊の関係がある者又は職員(学長、校長、教員その他の職員を含む。)以外の者の中から、理事会において候補者を選出し、評議員会の同意を得たうえで理事長が選任することになっている。監事は、本法人の業務又は財産の状況について監査報告書を作成して理事会ならびに評議員会に提出するとともに、その場で意見を述べることができる。【資料 3-4-9】平成 28(2016)年度の理事会における監事の出席率は 100%であり、必要に応じて意見を述べている。

福原学園に設置する評議員会は、本法人の職員 8 人、本学、九州女子大学・九州女子短期大学それぞれの同窓会会長、学園の理事のうち 2 人、学園の功労者 4 人、学園に関係のある学識経験者 5 人の計 21 人で構成しており、寄附行為第 24 条に規定する重要事項について、理事長からの諮問に基づき意見を述べている。【資料 3-4-10】特に本法人の職員 8 人の中には、本学の代表として学部長 2 人と事務局長 1 人が選出されており、本学の現状とあるべき姿を十分に踏まえた意見の表明がなされている。【資料 3-4-11】平成 28(2016)年度の評議員会における評議員の実質出席率は平均 87.1%であるが、寄附行為第 22 条第 8 項のただし書きに規定する「書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。」という条項に照らすと出席率は 100%となり、適正に運営している。

中期計画における各事業プランの進捗状況のチェックにあたっては、事業プラン担当者が作成した進捗状況報告書について、まず各設置校(法人事務局を含む)に設置する中期計画部会において審議され、次にその内容は各設置校の事務局長等がメンバーとして参画している中期経営計画委員会において審議したうえで経営戦略会議に上程される。

このように本学と法人間で相互チェックを行う仕組みを整備することで、福原学園の

ミッションと大学のビジョンの実現に向けたより強固な取り組みを可能としている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-4-9】 学校法人福原学園寄附行為 【資料 F-1】 と同じ

【資料 3-4-10】 学校法人福原学園寄附行為施行細則 【資料 F-1】 と同じ

【資料 3-4-11】 平成 28 年度 評議員名簿

3-4-③ リーダーシップとボトムアップのバランスのとれた運営

本学の学長は福原学園の副理事長を兼務していることから、経営サイドからの情報発信と教学サイドからの意見聴取というコミュニケーションの根幹において、十分にバランスのとれた運営が図られている。

毎年 4 月に「九州共立大学の改革について」と題し、学長自らが主要な重要課題と当該年度の改革について全体的な方針を述べるとともに、自らが大学運営の牽引者たることについての表明を行っている。【資料 3-4-12】

一方、教職員からの意見等については、評議会の下に設置する各種委員会において徴収され、評議会に上程し審議される。また、平成 26(2014)年度からスタートした「福原学園第 2 次中期計画」の平成 25(2013)年度における策定段階においては、基本目標を達成するための具体的な業務・事業について、ボトムアップの観点から教職員に対してアイデアを募集し、提案があった業務・事業については本学に設置したタスクチームにおいて具現化されている。【資料 3-4-13】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-4-12】 平成 29 年度「九州共立大学の改革について－学長方針－」

【資料 3-4-13】 第 2 次中期計画策定に係る説明会(平成 25(2013)年 7 月 17 日)資料

- ① 福原学園 第 2 次中期計画の策定について
- ② 福原学園 第 2 次中期計画ツリー図(案)
- ③ 九州共立大学第 2 次中期計画記入用紙

(3) 3-4 の改善・向上方策(将来計画)

上述したように、本学においては、法人と大学間ならびに経営と教学間のコミュニケーションが図られているが、この状態を維持・発展させるために、高いコミュニケーション力とガバナンス機能を有する組織的な運営体制の強化に向けた新たな方策を策定していく。

3-5 業務執行体制の機能性

《3-5 の視点》

- 3-5-① 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した組織編制及び職員の配置による業務の効果的な執行体制の確保
- 3-5-② 業務執行の管理体制の構築とその機能性
- 3-5-③ 職員の資質・能力向上の機会の用意

(1) 3-5 の自己判定

基準項目 3-5 を満たしている。

(2) 3-5 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-5-① 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した組織編制及び職員の配置による業務の効果的な執行体制の確保

福原学園の事務組織は、「福原学園組織規則」に規定される法人の事務組織と、「九州共立大学組織規則」に規定される大学の事務組織とで構成され、これらが連携・協力を図りながら本学の管理運営体制の根幹を支えている。【資料 3-5-1~2】

法人事務組織には、法人事務局と経営企画本部があり、法人事務局には秘書室、総務課、広報室を束ねる総務部、経理課、管財施設課を束ねる財務部があり、理事長・副理事長直轄の経営企画本部には、改革推進室、共通教育支援室、国際交流・留学生支援室、および IR 推進室がある。また、理事長直轄の内部監査室を設置している。【資料 3-5-1】

大学の事務組織には部局制が敷かれているが、平成 29(2017)年度には、事務局、教務部、学生支援部、就職支援部および入試広報部の 1 局 4 部制から、事務局、教務部および学生支援部の 1 局 2 部制へ再編を図った。この部局の下に、事務局には総務課、教務部には教務課および入試広報課、学生支援部にはキャリア支援課を設置している。各課が所掌する事務については、その内容を組織規則において明確に規定しており、所掌事務の質や量に応じた適切な人事配置を行っている。人事異動については、毎年度、設置校ごとに策定する「人事計画書」に基づき、法人事務局で開催される人事ヒアリングで人事配置に関する要望事項等を徴収したうえで実施される。また、各課所掌の事務の内容に関し、具体的に当該課のどの職員が担当しているかについて、「事務分担表」と称する一覧表によって明確にされている。この事務分担表はグループウェア上で本学教職員であれば誰でも閲覧できるようになっている。【資料 3-5-3】

事務局には事務局長、各部には部長、各課には課長がそれぞれ事務の責任者として配置されているが、このうち教育と学生サービス部門を担当する教務部、学生支援部の 2 部については、事務組織と教学組織の協働を目的として、それぞれの部長職に教員を充てている。【資料 3-5-4】

さらに、本学には附属の教育研究機関を設置しており、事務組織と同様に平成 29(2017)年度から組織を見直し、附属図書館、情報処理教育研究センター、総合研究所、学習支援センター、共通教育センター、スポーツ・トレーニングセンター、地域連携推進室および生涯学習研究センターを、附属図書館、学術情報センター、地域連携推進センター、共通教育センター、スポーツ・トレーニングセンターに再編した。それぞれの所属長には本学教員が任命され、各機関に事務職員を配置し支援体制の充実を図っている。【資料 3-5-5~10】

本学では、3-3-①で述べた最高意思決定機関である評議会には事務部門の管理職が構成員として加わっており、教職協働体制を確立している。【資料 3-5-11】

法人事務局の事務組織と本学の事務組織については、事務の内容により分担を行っている。本学における改革事業に関する事務については、法人事務局の経営企画本部改革推進室が所掌している。特に、大学の改組計画等の重要案件については、学園全体の将来構想に深く関わることから経営サイドの事務組織である改革推進室が主導して進める

こととしている。また、共通教育に関することや国際交流・外国人留学生の受け入れに関することなど九州女子大学・九州女子短期大学との連携・協力が必要な事案については、それぞれ、経営企画本部共通教育支援室、同部国際交流・留学生支援室が所掌し、両大学間の調整を図りながら事務を遂行している。さらに福原学園に保健センターを設置し学生ならびに教職員の健康管理に努めている。【資料 3-5-12～14】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 3-5-1】 福原学園組織規則
- 【資料 3-5-2】 九州共立大学組織規則
- 【資料 3-5-3】 事務分担表
- 【資料 3-5-4】 事務組織図
- 【資料 3-5-5】 九州共立大学附属図書館規程
- 【資料 3-5-6】 九州共立大学学術情報センター規程
- 【資料 3-5-7】 九州共立大学学習支援センター規程
- 【資料 3-5-8】 九州共立大学共通教育センター規程
- 【資料 3-5-9】 九州共立大学スポーツ・トレーニングセンター要項
- 【資料 3-5-10】 九州共立大学地域連携推進センター規程
- 【資料 3-5-11】 九州共立大学評議会規則
- 【資料 3-5-12】 福原学園組織規則
- 【資料 3-5-13】 九州共立大学・九州女子大学共通教育機構規程
- 【資料 3-5-14】 福原学園保健センター規則

3-5-② 業務執行の管理体制の構築とその機能性

本学の事務に関する業務執行は、学長の指揮監督の下、大学事務組織の責任者である事務局長が統括している。3-5-①で述べた事務組織については、事務局長の下に組織されているが、このうち、大学機能の核である教育と学生サービスを担う教務部、学生支援部の下に置かれている教務課および入試広報課、キャリア支援課については、それぞれ教員が兼務している部長と事務局長が、教育の面と事務の面それぞれの責任と権限を分業しており、教職協働体制を採ることによりその機能性を高めている。【資料 3-5-15～16】

事務局長は、3-4-①で述べた通り、法人全体の管理運営組織である理事会、評議員会、常務理事会、経営戦略会議の構成員であり、【資料 3-5-17】そこでの審議内容や決定事項等については、速やかに当該事項を所管する部署に周知している。【資料 3-5-18】また、事務局長は、毎週月曜の朝に事務職管理職等で構成する「課長報告会」を主催し、各課長等から当該課等の懸案事項、第2次中期計画に基づく各種事業の進捗状況を報告させるとともに、日々の業務で発生する様々な問題点や課題を持ち寄り協議する場として活用している。【資料 3-5-19】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 3-5-15】 九州共立大学組織規則
- 【資料 3-5-16】 事務組織図
- 【資料 3-5-17】 理事会、常務理事会、経営戦略会議 名簿

【資料 3-5-18】 法人会議報告

【資料 3-5-19】 課長報告会資料「懸案事項の進捗状況について」

3-5-③ 職員の資質・能力向上の機会の用意

福原学園では、平成 21（2009）年度から教職員全員を対象とした人事評価制度を導入し、昇給・昇任等の人事処遇に反映させている。事務職員については、毎年 3 月に当年度における業務遂行度について評価者（上司）が「福原学園人事評価規程」に規定する評価要素に基づいて評価を行う。評価要素は、「成果」と「プロセス」に大別され、「成果」については「仕事の質」と「仕事の量」、「プロセス」については「規律性」「責任性」「協調性」「積極性」の各要素に、それぞれ 2～4 の着眼点が設定されており、評価者（上司）は被評価者（部下）の日々の業務内容や取り組み姿勢を勘案しながら絶対評価を行い、評価点基準に従って±1 点の範囲内で点数化する。評価者の評価結果については、福原学園経営戦略会議のもとに設置された「事務職員等人事評価委員会」において、評価者それぞれが独立の立場で評価することに伴う評価の誤差が調整された後、等級別に相対評価が行われ、昇給等の人事処遇に反映させる成績評語（SABCD の 5 段階）が決定する。【資料 3-5-20】

この人事評価を実施するにあたっては、これに関連するツールを設け、定期的な上司と部下の面談を促すことによって、部下の資質・能力、上司の部下育成能力の向上に努めている。4 月には上述の人事評価結果について「フィードバック面談」を行い、前年度における仕事の成績を正しく自覚させ、当年度に向けた動機付けを行っている。そのうえで、被評価者（部下）は自らの職位と担当する業務について自己チェックを行い、これを踏まえた当該年度の課題を抽出し個人の目標を記載する「自己チェックシート」を作成し、あらためて面談を実施し、上司と部下による個人目標の共有を行うこととしている。【資料 3-5-21～23】

さらに 11 月には「自己申告制度」を実施している。これは、職務や職場に関する希望と意見を収集し、本人の処遇と能力開発に役立てることを目的としたもので、課長相当職以下の者について「自己申告表」を作成・提出させ、これに基づき上司との面談を実施し、上述の自己チェックシートとは異なる側面からの「自己評価」に対する助言を行い、人事評価の基礎情報を収集している。【資料 3-5-24】

事務職員の資質向上を目的とした研修は、「福原学園事務職員等研修規程」に基づき、体系的に実施している。研修は、本規程に定められた研修委員会および下部組織である運営部会において毎年度の研修計画を企画立案しており、階層別研修を中心とし、PC スキルアップ研修や人事評価者研修等を実施している。階層別研修では、接遇・ビジネスマナー等の社会人基礎を学ぶ「初任者研修」、40 歳以下の職員の自己活性化を促す「若手職員育成セミナー」、昇格した者を対象とした「中堅職員育成セミナー」、将来の管理職候補として選別された者を参加させる「管理職養成セミナー」がある。「PC スキルアップ研修」では、ワード、エクセル、パワーポイントについて基礎編・応用編を設定し、希望する職員（パートタイマーを含む）に対して実施しており、「人事評価者研修」では、人事評価において評価者となる管理職に対し、公正・公平な評価を目指しその精度を上げることを目的としたプログラムを実施している。【資料 3-5-25～26】

その他、本学では学外研修への参加も奨励しており、教務・教職事務、経理事務、学生指導および就職指導等の専門業務に関して外部機関が主催する説明会や研修会に積極的に参加させ、能力の向上に努めている。さらに、これらの外部研修会に参加した職員が報告書を作成し、学園ホームページの「情報共有広場」に掲載することにより、知識・情報の共有化を図っている。【資料 3-5-27】

また、SD 研修会についても積極的に実施している。本学では「FD・SD 研修会」を年に 2 回行うこととしており、1 回目は教職協働の観点から教職員合同の研修会を、2 回目は事務職員のみによる「事務局 SD」研修会を開催し、専門知識の高度化と資質・能力の向上に努めている。【資料 3-5-28～29】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-5-20】 福原学園人事評価規程

【資料 3-5-21】 人事評価に関する自己チェックシートの作成について

【資料 3-5-22】 人事評価に係るツールおよび面談の流れ

【資料 3-5-23】 人事評価にあたって職務遂行度の自己チェックシート

【資料 3-5-24】 福原学園自己申告制度実施要綱

【資料 3-5-25】 福原学園事務職員等研修規程

【資料 3-5-26】 平成 28 年度 各種職員研修実績一覧表

【資料 3-5-27】 福原学園研修・セミナー通信「情報共有広場」第 76～78 号

【資料 3-5-28】 平成 28 年度 FD・SD 研修会(次第)、出欠表

【資料 3-5-29】 平成 28 年度第 2 回 FD・SD 研修会各部署別実施報告書、出欠表

(3) 3-5 の改善・向上方策（将来計画）

大学運営をさらに強化するためには、より強固な教職協働体制の構築を図ることが重要である。平成 29(2017)年度から SD が義務化されており、SD 研修会等の実施により事務職員の能力および資質を向上させる。また、平成 29(2017)年度から事務組織の在り方とその所掌事務の見直しを行ったが、これからも改革業務に傾注することができる環境の整備に取り組む。

3-6 財務基盤と収支

《3-6 の視点》

3-6-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

3-6-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

(1) 3-6 の自己判定

基準項目 3-6 を満たしている。

(2) 3-6 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-6-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

本法人の本格的な中期財政計画の策定は、平成 21(2009)年度に策定した 4 ヶ年(平成 22(2010)年度～平成 25(2013)年度)にわたる第 1 次中期財政計画(以下「第 1 次財政計

画」という。)が最初である。現在は平成 26(2014)年 3 月に策定した第 2 次中期財政計画(以下「第 2 次財政計画」という。)の 3 年目を終わったところである。

第 1 次財政計画は、教育計画全般を中心とした改善計画である「第 1 次中期計画」および「事業計画」と連動させて策定し、施設設備計画に基づく資金収支計画も策定したものであり、学校単位ごとに全教職員に説明会を開催し組織的共有を図ったものであった。計画期間終了の結果、最終年度には、第 1 の収支計画については帰属収支レベルにおいて超過額の目標値(1 億 16 百万円)には及ばなかったが、76 百万円(帰属収支差額比率 1.1%)の収入超過を実現することができた。第 2 の資金積立計画については目標の積立額(10 億円)には及ばなかったが 5 億円の積立が実現できた。したがって第 1 次財政計画は最低限の目標は達成できたと言える。さらに、毎年度の当初予算編成等における重要な財政運営の指針として活用することができたと同時に教学改革との連動性も意識化され組織的に浸透しつつある。

第 2 次財政計画は、第 1 次財政計画を踏まえて 2 つの課題を設定した。第 1 の課題は、第 2 次財政計画期間中の事業計画の中核が耐震対策のための施設計画であり、その投資規模が約 67 億円と多額であることから、その資金計画に係ることであった。具体的には経年劣化による定期的な大規模修繕を含めると 5 ヶ年で施設投資総額が 95 億円の巨額に達することが予測されたことから、積立金を 8 億円取り崩し、さらに早期償還予定の仕組債 10 億円を充当するほか 45 億円の借入を計画して、最終年度においては約 53 億円の支払資金を確保することを目標とした。第 2 の課題は、第 1 次財政計画の最終年度で達成した帰属収支レベルにおける収入超過の達成が有価証券の売却益という臨時的な収入に助けられた面もあったことから、これを一過性に終わらせることなく、今後持続的に維持できる収支体質に改善することであった。具体的には最終年度(平成 30(2018)年度)には帰属収支レベルにおける収入超過を 1 億 17 百万円(帰属収支差額比率 2.3%)にすることを目標にした。

第 2 次財政計画策定の過程においては、中核事業である耐震対策事業及び資金対策については慎重な組織的討議を行った。また、耐震対策事業に関しては、補助金等の臨時的収入が見込まれる一方、耐震調査費、耐震改築(新学舎建設)により不用となる対象建物の解体に係る多額の臨時的支出が必要となるので、これらの臨時的要因を除外した収支のシミュレーションを行い、法人の経常的収支体質の推移を確認しながら策定している。なお、臨時国会の補正予算によって耐震改築事業に対する補助金の算定方法が具体的にになるにしたがって補助金が過大見積りになっていることが判明したので、平成 26(2014)年 6 月には補助金収入を 16 億 77 百万円減額し最終年度における支払資金の確保を約 44 億円とする内容に中期財政計画を一部変更した。

また第 2 次財政計画の内容を組織的に実行していくために、学園ホームページにおける公開はもとより第 1 次財政計画の時と同様に所属ごとに説明会を開催して財政改善をより一層組織的に進めることに努めた。

このような第 1 次および第 2 次と 2 回に及ぶ中期財政計画の策定の経験は、本法人および本学において、教学改革を中心とする中期事業計画と中期財政計画とを両輪として策定し実行するという財政運営スタイルの確立に寄与することができた。

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 3-6-1】平成 28 年度事業計画
- 【資料 3-6-2】平成 28 年度計算書類
- 【資料 3-6-3】第 1 次中期財政計画（H22 年度～H25 年度）
- 【資料 3-6-4】第 2 次中期財政計画（H26 年度～H30 年度）
- 【資料 3-6-5】九州共立大学事業活動収支 5 ヶ年推移表（H24 年度～H28 年度）
- 【資料 3-6-6】法人全体の事業活動収支 5 ヶ年推移表（H24 年度～H28 年度）

3-6-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

本法人が社会に対して建学の精神に沿った教育事業を永続的に提供していくことができるためには、健全な収支バランスの確保とそれを基礎として財務基盤の確立を図ることが必要不可欠である。

まず本学の財政の現状と推移を表 3-6-1 によってみる。なお財政の現状を「構造的」に把握するには平成 27(2015)年度から適用された新会計基準に依拠して「特別収支」を除いた「経常収支」及び大学にとって使命そのものである教育活動の財政的表現である「教育活動収支」に着目することが適切であるため、新会計基準適用以前の過年度分の数値についても区分、科目を組み替えて作成している。この組み替えは法人全体の財政の現状を把握する場合の表についても同様である。

本学の直近 5 ヶ年の財政状況は、本学教職員の組織的努力によって、平成 24（2012）年度にはわずか 1.0%であった経常収支差額比率が、平成 28(2016)年度には 11.2%と順調に改善し、収支バランスの改善に成功している。その内訳をみると、大学にとって最も基本的な収支である教育活動収支が大幅に改善していることがわかる。その教育活動収支の改善の要因は、経常費等補助金収入（特別補助）の増加および教育活動支出の減少によってもたらされている。

表 3-6-1 本学の経常収支の推移表

単位：百万円

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
教育活動収入の部計	2,723	2,760	2,711	2,833	2,884
教育活動支出の部計	2,707	2,643	2,600	2,632	2,575
教育活動収支差額	16	117	111	201	309
教育活動収支差額比率	0.6%	4.2%	4.1%	7.1%	10.7%
教育活動外収入の部計	12	39	95	74	16
教育活動外支出の部計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	12	39	95	74	16
経常収入	2,735	2,800	2,806	2,907	2,900
経常支出	2,707	2,643	2,600	2,632	2,575
経常収支差額	28	157	205	275	325
経常収支差額比率	1.0%	5.6%	7.3%	9.5%	11.2%

本学において教育活動収支バランスが改善した要因である教育活動支出が減少した内

訳を分析するためにその内訳を示すと表 3-6-2 のとおりである。この表から明らかなように、教育研究経費と管理経費の経費合計は、耐震補強工事に伴う調査費、修繕費により臨時的に増加している平成 26(2014)年度を除いて毎年度 10 億数千万円と比較的安定していて変化がない。ところが人件費が平成 24(2012)年度に比較すると 1 億 23 百万円減少しており減価償却額の若干の減少と相まって教育活動支出は着実に減少していると言える。人件費の減少要因は、職員退職者の不補充を教育活動に差し支えがない範囲で可能な限り削減してきた効果である。平成 24(2012)年度から教育職員は 4 人、事務職員は 7 人削減している。この結果、人件費の経常収入に占める比率は、平成 24(2012)年度の 43.5%から平成 28(2016)年度には 36.8%にまで低下しており 6.7%削減できている。

表 3-6-2 本学の教育活動支出の内訳表 単位：百万円

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
人件費	1,189	1,122	1,064	1,127	1,066
同上経常収入比	43.5%	40.1%	37.9%	38.8%	36.8%
経費(教育研究・管理)	1,067	1,023	1,138	1,070	1,086
同上経常収入比	39.0%	36.6%	40.6%	36.8%	37.4%
減価償却額	451	497	398	435	423
同上経常収入比	16.5%	17.8%	14.2%	15.0%	14.6%
その他の経費	0	0	0	17	0
教育活動支出合計	2,707	2,643	2,600	2,632	2,575
同上経常収入比	99.0%	94.4%	92.7%	90.5%	88.8%

本学の収支状況に続いて、他の設置校である女子大学、短期大学、高校、幼稚園を含む法人全体の現状と推移を表 3-6-3 に示す。平成 24(2012)年度には $\Delta 2.1\%$ であった経常収支差額比率が、平成 27(2015)年度には 1.9%の収入超過を実現できるまでに改善したが、平成 28(2016)年度においては、過年度の耐震改築に伴い不用となった学舎解体費およびインフラ整備に伴う既設構築物の除却費が 2 億 92 百万円発生したことにより $\Delta 2.7\%$ となった。しかし、これは臨時的なものでありこのことを勘案すると平成 28(2016)年度は 1.5%となる。また、平成 24(2012)年度には $\Delta 2.5\%$ であった教育活動収支差額比率も平成 28(2016)年度の臨時的支出を除いた場合には 1.1%となり、経常的には収入超過となっている。教育活動収支の大幅な改善要因は、収入の増加であり教育活動収入は平成 24(2012)年度と比較すると 2 億 79 百万円増加している。

表 3-6-3 法人全体の経常収支の推移表 単位：百万円

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
教育活動収入の部計	6,455	6,599	6,494	6,711	6,734
教育活動支出の部計	6,616	6,795	6,618	6,736	6,949
教育活動収支差額	$\Delta 161$	$\Delta 195$	$\Delta 123$	$\Delta 25$	$\Delta 215$
教育活動収支差額比率	$\Delta 2.5\%$	$\Delta 3.0$	$\Delta 1.9\%$	$\Delta 0.4\%$	$\Delta 3.2\%$

教育活動外収入の部計	26	86	205	158	33
教育活動外支出の部計	0	0	1	2	3
教育活動外収支差額	26	86	204	155	30
経常収入	6,481	6,685	6,699	6,868	6,767
経常支出	6,616	6,795	6,618	6,738	6,952
経常収支差額	△135	△110	81	130	△185
経常収支差額比率	△2.1%	△1.6%	1.2%	1.9%	△2.7%

この教育活動収入の増加要因をもう少し詳しく見るために、表3-6-4を示す。この表から教育活動収入の増加額(2億79百万円)の主な内容は学納金の増加額(1億70百万円)および補助金の増加額(1億34百万円)であることがわかる。人件費の減少は教育活動に影響のない範囲で教職員を削減した結果であり、管理経費の減少は経費の削減を根気よく進めた結果である。

表3-6-4 法人全体の主な教育活動収支の内訳推移表 単位：百万円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
学納金	4,749	4,798	4,829	4,900	4,919
補助金	1,184	1,116	1,098	1,169	1,318
人件費	3,345	3,536	3,252	3,351	3,213
教育研究経費	1,632	1,712	1,842	1,792	1,967
管理経費	745	660	706	674	683
減価償却額	895	887	818	919	1,086

* 教育研究経費および管理経費は減価償却額を除外している。

* 減価償却額は、教育研究経費および管理経費の減価償却額の合計である。

本学の財政基盤をより強固にするために、外部資金の確保についても積極的な取り組みを継続している。

平成24(2012)年度には「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(産業界ニーズGP)」において、本学の「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト～九州・沖縄・山口地域大学グループ～」が採択され、平成26(2014)年度までの3年間で29百万円の補助金を受けた。

さらに、平成25(2013)年度からスタートした「私立大学等改革総合支援事業」においては、「タイプ1：教育の質的転換」に4年連続で選定され、これに伴う「私立大学教育研究活性化設備整備事業」において、平成25(2013)年度には「アクティブラーニングのための電子黒板の整備」に対して約13百万円、平成26(2014)年度には「アクティブラーニングのための収録・配信システム・什器等の整備」に対して約15百万円の補助金を受けた。

平成27(2015)年度には「大学教育再生加速プログラム(AP)」に応募したが、不採択となった。今後も引き続き、学生の主体的な学びを促す新たな教育方法の開発など応募に

向けた取り組みを強化する。

科学研究費補助金については、学内において採択された教員による発表会を実施するなど獲得への取り組みを強化することで応募件数・採択件数ともに増加しており、平成 28（2016）年度は応募 45 件中、新規採択 3 件、継続 12 件であった。【資料 3-6-7】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-6-7】 科研申請～採択状況

（3）3-6 の改善・向上方策（将来計画）

法人全体の収支については、当面の課題は教育活動収支差額をプラスに転じることである。そして第 2 次財政計画の完了年度である平成 30（2018）年度の目標である教育活動収支差額比率 1.9%、経常収支差額比率 1.7%の達成に繋げていく。

本学の財政状況は、平成 28（2016）年度決算において、教育活動収支差額比率 10.7%、経常収支差額比率 11.2%であり健全である。さらなる経費の削減には限度があるので、今持続的収支バランスのさらなる改善のためには、教育活動収入の安定的確保、とりわけ学納金の確保が重要である。そのためにはスポーツ学部の入学定員充足率は高率で安定しているため問題はないが、経済学部の入学定員充足率の向上が不可欠である。経済学部の入学定員充足率は平成 25（2011）年度に最低を記録して 58%となったが、平成 26（2014）年度には 81%、平成 27（2015）年度には 74%、平成 28（2016）年度 82%と回復の兆しが見えたものの、平成 29 年度（2017）年度には 72%となっている。今後も順調に経済学部の入学定員充足率の向上ができれば第 2 次財政計画の完了年度である平成 30（2018）年度の目標、すなわち教育活動収支差額比率 13.3%、経常収支差額比率 13.2%は十分達成可能である。

3-7 会計

《3-7 の視点》

3-7-① 会計処理の適正な実施

3-7-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

（1）3-7 の自己判定

基準項目 3-7 を満たしている。

（2）3-7 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-7-① 会計処理の適正な実施

本法人の予算編成および予算執行に関することは「福原学園予算管理規程」に定め、経理処理に関することは「福原学園経理規則」および「福原学園経理規則施行規程」に定めている。法人および本学の予算編成および予算執行ならびに経理処理に関することは、これらの規則、規程に基づき適正に実行されている。以下、主要な枠組みについて現状を述べることにする。【資料 3-7-1～3】

（a）予算科目は枠配分方式と個別査定に大別され、さらにそれぞれ 14 および 6 の事業目的科目別に細分化されている。

- (b) 予算編成方針は、予算責任者(法人事務局長兼常務理事)が理事長の意向に基づき編成日程、注意事項とともに各所属に通知する。
- (c) 各所属の予算責任者(大学では事務局長)は、予算部署(学部・科・課等)からの予算要求を聴取・整理のうえ所属予算原案を作成し、学長の承認を経て法人の予算責任者(法人事務局長)に提出する。
- (d) 理事長指名理事および予算責任者兼任理事は、各所属からの予算原案を聴取して、枠配分予算要求に対しては予算枠総額の妥当性を査定し、個別査定方式の予算要求に対しては内容を逐一聴取し、必要に応じて実地視察を実施したうえで査定し、所属予算を総合して法人としての予算原案を作成して、理事長の承認を得る。
- (e) 予算の執行手続きはすべて予算を管理する課・室等の予算部署が起案する支出稟議書によって執行が開始される。
- (f) 支出稟議書の決裁権限は、「福原学園専決規則」において支出予定額と職位の組み合わせによって定められている。
- (g) 金銭の支払いは、所属総務課で作成した会計伝票に決裁権者の決裁を受けた支出稟議書を添付して法人事務局経理課に回付し、法人事務局経理課長の承認を得て実行している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-7-1】 福原学園予算管理規程

【資料 3-7-2】 福原学園経理規則

【資料 3-7-3】 福原学園経理規則施行規程

3-7-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

私立学校振興助成法に基づく本法人の外部監査は、当然のことながら毎年度受けている。この監査は、公益法人及び学校法人に特化した監査法人によって、年間 30 日程度、延べ人員約 100 人体制で実施されている。本法人の監事は寄付行為施行規則に基づき 2 人のうち 1 人は公認会計士、1 人は弁護士である。財産の状況の監査については、監事は監査法人との監査方針を事前に聴取するほか決算終了時に監査手続き実施結果と問題点を監査法人と協議する。また、業務の監査についてはおおむね毎月開催される理事会に毎回出席し審議状況・決議事項を把握し、「事業報告」の内容を監査している。なお予算執行の進捗状況については、各理事・監事は理事会ごとに報告される「月次収支報告書」によって把握できるようにしている。内部監査については「福原学園組織規則」において監査室を設置して監査室長を配置し「内部監査規程」を整備している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-7-4】 月次収支報告書

【資料 3-7-5】 大学ホームページ開示

(情報開示⇒Ⅲその他公開情報⇒情報公開<財務状況>)

【資料 3-7-6】 平成 28 年度監査報告書

【資料 3-7-7】 内部監査規程

(3) 3-7 の改善・向上方策 (将来計画)

本法人の会計処理については、予算編成、予算執行、経理処理の総過程において必要な規則等を整備しており、これらの規則等に基づいて適正に実施されている。会計監査は、私立学校振興助成法に基づく監査はもとより、監事もほぼ毎月開催される理事会に毎回出席し業務を執行している

[基準3の自己評価]

経営の規律と誠実性については、建学の精神「自律処行」に基づき、経営の規律ならびに組織倫理を重んじるとともに、質の保証を担保するための関係法令を遵守しながら、適切に運営している。

理事会の機能については、戦略的意思決定ができる体制ならびにそれを補佐する組織を整備し、適切に機能している。

大学の意思決定の権限と責任については、学長が全ての校務に関する責任者としての最終決定権ならびに教職員に対する指揮監督権を有することを学則において明確にし、そのリーダーシップを最大限に発揮するための管理運営体制を整備し、適切に機能している。

管理部門と教学部門との意思疎通と連携については、円滑かつ迅速に行うための組織を寄附行為に基づいて明確に定め、適切に機能している。ガバナンスについては、寄附行為に基づき、本学教職員が評議員に選出されて相互チェックを行い、また、各種委員会において、教職員からの情報や提案を活かす仕組みを整備し、適切に機能している。

業務執行体制の機能性については、法人事務組織等との権限および責任の分掌を明確にし、適切に機能している。また、職員の資質・能力向上の組織的な取り組みも実施している。

財務基盤と収支については、第1次財政計画および第2次財政計画において財務運営方針を明確にし、耐震対策資金の確保を含めて安定した財務基盤の確立を目標に、適切に運営している。大学単体の平成28(2016)年度の経常収支差額比率は11.2%であり、収支のバランスが保たれている。

会計については、学校法人会計基準および経理規程に基づき、会計処理を適正に実施している。監査については、監査法人による年1回の外部監査ならびに内部監査規程に基づき、厳正に実施している。

基準 4. 自己点検・評価

4-1 自己点検・評価の適切性

《4-1 の視点》

4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

(1) 4-1 の自己判定

基準項目 4-1 を満たしている。

(2) 4-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

本学では、「九州共立大学自己点検・評価実施規程」に基づき九州共立大学自己点検・評価委員会において自己点検・評価を実施してきた。【資料 4-1-1】

本学ならびに学園全体において、各設置校の使命・目的をより具体的な業務・事業ごとに落とし込み、その進捗を管理する「福原学園中期計画」を策定しており、この計画の達成に向けた PDCA サイクルの検証を自主的・自律的に行うことを目的として、平成 23(2011)年度に福原学園経営戦略会議の下に、福原学園中期経営計画委員会を設置し、さらにその下に設置校別の部会(本学においては「九州共立大学部会」)を設置している。このため、近年では、自己点検・評価委員会の活動は自己点検評価書の作成に重きを置いている。

なお、自己点検評価書については本学ホームページで公開している。【資料 4-1-2】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-1-1】九州共立大学自己点検・評価実施規程

【資料 4-1-2】大学ホームページ⇒情報開示⇒Ⅲ. その他公開情報 1. 自己評価報告書

4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

「九州共立大学自己点検・評価実施規程」においては、自己点検・評価実施の方針として、「本学の理念・目的および建学の精神に立脚し、継続的に自己を点検・評価、教育研究水準を向上させるとともに、将来的な改革の方向性をも検討するため、本学構成員の自発的な意見交換と合意のもとに、自主的に点検・評価を実施すること」を定めるとともに、自己点検・評価実施委員会を設置し、自己点検・評価を行ってきた。【資料 4-1-3】ただし、4-1-①にも記載した通り、近年では、自己点検・評価委員会の活動は自己点検評価書の作成を重点的に行っており、代わって、福原学園中期経営計画委員会九州共立大学部会(以下「九州共立大学部会」という。)が中期計画を策定し、この計画の達成に向けた PDCA サイクルの検証を自主的・自律的に行っている。このため、自己点検・評価委員会と九州共立大学部会の両輪による取り組みとなっている。九州共立大学部会の取り組みについて具体的に述べるならば、平成 20(2008)年度から第 1 次中期計画(6 ヶ年)として学生確保、教育活動、学生支援、キャリア支援、研究推進、国際化、教職員、管理運営、財政、教育研究環境、地域貢献の重点課題を掲げ、業務・事業ごとの年度計画アクションプランを策定し、進捗状況を確認しながら学園全体で取り組んできた。平

成 26(2014)年度から第 2 次中期計画がスタートしたことにより、先行していた事業計画・事業報告書と別途作成していた中期計画の計画書と報告書を連動させ、年度ごとの事業計画および事業計画アクションプランを作成し、これに基づいた事業報告書および事業計画アクションプラン実績報告一覧表を作成して現状の改善に努めている。【資料 4-1-4~7】

以上のように「PDCA サイクル」を意識しながら現状を踏まえた上で翌年度の計画を策定し、改善活動に取り組んでいる。

平成 25(2013)年 9 月経営戦略会議の下に設置された「福原学園 IR 委員会」と連携し、本学における IR に関する活動を強化する目的として、平成 25(2013)年 11 月に IR 推進タスクフォースを設置し、自己点検・評価に必要なデータの収集・分析を行っている。

【資料 4-1-8】

さらに、平成 10(1998)年度以来、教務委員会が主体となって授業評価アンケートの実施体制を整え、当該アンケートを実施していたが、その後、平成 20(2008)年度にファカルティ・ディベロップメント委員会を設置し、授業評価アンケートおよび授業参観の立案・実施に加え、FD・SD 研修会を開催し、教職員の意識改革を促している。【資料 4-1-9】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-1-3】九州共立大学自己点検・評価実施規程

【資料 4-1-4】学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画 【資料 F-6】と同じ

【資料 4-1-5】九州共立大学平成 29 年度事業計画アクションプラン

【資料 4-1-6】学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書 【資料 F-7】と同じ

【資料 4-1-7】平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表

【資料 4-1-8】九州共立大学 IR 推進体制関連図

【資料 4-1-9】九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

自己点検・評価活動の先駆けとなる平成 6(1994)年度「大学白書」においては、大学の沿革、大学の理念と目的、学生、教育、教員の組織、研究、国際交流、管理・運営、施設設備、附属施設、その他の活動、自己点検・評価について記載しており、平成 9(1997)年度「大学白書」からこれらの項目に財政の項目を加えた。平成 13(2001)年度には「自己点検・評価報告書」を作成し、その後、日本高等教育評価機構の様式に合わせて平成 21(2009)年度と翌 22(2010)年度には「自己評価報告書」を、平成 26(2014)年度より毎年作成している。

この他にも、入学者数、学生数、教職員数、退学者数、就職・進学者数、財政等について 5 月 1 日現在のデータを掲載した冊子「福原学園ファクトブック」を法人事務局が取りまとめ、平成 18(2006)年度から現在に至るまで毎年継続的に作成している。【資料 4-1-10】

加えて、平成 19(2007)年度から事業報告書を作成し、平成 20(2008)年度から事業計画を作成している。【資料 4-1-11~12】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-1-10】平成 28 年度福原学園ファクトブック

【資料 4-1-11】学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書 【資料 F-7】と同じ

【資料 4-1-12】学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画 【資料 F-6】と同じ

(3) 4-1 の改善・向上方策（将来計画）

平成 25(2013)年度から、中期計画部会を経営戦略会議の下部組織である中期経営計画委員会の部会として位置付けることによって、連絡系統がスムーズにできている。

平成 26(2014)年度から、当該会議が主体となって第 2 次中期計画ガイドブックおよびツリー図のポスターを作成し、誰もが福原学園のミッションに基づいた中期計画の全容を可視化できるようにした。これらの事業計画および中期計画に沿って本学の全教職員が目標を共有し、継続して自己点検・評価し課題を解決していく。

4-2 自己点検・評価の誠実性

《4-2 の視点》

4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価

4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析

4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

(1) 4-2 の自己判定

基準項目 4-2 を満たしている。

(2) 4-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価

平成 18(2006)年度以来、毎年福原学園ファクトブックを作成し、Ⅰ.教育研究上の基本組織、Ⅱ.教員等組織、教員数、職員数、Ⅲ.入学者数、学生数、卒業者数および進学・就職状況、Ⅳ.授業料、入学料等、Ⅴ.学生の修学、心身の健康等に係る支援、Ⅵ.教育・研究、Ⅶ.広報、Ⅷ.財政、Ⅸ.施設・設備の項目について 5 月 1 日現在のデータを集積し、教職員に配付し活用している。さらに、平成 27(2015)年度より中期計画の項目を追加した。【資料 4-2-1】

また、福原学園事業計画、九州共立大学 平成 29 年度 事業計画アクションプラン、福原学園事業報告書、平成 28 年度 九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表を作成した。【資料 4-2-2～5】

この他にも、新入生アンケート、学生生活実態調査アンケート、授業評価アンケート(平成 10(1998)年度から実施)を実施している。なお、新入生アンケートについては、2018(2016)年度より J サーブによる新入生調査に移行した。【資料 4-2-6～8】

平成 26(2014)年度までは部局長会議でこれらの結果を報告してきたが、平成 27(2015)年度に学校教育法の改正に伴い組織の見直しを行ったため評議会においてアンケート結果を報告するよう変更した。なお、評議会の内容は、各学部および共通教育センター教育運営委員会(教授会)で報告されている。このように、調査やアンケートの実施により得られたデータは、情報として共有化されることにより、問題点や課題等が顕在化されることで、自己点検・評価の際の基礎資料となっている。

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 4-2-1】平成 28 年度福原学園ファクトブック
- 【資料 4-2-2】学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画 【資料 F-6】と同じ
- 【資料 4-2-3】学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書 【資料 F-7】と同じ
- 【資料 4-2-4】九州共立大学 平成 29 年度事業計画アクションプラン
- 【資料 4-2-5】平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表
- 【資料 4-2-6】平成 28 年度新入生調査集計結果
- 【資料 4-2-7】平成 28 年度学生生活実態調査アンケート結果報告
- 【資料 4-2-8】平成 28 年度授業評価アンケート集計結果

4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析

授業評価アンケートをはじめとする各部署で実施している上述のアンケートや、学園全体で取りまとめている「福原学園ファクトブック」「学校法人福原学園事業計画」「九州共立大学 事業計画アクションプラン」「学校法人福原学園事業報告書」および「九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表」については、自己点検・評価を行いつつながら作成している。【資料 4-2-9～13】

この他、平成 25(2013)年 11 月に IR 推進タスクフォースを設置し、事務局の各所属から推進スタッフとして担当者を 1 人ずつ選出し、調査・データの収集と分析を行っている。その一つの事業として、平成 24(2012)年度からスタートした学生食堂の 100 円朝食「学食をお得に食べようキャンペーン」があげられる。この事業については、当該キャンペーンを利用している学生の授業の出席状況との連関性について詳細な調査・分析を行い、その結果を大学研究紀要に掲載し、教職員に公開している。【資料 4-2-14】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 4-2-9】平成 28 年度福原学園ファクトブック
- 【資料 4-2-10】学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画 【資料 F-6】と同じ
- 【資料 4-2-11】九州共立大学 平成 29 年度事業計画アクションプラン
- 【資料 4-2-12】学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書 【資料 F-7】と同じ
- 【資料 4-2-13】平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表
- 【資料 4-2-14】九州共立大学における 100 円定食キャンペーンはどのように利用されているか（2014 年度の利用実態分析）

4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

平成 25(2013)年度は部局長会議において、退学・除籍者防止に向けた重点的な協議を進めた。これに伴い、各学科会議で学部および個々の取り組みを確認し、課題の抽出を図り、今後の取り組みを明確にした。併せて、IR 推進タスクフォース推進スタッフにより退学除籍者の傾向分析、高校課程別、入試区分別の順位分布についてデータ収集・分析した内容を報告し、情報の共有を図るとともに、基準 2-3 で触れたような退学除籍者の減少に向けた取り組みに活用してきた。その成果として、退学除籍者は下げ止まりの状況にある。

また、学生の授業への出席状況を取りまとめ、定期的に全教員に配信し情報共有を図

っている。

「自己点検評価書」と併せて「学校法人福原学園事業計画」「学校法人福原学園事業報告書」については、本学ホームページの「情報開示」で公表している。【資料 4-2-15～16】

「九州共立大学 事業計画アクションプラン」および「九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表」については、教職員が学園ホームページで閲覧できるようにし、情報を共有している。【資料 4-2-17～18】

さらに、授業評価アンケートについては、集計後、教員にフィードバックするとともに、学生に対しては冊子にまとめたものを教務課の窓口内に設置し公表している。【資料 4-2-19】 基準 2-2 で触れたように、教員はこれに基づき授業改善報告書を提出している。

なお、上述した「福原学園ファクトブック」に平成 27(2015)年度から平成 27 年度事業計画概要として、第 2 次中期計画の「ツリー図」「成果指標のある具体的施策一覧」「事業計画アクションプラン概要」を掲載している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-2-15】 学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画 【資料 F-6】 と同じ
※大学ホームページ⇒情報開示⇒Ⅲ. その他公開情報 2. 事業計画
情報公開<事業計画>

【資料 4-2-16】 学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書 【資料 F-7】 と同じ
※大学ホームページ⇒情報開示⇒Ⅲ. その他公開情報 3. 事業報告
情報公開<事業報告>

【資料 4-2-17】 九州共立大学 平成 29 年度事業計画アクションプラン

【資料 4-2-18】 平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表

【資料 4-2-19】 平成 28 年度授業評価アンケート集計結果

(3) 4-2 の改善・向上方策（将来計画）

自己点検評価書を継続して作成し公表する。

さらに、平成 27(2015)年 6 月には福原学園経営企画本部に「IR 推進室」を設置しており、現状把握のための十分な調査・データの収集と分析について学園全体で連携しあって評価体制の強化を図る。

4-3 自己点検・評価の有効性

《4-3 の視点》

4-3-① 自己点検・評価の結果の活用のための PDCA サイクルの仕組みの確立と機能性

(1) 4-3 の自己判定

基準項目 4-3 を満たしている。

(2) 4-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

4-3-① 自己点検・評価の結果の活用のための PDCA サイクルの仕組みの確立と機能性

自己点検・評価については、自己点検・評価委員会が、自己点検評価書を作成することによって結果の公表を行い、授業改善や各種自己改革に役立てている。

本学の授業評価アンケートは平成 10(1998)年度から実施している。【資料 4-3-1】

授業評価アンケートを前・後期の授業の終了時期に実施し、各教員は授業改善報告書を提出することにより、次の学期の改善に繋げている。【資料 4-3-2】

しかしながら、実際にアンケートを実施した当期の学生への授業改善には繋がりにくいことから、FD 委員会より、ミニアンケートを授業の前・後期の中間時期に実施することが提案され、平成 25(2013)年度からミニアンケートもあわせて実施し、即効性のある直接的な授業改善を図った。【資料 4-3-3】

また、「自己点検評価書」に加えて「福原学園ファクトブック」「学校法人福原学園 事業報告書」および「九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表」を作成している。【資料 4-3-4~6】

「福原学園ファクトブック」については、毎年 5 月 1 日現在のデータを抽出し、全教職員に配付している。「学校法人福原学園事業計画」および「九州共立大学 事業計画アクションプラン」については、福原学園中期経営改革委員会九州共立大学部会において策定した第 2 次中期計画に基づき、10 月頃次年度事業計画アクションプランを立案し、4 月から計画に基づき実施している。【資料 4-3-7~8】

年に 1 回進捗状況を確認・報告し、「学校法人福原学園 事業報告書」および「九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表」を次年度当初に作成している。【資料 4-3-5~6】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-3-1】 2016 年度授業評価アンケート(質問用紙サンプル)

【資料 4-3-2】 授業改善報告書

【資料 4-3-3】 2016 年度ミニアンケート(サンプル)

【資料 4-3-4】 平成 28 年度福原学園ファクトブック

【資料 4-3-5】 学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書 【資料 F-7】 と同じ

【資料 4-3-6】 平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表

【資料 4-3-7】 学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画 【資料 F-6】 と同じ

【資料 4-3-8】 九州共立大学 平成 29 年度事業計画アクションプラン

(3) 4-3 の改善・向上方策(将来計画)

自己点検・評価については、本学における取り組みやアンケート調査等について報告・冊子配付等を通じて共通認識を醸成する。授業評価アンケートから派生したミニアンケートのように教職員自身でその改善策を考え、さらにそれぞれの関係部署部門で討議して改善策をまとめ、実行に移していく。

なお、平成 28(2016)年度には各学部において留年生に対する学修支援計画を策定し、進捗状況を把握しながら退学・除籍者の防止に努めてきた。さらに、平成 29(2017)年度には事務組織改編により、学習支援センターと学部教員、課外活動指導者が密接に連携をとりながら学生の退学・除籍者の防止に努める。

【基準4の自己評価】

地方大学である本学が永続的に存続し、高校生、学生、地域社会にとって魅力ある大学であるため、また、学生に対して本学の使命・理念に則った教育の質を保証するため、教職員が一体となって常に現状を把握し、自己点検・評価し、改善を継続することは命題であることから、本学においては、この「福原学園ファクトブック」「中期計画実績報告」「事業計画報告書」および「授業評価アンケート」をはじめとする各所属におけるアンケートの実施・分析および情報を共有しながら、自己点検・評価に努めている。

さらに、平成 25(2013)年度に IR 推進タスクフォースを設置し、これまでの授業評価アンケート等種々のデータの活用に加え、退学者について分析し、委員会等で情報を共有するなどの活動をしている。

平成 27(2015)年 6 月には福原学園経営企画本部 IR 推進室を設置しており、現状把握のための十分な調査・データの収集と分析について学園全体で連携し評価体制の強化を図るとともに、平成 28(2016)年度には、同室と連携して成績評価の基本方針策定のための調査も開始する。

平成 28 (2016) 年度には J サーブによるアンケート調査を実施し、他大学との比較もできるようになったので、よりきめ細やかな学生サービスができるように活用していく。

Ⅳ. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 社会連携・社会貢献

A-1 大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

《A-1 の視点》

A-1-① 大学施設の開放等、物的資源の提供

A-1-② 生涯学習の機会提供

A-1-③ 地域と連携した支援活動

A-1-④ 地域社会との協力関係

A-1-⑤ 地域行政等への助言・協力

(1) A-1 の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

(2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-1-① 大学施設の開放等、物的資源の提供

大学施設は、授業や業務に支障のない限り、地域社会・団体への開放を積極的に行っている。特に、スポーツ学部の教育環境整備と連動するスポーツ関連施設は公式試合が可能な設備を整えており、開放することにより地域社会・団体のスポーツ振興に貢献している。

A-1-② 生涯学習の機会提供

生涯学習研究センターは、平成 6(1994)年に福原学園の設置校である九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学のセンターとして九州地区の大学で初めて生涯学習事業を主とする組織として開設された。このセンターは、地域における生涯学習社会の実現を図る目的で、大学機能を活用した生涯学習事業の提供、地域の生涯学習活動の推進、生涯学習に関する公開講座、資格取得に関する講座、などの事業を通じて地域住民に対し多様な学習の機会と場を提供している。

(1) 公開講座

大学の持つ様々な施設・設備や学術的情報等を活用して、また、九州女子大学、九州女子短期大学と連携して講師陣を充実させることにより、語学、文学、芸術、スポーツ、音楽など多様な専門分野の講座を、地域住民の学習意欲に応える「個別専門講座」を開設当初から継続して開講している。平成 28(2016)年度は個別専門講座 27 講座を開講し、受講者数は延べ 467 人である。

また、特色ある事業としては、地域住民が趣味や得意とする分野で講師として教える場と機会を提供する「市民講師講座」を開講し、地域住民の知的意欲を高める機会創出に貢献している。この講座には、毎年多くの地域住民が講師としての開講を希望しており、これまでに 8 講座が開講され、延べ 121 人が受講している。平成 28(2016)年度は、個別講座と市民講座を併せて 35 講座を開講し、受講者数は延べ 588 人である。

また、「九州共立大学スポーツ救急法講座」と題し篠原所長が無料の公開講座を開催し

ている。年 4 回実施し、延べ 121 人の参加があった。【資料 A-1-1】

(2) 地域の生涯学習活動の推進

北九州市ならびに社会福祉団体等が実施する生涯学習事業を共催し、積極的に大学教員の講師派遣や大学施設の提供などを行い、また、九州女子大学、九州女子短期大学と連携して講師陣を充実させることにより、地域の生涯学習活動の推進に貢献している。

① 北九州市民カレッジ

北九州市教育委員会と連携して行う事業で、市民の高度で専門的な学修ニーズに対応した学習機会を提供し、自己実現の促進、地域社会の活動向上および生涯学習社会を担う人材の育成を図ることを目的にしている。平成 28(2016)年度は、前期・後期で 13 講座の開講を実施し、受講生は延べ 118 人で多くの市民が専門的な講座を受講し好評を得ている。【資料 A-1-1】

② シニアサマーカレッジ

高齢者の多様な学習ニーズに応え、生涯学習および社会参加の促進を目的として、社会福祉法人北九州市社会福祉協議会・北九州市立年長者研修大学校穴生学舎との共催で、生涯学習研究センターの教室を提供して、本学ならびに九州女子大学および九州女子短期大学の教育職員が 1 コマずつを担当して 16 コマのリレー講義を実施した。1 日 2 コマ (1 コマ 120 分) の講義と校外学習として 1 日バスハイクを行い、受講生はイキイキと楽しんでおり、生涯学習の機会提供としての効果は十分に得られている。平成 28(2016)年度の実受講者数は 57 人である。【資料 A-1-1】

③ 体育施設管理士・体育施設運営士養成講習会

北九州市体育協会と九州共立大学及び生涯学習研究センターとの連携講座として実施した。九州では初開催の講習会となったため、九州各県や中国四国方面からの参加や問い合わせがあり、有意義な講習会となった。体育施設管理士は、平成 28(2016)年 8 月 23 日～26 日までの 4 日間にわたり 18 人の受講者があり、体育施設運営士は平成 29(2017)年 2 月 21 日～23 日までの 3 日間行われ、受講者数は 15 人であった。【資料 A-1-1】

④ 西日本生涯学習フォーラム

生涯学習研究センターにおける設立当初から主要事業として、地域住民の関心が高い生活に密着したテーマを掲げた公開フォーラムを、北九州市、中間市、遠賀町、岡垣町、水巻町、芦屋町など近隣地域の教育委員会と連携して毎年 1 回開催している。平成 28(2016)年度は、テーマ「学校と地域におけるスポーツ安全について考える」の公開フォーラムを開催し、地域住民 188 人の参加があった。【資料 A-1-1】

⑤ クリスマスコンサート

生涯学習研究センター主催事業として、個別専門講座の音楽担当講師のプロの演奏と受講生の発表の場として演奏会を実施している。昨年度より開催時間を夜から昼へ変更して開催したところ好評となり、今年度も開催時間を昼に設定し開催した。シニアサマ

一カレッジに参加された方や他の講座の受講生を含む 120 人が来場した。【資料 A-1-1】

A-1-③ 地域と連携した支援活動

平成 26(2014)年度に策定した第 2 次中期計画の重点取組課題として「地域社会との連携活動の推進」を掲げており、平成 26(2014)年度の準備期間を経て、平成 27(2015)年度より地域連携活動を全学的に行える体制を整えるとともに、地域の各団体との連携活動に関わる協定あるいは覚書を締結し、地域連携を強力に推進した。

(1) 地域連携推進センターの設置

社会との連携活動に関する学内情報の一元管理と学内外に対する周知・PR ならびに地域連携を目的とした新たなプロジェクトを展開するために、平成 27(2015)年 4 月 1 日付けで「地域連携推進室」を設置した。同室を地域との窓口として、あわせて設置した地域連携推進委員会において地域と本学のマッチング等の内容ならびに活動方針を協議することにより、地域連携活動を全学的に行える体制を整えた。同委員会を平成 28(2016)年度は計 10 回開催して、全学的な体制整備、各団体との連携協定締結、協定締結団体との連携事業の選択と実施計画などについて協議し、平成 29(2017)年度から連携事業の具体的な計画を策定した。また、平成 29(2017)年 4 月からは、「生涯学習研究センター」の機能を核とし、産業界等との研究協力及び学術交流の推進を目的として設置した「総合研究所」、ならびに大学が行う地域連携活動に係る学内情報の一元管理と対外的な窓口業務や連絡調整を行う「地域連携推進室」の三つの組織を統合した「地域連携推進センター」を設置し、大学の知識・人財を活用した「地域連携・貢献」「研究推進」「生涯学習」の各事業を一体的に行うことにより、地域の活性化及び人財育成の一翼を担うことで「地域に開かれた大学」の定着を目的とした。【資料 A-1-2、3】

(2) 地域連携に関わる協定の締結

地域連携事業を実施する全学的な体制を整えて地域の多様なニーズに応える本学とのマッチングを円滑に行えるようになったことから、地域の各団体に対して連携関係の構築を積極的に広報し、平成 28(2016)年度は 1 団体と連携活動に関する協定を締結した。その内容は以下の通り。

1	九州共立大学と北九州市によるスポーツの振興及びスポーツによるまちのにぎわいづくり並びに人材育成等に関して連携・協力するための包括連携協定【資料 A-1-4】
	締結先：北九州市 締結日：平成 29(2017)年 1 月 18 日

協定を締結している団体との意見交換等を通じて、連携関係を深めるとともに活動を円滑に推進することを目的として、各団体代表者と本学地域連携推進委員会幹部で構成する地域連携協議会を 2 回（平成 28 年 8 月 23 日、11 月 25 日）開催した。また、地域連携推進事業評価委員会を平成 29 年 2 月 24 日に開催し、各自治体や各団体と地域活性化や学生のボランティア活動及び人材育成の取組み等の地域連携事業について、意見交

換や情報交換を行った。

(3) 地域貢献・ボランティア活動

使命・目的で示したように本学は社会に奉仕できる人間形成を目指す教育を行っており、学部やゼミクラスを主体として、学生が地域社会と連携して行うボランティア活動を奨励している。また、前項の生涯学習活動以外にも地域社会からの要請に対応して積極的に人的資源を提供している。平成 28(2016)年度における主な活動は以下の通りである。

① 健康運動指導士養成講習会

公益財団法人健康・体力づくり事業財団主催の「健康運動指導士養成講習会」に講師として講演し、76名の受講者が参加した。健康運動指導士育成は地域活性化にもつながると考えられる。【資料 A-1-4】

② 香月・千代ジュニアスポーツ体験教室

北九州市市民文化スポーツ局スポーツ振興課からの要請に応じて、「小学校の児童を対象に、遊びの要素を持つ運動やオリンピック種目の体験を通じて、生涯にわたり運動・スポーツに親しむきっかけづくりを行う」ことを目的とした事業として、93人の児童を対象に7回開催し、地域のスポーツ振興に貢献している。本教室には、本学教員2人の他、本学学生15人、九州女子大学学生20人がスタッフとして参画しており、学生の社会貢献に対する教育効果も得られている。【資料 A-1-5】

③ 北九州市八幡西区「堀川まちおこし事業－堀川まちおこしっせい清掃」

平成 27(2015)年度北九州市八幡西区の地域経済活性化事業として堀川流域の各団体と連携した清掃活動で、平成 28(2016)年度は経済学部の地域連携研修として学生が参加して貢献している。その他に学生サークルの「ちょボラ部」の部員も参加している。【資料 A-1-5】

④ 知的障害・発達障害児を対象とした「ニコニコ体操教室」

九州共立大学・九州女子大学アダプテッド・スポーツ研究部の学生の課外活動で、大学生が障害を抱える子どもたちに対して、スポーツの楽しさを伝えることを目的とした地域貢献活動。平成 28(2016)年度は40人の児童を対象に、学生50人(本学10人、九州女子大学40人)で15回開催し、その中では1泊2日のキャンプも実施している。【資料 A-1-5】

⑤ 小学校ボランティア

体験的学びを通して教職を目指す意欲と教員に必要な資質能力を高めることを目的として、本学教職課程履修の学生を小学校にボランティアとして派遣し、授業補助、休み時間や給食時間の児童の見守りを行う活動で、学生1人につき1学級を担当している。平成 28 (2016)年度は、芦屋町立芦屋東小学校に前期は6人の学生が11回、中期

は6人の学生が6回、後期は3人の学生が10回、芦屋町立芦屋小学校に前期14人の学生が11回、中期9人の学生が6回、後期3人の学生が10回、それぞれ約180人の児童に対して実施した。【資料A-1-5】

A-1-④ 地域社会との協力関係

(1) 太陽光と風力を用いた親子ものづくり教室

本学が所在する八幡西区では小学生ら児童を対象にした科学教室の機会が少ないことから、総合研究所主催で小学生を対象にしたものづくり教室を、平成15(2003)年から毎年夏休み期間中に開催している。平成28(2016)年度は、幼稚園年長～中学生までの各学年に応じた5工作テーマで行い、児童110人とその保護者106人の計216人の参加があった。親子同伴の参加者が年々増加し、リピーターも増えたことにより、本教室が地域の子供たちのものづくりの核となりつつある。【資料A-1-5】

(2) 大学祭実行委員会による地域連携

学内での活動に限らず、地域との連携を図るため平成28(2016)年度は、大学祭における地域参加型イベントとして大学祭実行委員会主催の「九州共立大学大学祭地域交流グラウンドゴルフ大会」を開催し、地域住民202人、学生30人、計232人の参加があった。また、地域の祭りである「折尾まつり」に大学祭実行委員会でバザーを出店するとともに会場設営・片づけ等運営に協力し、地域住民の参加型イベントを通じて地域連携を推進した。【資料A-1-6】

(3) 第14回ボランティアフェスタ in 八幡西

北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターを中心に地域の自治会が参加する実行委員会形式で行う大会で、八幡西区を中心に活動をする多くのボランティアが一堂に集まる機会をつくり、交流を深め、学びの場を提供することを目的としている。

この活動は本学教員の発案で開始された経緯があることから本学は積極的に支援してきており、大会会場ならびに多くの来場者の駐車場など施設を提供するとともに学生のボランティア活動の発表参加を行っている。平成28(2016)年度は、「見て！聞いて！やってみよう！TOMO(友・共)も楽しくボランティア～熊本・大分へ あなたとわたしの想いで笑顔の花が咲く～」というテーマで開催し交流を深めた。参加者は、500人程度となり過去最高となった。【資料A-1-1】

A-1-⑤ 地域行政等への助言・協力

本学の教員が、地方公共団体等の専門委員会委員の委嘱を受け、それぞれの研究専門分野において公共政策に関与している。いずれも社会や地域の要請に応えるもので、教育研究の還元の一つになっている。平成28(2016)年度の実績を所属ごとにみると、経済学部19件(地域振興、公共調達、地域産業)、スポーツ学部14件(スポーツ、社会福祉)、総合研究所6件(社会基盤、環境、公共調達)となっている。こうした委員活動の他に、自治体が主催する講演会、研修会などの講師、コーディネーター、アドバイザーなど活動は多岐にわたり個々の要望に応じている。これらの活動は地方自治体等の政策形成や

運営に寄与するものである。

【エビデンス集・資料編】

【資料 A-1-1】平成 28 年度生涯学習研究センター年報

【資料 A-1-2】九州共立大学地域連携推進センター規程

【資料 A-1-3】九州共立大学地域連携推進委員会規程

【資料 A-1-4】九州共立大学と北九州市によるスポーツの振興及びスポーツによる
まちのにぎわいづくり並びに人材育成等に関して連携・協力するた
めの包括連携協定書

【資料 A-1-5】平成 28 年度九州共立大学「地域貢献・連携事業」報告書

【資料 A-1-6】平成 28 年度九州共立大学事業計画アクションプラン実績報告書一覧

(3) A-1 の改善・向上方策（将来計画）

平成 27(2015)年度に地域連携推進室の設置ならびに地域連携協議会の開設が実現したことにより、地域連携活動に関する学内情報を一元的に把握して管理し、大学全体として組織的・系統的な活動を行う体制は整った。しかしながら、組織整備はあくまでも地域連携を推進するための礎石であり、この体制の活用を深めることにより、これまで教職員個々の力に依存しがちであった社会貢献活動を組織力で充実させて強力に推進する計画である。さらに、学生が社会体験する絶好の機会としての地域連携活動を推進するため、各地域団体との連携協定締結をさらに進めるとともに地域ニーズとのマッチングを効率的に行うことにより、多くの学生が参加可能な体制を整えて、ワークショップ科目の単位として設定することを計画している。

A-2 学外の教育研究機関及び企業・団体との協力関係

《A-2 の視点》

A-2-① 学外の教育研究機関との協力関係

A-2-② 企業・団体との協力関係

(1) A-2 の自己判定

基準項目 A-2 を満たしている。

(2) A-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-2-① 学外の教育研究機関との協力関係

(1) 大学コンソーシアム関門への参加

関門地区の 5 大学が連携し、各大学特有の教育・研究資源を提供する「大学コンソーシアム関門」に参加し、総合大学に匹敵する幅広い共同教養教育の提供を行っている。

【資料 A-2-1】同事業の単位互換協定による共同教養教育プログラムは、①教養科目群「現代の教養」、②関門地域を総合的に理解するコーディネート科目群「関門学」とで構成され、本学からは「関門学」科目群として 3 人の教員によるリレー講義「関門の自然環境とそのエネルギー」を提供した。【資料 A-2-2】平成 28(2016)年度において、本学学生は開講された 5 科目のうち 5 科目に 37 人が受講した。（市民を含め総計 238 人の受

講者があった)【資料 A-2-3】

(2) まちなか ESD センターにおける「文部科学省大学間連携共同教育推進事業」への参加
「地域再生の核となる大学づくり」を推進するため、北九州環境未来都市の地域(社会・産業・行政)と北九州地域の 8 大学が連携し、「持続可能な発展のための教育(Educating for Sustainable Development:ESD)」の素養を持った人材の育成に取り組む事業に参加している。平成 28(2016)年度からは、本学を含め参加可能な大学から単位互換協定を結び、共同授業の受講による単位取得を可能とする展開を始めており、前後期各 1 講座を実施し、全日程(10 日)で延べ 363 人の出席があった。本学の単位認定者は 4 人であった。【資料 A-2-4~5】

(3) 福原学園設置 3 大学の連携

本学は、併設校である九州女子大学および九州女子短期大学と単位互換協定を締結しており、平成 22(2010)年度から授業時間帯を統一することにより、各大学特有の教育・研究資源の連携と学生等への提供を図っている。平成 28(2016)年度については派遣・受入とも申請者はいなかった。【資料 A-2-6~7】

(4) 文部科学省の補助事業

文部科学省の補助事業である「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の事業協働機関 19 団体に参画し、北九州市における学生の地方定着等を推進する活動を始めた。

A-2-② 企業・団体との協力関係

(1) 産学官連携による教育研究の推進

産学官連携の窓口である総合研究所は、九州共立大学、九州女子大学および九州女子短期大学の教員ならびに研究所特別研究員および客員研究員で構成されており、各構成員の専門分野を活かして、地域の企業・団体や諸機関との連携による共同研究あるいは受託研究を行っている。平成 28(2016)年度においては、企業・団体との共同研究 4 件を行っている。【資料 A-2-8】

【エビデンス集・資料編】

【資料 A-2-1】大学コンソーシアム関門規約

【資料 A-2-2】大学コンソーシアム関門平成 28 年度事業報告

【資料 A-2-3】平成 28 年度大学コンソーシアム関門受講者登録数

【資料 A-2-4】まちなか ESD センター運営規程

【資料 A-2-5】まなびと講座参加人数(学生・一般)

【資料 A-2-6】平成 28 年度単位互換開放科目一覧(学園内 3 大学)

【資料 A-2-7】平成 28 年度福原学園ファクトブック

【資料 A-2-8】平成 27 年度企業・団体等との共同研究一覧

(3) A-2 の改善・向上方策(将来計画)

他大学との単位互換協定による地域の大学連携は概ね順調に進んでいる。大学コンソーシアム関門に関しては、新規に留学生交流事業として、加盟大学の留学生および交流を希望する日本人学生対象にバスツアーを2回実施し、第1回目は31名(含引率4名)、第2回目は68名(含引率8名)の参加があったため、今後も本事業を継続し、留学生のSNS発信等により加盟大学の活性化を図る。

まちなかESDに関しては、「大学間連携共同教育推進事業」としての文部科学省補助対象期間が今年度までのため、事業縮小となるも、北九州市と連携をとりながら必要な事業(地域との連携、単位互換科目開講)は進めていく。

企業・団体との協力については、平成29(2017)年度に設置した地域連携推進センターを核として地域の商工会や各種団体との連携協定を推進することにより、それら企業や団体のニーズに応じていく協力関係をより深める計画である。

【基準Aの自己評価】

各学部・学科および地域連携推進センターならびにスポーツ・トレーニングセンターにおいて、北九州市や岡垣町等近隣の市町や福岡県等との連携協力による各種の社会貢献事業を展開し、本学の目的に示す自律処行を通じた人間教育や社会貢献を教育現場や社会において実践することが行われ始めている。また、地域に密着した実践的な研究成果に加え、学生の教育面でも体験学習等を通じてこれらの分野での具体的な教育効果を上げている。さらに、地域連携推進センターおよび地域連携協議会を開設して全学的に地域連携活動を推進する体制を整えたことにより、さらなる地域貢献の充実が期待できる。北九州市および下関市の大学による大学間連携・地域連携による共同事業展開は大変意義のあるものであり、関門地域の高等教育の充実発展、地域および社会への貢献になっている。

V. エビデンス集一覧

エビデンス集（データ編）一覧

コード	タイトル	備考
【表 F- 1】	大学名・所在地等	
【表 F- 2】	設置学部・学科・大学院研究科等／開設予定の学部・学科・大学院研究科等	
【表 F- 3】	学部・研究科構成	
【表 F- 4】	学部・学科の学生定員及び在籍学生数	
【表 F- 5】	大学院研究科の学生定員及び在籍学生数	該当なし
【表 F- 6】	全学の教員組織（学部等）	
	全学の教員組織（大学院等）	
【表 F- 7】	附属校及び併設校、附属機関の概要	
【表 F- 8】	外部評価の実施概要	
【表 2- 1】	学部、学科別の志願者数、合格者数、入学者数の推移（過去 5 年間）	
【表 2- 2】	学部、学科別の在籍者数（過去 5 年間）	
【表 2- 3】	大学院研究科の入学者数の内訳（過去 3 年間）	該当なし
【表 2- 4】	学部、学科別の退学者数の推移（過去 3 年間）	
【表 2- 5】	授業科目の概要	
【表 2- 6】	成績評価基準	
【表 2- 7】	修得単位状況（前年度実績）	
【表 2- 8】	年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）	
【表 2- 9】	就職相談室等の利用状況	
【表 2-10】	就職の状況（過去 3 年間）	
【表 2-11】	卒業後の進路先の状況（前年度実績）	
【表 2-12】	学生相談室、医務室等の利用状況	
【表 2-13】	大学独自の奨学金給付・貸与状況（授業料免除制度）（前年度実績）	
【表 2-14】	学生の課外活動への支援状況（前年度実績）	
【表 2-15】	専任教員の学部、研究科ごとの年齢別の構成	
【表 2-16】	学部の専任教員の1週当たりの担当授業時間数（最高、最低、平均授業時間数）	
【表 2-17】	学部、学科の開設授業科目における専兼比率	
【表 2-18】	校地、校舎等の面積	
【表 2-19】	教員研究室の概要	
【表 2-20】	講義室、演習室、学生自習室等の概要	
【表 2-21】	附属施設の概要（図書館除く）	
【表 2-22】	その他の施設の概要	
【表 2-23】	図書、資料の所蔵数	
【表 2-24】	学生閲覧室等	
【表 2-25】	情報センター等の状況	
【表 2-26】	学生寮等の状況	
【表 3- 1】	職員数と職員構成（正職員・嘱託・パート・派遣別、男女別、年齢別）	
【表 3- 2】	大学の運営及び質保証に関する法令等の遵守状況	
【表 3- 3】	教育研究活動等の情報の公表状況	
【表 3- 4】	財務情報の公表（前年度実績）	
【表 3- 5】	消費収支計算書関係比率（法人全体のもの）	
【表 3- 6】	事業活動収支計算書関係比率（法人全体のもの）	
【表 3- 7】	消費収支計算書関係比率（大学単独）	
【表 3- 8】	事業活動収支計算書関係比率（大学単独）	
【表 3- 9】	貸借対照表関係比率（法人全体のもの）	
【表 3-10】	貸借対照表関係比率（法人全体のもの）	

【表 3-11】	要積立額に対する金融資産の状況（法人全体のもの）（過去 5 年間）	
----------	-----------------------------------	--

※該当しない項目がある場合は、備考欄に「該当なし」と記載。

エビデンス集（資料編）一覧

基礎資料

コード	タイトル	
	該当する資料名及び該当ページ	備考
【資料 F- 1】	寄附行為	
	学校法人福原学園寄附行為、寄附行為施行細則	
【資料 F- 2】	大学案内	
	九州共立大学 2018 年度大学案内	
【資料 F- 3】	大学学則、大学院学則	
	九州共立大学学則	
【資料 F- 4】	学生募集要項、入学者選抜要綱	
	平成 30(2018)年度入学試験要項	
【資料 F- 5】	学生便覧	
	平成 29 年度学生便覧	
【資料 F- 6】	事業計画書	
	学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画	
【資料 F- 7】	事業報告書	
	学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書	
【資料 F- 8】	アクセスマップ、キャンパスマップなど	
	CAMPUS MAP(キャンパスライフより抜粋)	
【資料 F- 9】	法人及び大学の規程一覧（規程集目次など）	
	学校法人福原学園例規集一覧（平成 29 年 6 月 1 日現在）	
【資料 F-10】	理事、監事、評議員などの名簿（外部役員・内部役員）及び理事会、評議員会の前年度開催状況（開催日、開催回数、出席状況など）がわかる資料	
	<ul style="list-style-type: none"> ・理事、監事、評議員名簿 ・理事会・評議員会出席状況一覧 ・平成 27 年度福原学園理事会（会議情報） ・平成 27 年度福原学園評議員会（会議情報） 	
【資料 F-11】	決算等の計算書類（過去 5 年間）、監事監査報告書（過去 5 年間）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24～28 年度計算書類 ・平成 24～28 年度監査報告書 	
【資料 F-12】	履修要項、シラバス	
	平成 29 年度履修ガイド、平成 29 年度講義要項（シラバス）	

基準 1. 使命・目的等

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
1-1. 使命・目的及び教育目的の明確性		
【資料 1-1-1】	学校法人福原学園寄附行為	【資料 F-1】と同じ
【資料 1-1-2】	九州共立大学学則	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-1-3】	平成 29 年度学生便覧(抜粋)	【資料 F-5】と同じ
【資料 1-1-4】	九州共立大学 2018 年度大学案内	【資料 F-2】と同じ
【資料 1-1-5】	平成 30(2018)年度入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 1-1-6】	平成 29 年度履修ガイド	【資料 F-12】と同じ
【資料 1-1-7】	平成 29 年度講義要項(シラバス)	【資料 F-12】と同じ
【資料 1-1-8】	平成 29 年度教員プロフィール	
1-2. 使命・目的及び教育目的の適切性		

九州共立大学

【資料 1-2-1】	学校法人福原学園第2次中期計画ガイドブック	
【資料 1-2-2】	大学ホームページ (大学案内⇒建学の精神) (大学案内⇒学長メッセージ) (情報開示⇒Ⅲ.その他公開情報 情報公開自己評価報告書) ⇒第2次中期計画の概要)	
【資料 1-2-3】	平成28年度福原学園ファクトブック	
【資料 1-2-4】	学校法人福原学園寄附行為	【資料 F-1】と同じ
【資料 1-2-5】	九州共立大学学則	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-2-6】	平成27年度経済学部教育課程改革の方向性について ※平成25年度 第13回経営協議会資料 (平成26年2月25日開催)	
【資料 1-2-7】	平成28年度スポーツ学部入学生専門教育科目カリキュラム (案)について ※平成26年度 第12回経営協議会資料 (平成27年2月4日開催)	
1-3. 使命・目的及び教育目的の有効性		
【資料 1-3-1】	平成29年度学園総会 次第	
【資料 1-3-2】	平成29年度「九州共立大学の改革について」学長方針	
【資料 1-3-3】	福原学園第2次中期計画の策定について ※第2次中期計画策定に係る説明会資料 (平成25年7月17日開催)	
【資料 1-3-4】	教職員の意見について ※第2回九州共立大学部会資料(平成25年9月11日開催)	
【資料 1-3-5】	平成29年度学生便覧(抜粋)	【資料 1-1-3】と同じ
【資料 1-3-6】	平成29年度講義要項(シラバス)	【資料 F-12】と同じ
【資料 1-3-7】	「福原学」の講義要項(シラバス)	【資料 F-12】と同じ
【資料 1-3-8】	九州共立大学2018年度大学案内	【資料 F-2】と同じ
【資料 1-3-9】	平成30(2018)年度入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 1-3-10】	学園広報誌「Liberty」2017 vol.16	
【資料 1-3-11】	大学ポートレート(私学版)	
【資料 1-3-12】	平成28年度九州共立大学「地域貢献・連携事業」報告書	
【資料 1-3-13】	新聞記事	
【資料 1-3-14】	九州共立大学創立50周年記念誌「自律処行」	
【資料 1-3-15】	創立50周年記念の新聞広告	
【資料 1-3-16】	学校法人福原学園第2次中期計画ガイドブック	【資料 1-2-1】と同じ
【資料 1-3-17】	平成29年度学生便覧	【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-18】	九州共立大学創立50周年記念誌「自律処行」	【資料 1-3-14】と同じ
【資料 1-3-19】	スポーツ学部設置申請認可申請書(写)	

基準2. 学修と教授

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
2-1. 学生の手入れ		
【資料 2-1-1】	九州共立大学2018年度大学案内	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-1-2】	平成30(2018)年度入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-3】	大学ホームページ 入試案内	
【資料 2-1-4】	大学ポートレート(私学版) 九州共立大学 本学の特色	
【資料 2-1-5】	平成30(2018)年度入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-6】	平成30(2018)年度社会人入学試験要項	
【資料 2-1-7】	平成30(2018)年度外国人留学生入学試験要項	
【資料 2-1-8】	平成30(2018)年度学士入学試験要項	
【資料 2-1-9】	平成30(2018)年度編入学入学試験要項	
【資料 2-1-10】	九州共立大学入学者選抜規程	
2-2. 教育課程及び教授方法		

九州共立大学

【資料 2-2-1】	九州共立大学学則	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-2-2】	大学ホームページ (大学案内⇒教育方針)	
【資料 2-2-3】	平成 30(2018)年度入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-2-4】	平成 29(2017)年度 学生便覧	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-5】	平成 29 年度 経済学部講義要項(シラバス)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-2-6】	平成 29 年度 スポーツ学部講義要項(シラバス)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-2-7】	平成 29(2017)年度 経済学部履修ガイド	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-2-8】	平成 29(2017)年度 スポーツ学部履修ガイド	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-2-9】	「九州共立大学における教育課程改革の方針」「九州共立大学・九州女子大学における共通教育改革の基本方針」 (H25.6.19 教授会資料)	
【資料 2-2-10】	九州共立大学評議会規則	
【資料 2-2-11】	九州共立大学教務委員会規程	
【資料 2-2-12】	「平成 26 年度 経済学部改革検討部会の設置について」他(教授会資料等)	
【資料 2-2-13】	「平成 26 年度 スポーツ学部改革検討部会の設置について」 他(教授会資料)	
【資料 2-2-14】	九州共立大学 2018 年度大学案内	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-2-15】	九州共立大学学則	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-2-16】	経済学部履修規程 ※平成 29 年度学生便覧	【資料 F-5】に記載
【資料 2-2-17】	スポーツ学部履修規程 ※平成 29 年度学生便覧	【資料 F-5】に記載
【資料 2-2-18】	平成 29 年度 経済学部講義要項(シラバス)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-2-19】	平成 29 年度 スポーツ学部講義要項(シラバス)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-2-20】	経済学部 カリキュラムツリー・カリキュラムマップ・科目ナンバリング	
【資料 2-2-21】	スポーツ学部 カリキュラムツリー・カリキュラムマップ・科目ナンバリング	
【資料 2-2-22】	平成 29 年度 経済学部自由選択科目一覧	
【資料 2-2-23】	平成 29 年度 スポーツ学部自由選択科目一覧	
【資料 2-2-24】	平成 29 年度前期プレイスメントテスト実施要領(日本語)	
【資料 2-2-25】	平成 29 年度前期オリエンテーション・ガイダンス日程表	
【資料 2-2-26】	平成 29 年度前期オリエンテーション・ガイダンス配布資料	
【資料 2-2-27】	平成 29 年度前期授業時間割(抜粋) 経済学部・スポーツ学部	
【資料 2-2-28】	平成 29 年度新入生宿泊研修活動計画書 経済学部・スポーツ学部	
【資料 2-2-29】	九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	
【資料 2-2-30】	FD ハンドブック 2017	
2-3. 学修及び授業の支援		
【資料 2-3-1】	学習支援センター資料 ※オフィスアワー一覧、やる気支援時間割、報告書等	
【資料 2-3-2】	平成 28 年度 非常勤講師オフィスアワー代替対応表	
【資料 2-3-3】	キャンパスマイレージ関係資料(マジカ)	
【資料 2-3-4】	九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程・委員会名簿	
【資料 2-3-5】	「授業評価アンケート実施方法の変更について(お知らせ)」 ※ミニアンケート導入のお知らせ	
【資料 2-3-6】	2016 年度 授業評価アンケート(質問用紙サンプル)	
【資料 2-3-7】	平成 28 年度 授業評価アンケート集計結果(自由記述・抜粋)	
【資料 2-3-8】	平成 28 年度前期・後期 自由記述欄データ閲覧希望者一覧	
【資料 2-3-9】	2017 年度 キャンパスライブ(p.11 提案箱)	
【資料 2-3-10】	平成 28 年度キャンパスミーティング実施要項	
【資料 2-3-11】	平成 27 年度特別研究費研究報告書	
【資料 2-3-12】	平成 27 年度新入生宿泊研修活動計画書	【資料 2-2-28】と同じ
【資料 2-3-13】	出席調査学生アルバイト関係資料	
【資料 2-3-14】	平成 29 年度 事務組織配席表	

九州共立大学

【資料 2-3-15】	学校法人福原学園例規集(各種委員会規則等)	【資料 F-9】と同じ
【資料 2-3-16】	「担当授業科目受講者の出欠管理について(お願い)」	
【資料 2-3-17】	「出席状況について」(保護者宛送付文書サンプル)	
【資料 2-3-18】	シラバスオンライン学生周知文書 ※平成 29 年度オリエンテーション・ガイダンス配布資料	
【資料 2-3-19】	シラバスオンライン入力画面(抜粋サンプル)	
【資料 2-3-20】	2016 年度前期・後期シラバスオンライン記入状況調査	
【資料 2-3-21】	Campusmate-J「学生カルテ」(抜粋サンプル)	
【資料 2-3-22】	平成 27 年度および平成 28 年度の経済学部・スポーツ学部の退学者・除籍者比較表	
2-4. 単位認定、卒業・修了認定等		
【資料 2-4-1】	九州共立大学学則(抜粋)	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-2】	経済学部履修規程(抜粋) ※平成 29 年度学生便覧	【資料 F-5】に記載
【資料 2-4-3】	スポーツ学部履修規程(抜粋) ※平成 29 年度学生便覧	【資料 F-5】に記載
【資料 2-4-4】	平成 29 年度 講義要項(シラバス)(抜粋)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-5】	「平成 29 年度『講義要項(シラバス)』原稿執筆のお願い」	
【資料 2-4-6】	平成 28 年度 卒業査定資料(両学部・抜粋)	
【資料 2-4-7】	平成 28 年度 進級査定資料(両学部・抜粋)	
【資料 2-4-8】	平成 29(2017)年度 履修ガイド(両学部)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-9】	「シラバス原稿の校閲について」(シラバスコーディネーター依頼書)	
2-5. キャリアガイダンス		
【資料 2-5-1】	学生相談件数一覧表	
【資料 2-5-2】	就職内定者座談会報告書	
【資料 2-5-3】	就職支援相談シート報告書	
【資料 2-5-4】	学内合同企業セミナー2017 福岡県若者しごとサポートセンター 2018 年学内企業・公務員セミナー	
【資料 2-5-5】	学内個別会社説明会実施状況	
【資料 2-5-6】	学外合同セミナー関係資料	
【資料 2-5-7】	平成 29 年度講義要項(シラバス)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-5-8】	インターンシップ参加人数(過去 3 年間)	
2-6. 教育目的の達成状況の評価とフィードバック		
【資料 2-6-1】	Campusmate-J「学生カルテ」(抜粋サンプル)	【資料 2-3-21】と同じ
【資料 2-6-2】	平成 28 年度 学生生活実態調査アンケート結果報告	
【資料 2-6-3】	九州共立大学卒業生に関するアンケート調査結果	
【資料 2-6-4】	学校法人福原学園第 2 次中期計画ガイドブック	【資料 1-2-1】と同じ
【資料 2-6-5】	資格取得者数一覧(平成 22 年度～平成 28 年度)	
【資料 2-6-6】	「授業評価アンケート実施方法の変更について」 ※ミニアンケート導入のお知らせ	【資料 2-3-5】と同じ
【資料 2-6-7】	「平成 28 年度前期・後期 授業評価アンケートの実施について」	
【資料 2-6-8】	2016 年度 授業評価アンケート(質問用紙サンプル)	【資料 2-3-6】と同じ
【資料 2-6-9】	平成 27 年度前期・後期 授業評価アンケート結果集計	
【資料 2-6-10】	「ミニアンケート」実施サンプル	
【資料 2-6-11】	平成 28 年度前期・後期 授業改善報告書(抜粋)	
【資料 2-6-12】	平成 28 年度前期・後期 授業改善報告書提出者一覧	
【資料 2-6-13】	平成 28 年度授業参観の実施について	
【資料 2-6-14】	FD ハンドブック 2017	
【資料 2-6-15】	授業評価アンケート結果学部毎平均値	
【資料 2-6-16】	教職実践ガイド-Q&A-[平成 29 年度改訂版]	
2-7. 学生サービス		
【資料 2-7-1】	九州共立大学奨学金運用要項	
【資料 2-7-2】	平成 29 年度学生便覧	【資料 F-5】と同じ

九州共立大学

【資料 2-7-3】	平成 29 年度キャンパスライフ	
【資料 2-7-4】	平成 28 年度全国大会・国際大会出場一覧表	
【資料 2-7-5】	平成 28 年度ファクトブック	【資料 1-2-3】と同じ
【資料 2-7-6】	平成 28 年度福秀寮洗濯機・乾燥機設置年次計画	
【資料 2-7-7】	平成 29 年度キャンパスライフ	
【資料 2-7-8】	留学生受入状況	
【資料 2-7-9】	平成 28 年度第 41 回修了スピーチ文集	
【資料 2-7-10】	朝食キャンペーンにおける学生への効果 (朝食キャンペーンと出席率および成績の関係について)	
【資料 2-7-11】	九州共立大学における 100 円定食キャンペーンはどのように 利用されているか (2014 年度の利用実態分析)	
【資料 2-7-12】	平成 28 年度 学生生活実態調査アンケート	
【資料 2-7-13】	平成 28 年度 学生生活実態調査アンケート結果報告	【資料 2-6-2】と同じ
2-8. 教員の配置・職能開発等		
【資料 2-8-1】	「教員の授業担当コマ数について」	
【資料 2-8-2】	学習支援センター資料 ※オフィスアワー一覧、報告書等	
【資料 2-8-3】	平成 29 年度 担当科目一覧	
【資料 2-8-4】	平成 29 年度 科目担当者一覧	
【資料 2-8-5】	九州共立大学教育職員選考基準	
【資料 2-8-6】	九州共立大学教育職員昇任要項	
【資料 2-8-7】	福原学園人事評価規程	
【資料 2-8-8】	九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	【資料 2-2-29】と同じ
【資料 2-8-9】	平成 28 年度 第 1 回 FD・SD 研修会(次第)、出欠表	
【資料 2-8-10】	平成 28 年度 第 2 回 FD・SD 研修会各部署別研修会実施報告書、出欠表	
【資料 2-8-11】	九州共立大学第 2 次中期計画一覧 [平成 28 年度版] 九州共立大学中期計画アクションプラン一覧 [平成 28 年度版]	
【資料 2-8-12】	平成 28 年度 九州共立大学中期計画実績報告書一覧	
【資料 2-8-13】	学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書	
【資料 2-8-14】	九州共立大学における教育課程改革の方針	
【資料 2-8-15】	九州共立大学・九州女子大学における共通教育改革の基本方針	
【資料 2-8-16】	九州共立大学・九州女子大学共通教育機構教務委員会の設置について	
【資料 2-8-17】	九州共立大学・九州女子大学共通教育機構教務委員会要項	
2-9. 教育環境の整備		
【資料 2-9-1】	施設・設備一覧	
【資料 2-9-2】	九州共立大学学舎配置図	
【資料 2-9-3】	九州共立大学および九州女子大学のクラスサイズの現状について※二大学共通教育機構運営会議資料	
【資料 2-9-4】	平成 29 年度前期 オリエンテーション・ガイダンス配付資料	
【資料 2-9-5】	平成 29 年度 前期受講者数一覧(抜粋)	

基準 3. 経営・管理と財務

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
3-1. 経営の規律と誠実性		
【資料 3-1-1】	学校法人福原学園寄附行為	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-1-2】	九州共立大学学則	【資料 F-3】と同じ
【資料 3-1-3】	福原学園組織規則	
【資料 3-1-4】	九州共立大学組織規則	
【資料 3-1-5】	福原学園就業規則	

九州共立大学

【資料 3-1-6】	学校法人福原学園第2次中期計画ガイドブック	【資料 1-2-1】と同じ
【資料 3-1-7】	学園広報誌「Liberty」2017 vol.16	【資料 1-3-10】と同じ
【資料 3-1-8】	大学ホームページ (情報開示⇒Ⅲ.その他公開情報)	
【資料 3-1-9】	大学ポートレート(私学版)	【資料 1-3-11】と同じ
【資料 3-1-10】	福原学園就業規則	【資料 3-1-5】と同じ
【資料 3-1-11】	九州共立大学組織規則	【資料 3-1-4】と同じ
【資料 3-1-12】	九州共立大学の研究活動における不正防止に関する規程	
【資料 3-1-13】	福原学園ハラスメントの防止及び対策に関する規程	
【資料 3-1-14】	九州共立大学ハラスメント防止委員会要綱	
【資料 3-1-15】	福原学園個人情報保護に関する規程	
【資料 3-1-16】	福原学園規則等の呼称及び番号を定める規則	
【資料 3-1-17】	福原学園規程等審査委員会規程	
【資料 3-1-18】	福原学園安全衛生管理規程	
【資料 3-1-19】	福原学園衛生管理者の選任に関する要綱	
【資料 3-1-20】	福原学園防火防災管理規程	
【資料 3-1-21】	防火防災対策マニュアル	
【資料 3-1-22】	スポーツ事故の防止と緊急対応の手引き	
【資料 3-1-23】	平成28年度「人権・同和教育研修会」資料	
【資料 3-1-24】	九州共立大学ハラスメント防止委員会要綱	【資料 3-1-14】と同じ
【資料 3-1-25】	福原学園ハラスメントの防止及び対策に関する規程	【資料 3-1-13】と同じ
【資料 3-1-26】	ハラスメントに関するリーフレット	
【資料 3-1-27】	財務情報の開示要領	
【資料 3-1-28】	大学ホームページ (情報開示⇒Ⅲその他の公開情報 4.財務状況)	
【資料 3-1-29】	平成28年度福原学園ファクトブック	【資料 1-2-3】と同じ
3-2. 理事会の機能		
【資料 3-2-1】	福原学園経営戦略会議規則	
【資料 3-2-2】	福原学園経営戦略会議のもとに設置する委員会等	
【資料 3-2-3】	福原学園教学運営懇談会要項	
【資料 3-2-4】	平成28年度福原学園理事会	
【資料 3-2-5】	平成28年度福原学園評議員会	
【資料 3-2-6】	平成28年度福原学園経営戦略会議	
【資料 3-2-7】	学校法人福原学園寄附行為	【資料 F-1】と同じ
3-3. 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ		
【資料 3-3-1】	平成26年度九州共立大学管理運営体制改編図	
【資料 3-3-2】	九州共立大学組織規則	【資料 3-1-4】と同じ
【資料 3-3-3】	九州共立大学教育運営委員会規程	
【資料 3-3-4】	学長裁定「平成29年度九州共立大学教授会の審議事項について」	
【資料 3-3-5】	平成27年度九州共立大学管理運営体制改編図	
【資料 3-3-6】	九州共立大学評議会規則	
【資料 3-3-7】	九州共立大学入学者選抜規程	【資料 2-1-10】と同じ
【資料 3-3-8】	九州共立大学自己点検・評価実施規程	
【資料 3-3-9】	九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	【資料 2-2-29】と同じ
【資料 3-3-10】	福原学園学長特別補佐選考規則	
【資料 3-3-11】	九州共立大学経営協議会要綱	
3-4. コミュニケーションとガバナンス		
【資料 3-4-1】	学校法人福原学園寄附行為	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-4-2】	学校法人福原学園寄附行為施行細則	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-4-3】	福原学園理事会会議規則	
【資料 3-4-4】	福原学園常務理事会規則	
【資料 3-4-5】	福原学園経営戦略会議規則	
【資料 3-4-6】	福原学園教学運営懇談会要項	【資料 3-2-3】と同じ

九州共立大学

【資料 3-4-7】	福原学園ホームページ「福原学園 会議情報」抜粋	
【資料 3-4-8】	平成 29 年度福原学園総会 次第	【資料 1-3-1】と同じ
【資料 3-4-9】	学校法人福原学園寄附行為	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-4-10】	学校法人福原学園寄附行為施行細則	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-4-11】	平成 29 年度評議員名簿	
【資料 3-4-12】	平成 29 年度学長所信表明資料「九州共立大学の改革について－学長方針－」	
【資料 3-4-13】	第 2 次中期計画説明会(平成 25 年 7 月 17 日)資料 ①福原学園第 2 次中期計画の策定について ②福原学園第 2 次中期計画ツリー図(案) ③九州共立大学第 2 次中期計画記入用紙	【資料 1-3-3】と同じ
3-5. 業務執行体制の機能性		
【資料 3-5-1】	福原学園組織規則	【資料 3-1-3】と同じ
【資料 3-5-2】	九州共立大学組織規則	【資料 3-1-4】と同じ
【資料 3-5-3】	事務分担表	
【資料 3-5-4】	事務組織図	
【資料 3-5-5】	九州共立大学附属図書館規程	
【資料 3-5-6】	九州共立大学学術情報センター規程	
【資料 3-5-7】	九州共立大学学習支援センター規程	
【資料 3-5-8】	九州共立大学共通教育センター規程	
【資料 3-5-9】	九州共立大学スポーツ・トレーニングセンター要項	
【資料 3-5-10】	九州共立大学地域連携推進センター規程	
【資料 3-5-11】	九州共立大学評議会規則	【資料 3-3-6】と同じ
【資料 3-5-12】	福原学園組織規則	
【資料 3-5-13】	九州共立大学・九州女子大学共通教育機構規程	
【資料 3-5-14】	福原学園保健センター規則	
【資料 3-5-15】	九州共立大学組織規則	【資料 3-1-4】と同じ
【資料 3-5-16】	事務組織図	【資料 3-5-4】と同じ
【資料 3-5-17】	理事会、常務理事会、経営戦略会議 名簿	
【資料 3-5-18】	法人会議報告	
【資料 3-5-19】	課長報告会資料「懸案事項の進捗状況について」	
【資料 3-5-20】	福原学園人事評価規程	【資料 2-8-7】と同じ
【資料 3-5-21】	人事評価に関する自己チェックシートの作成について	
【資料 3-5-22】	人事評価に係るツールおよび面談の流れ	
【資料 3-5-23】	人事評価にあたって職務遂行度の自己チェックシート	
【資料 3-5-24】	福原学園自己申告制度実施要綱	
【資料 3-5-25】	福原学園事務職員等研修規程	
【資料 3-5-26】	平成 28 年度 各種職員研修実績一覧表	
【資料 3-5-27】	福原学園研修・セミナー通信「情報共有広場」第 76～78 号	
【資料 3-5-28】	平成 28 年度 FD・SD 研修会(次第)、出欠表	【資料 2-8-9】と同じ
【資料 3-5-29】	平成 28 年度第 2 回 FD・SD 研修会各部署別研修会実施報告書、出欠表	【資料 2-8-10】と同じ
3-6. 財務基盤と収支		
【資料 3-6-1】	平成 28 年度事業計画	
【資料 3-6-2】	平成 28 年度計算書類	
【資料 3-6-3】	第 1 次財政計画 (H22 年度～H25 年度)	
【資料 3-6-4】	第 2 次財政計画 (H26 年度～H30 年度)	
【資料 3-6-5】	九州共立大学事業活動収支 5 ヶ年推移表 (H24 年度～H28 年度)	
【資料 3-6-6】	法人全体の事業活動収支 5 ヶ年推移表 (H24 年度～H28 年度)	
【資料 3-6-7】	科研申請～採択状況	
3-7. 会計		
【資料 3-7-1】	福原学園予算管理規程	
【資料 3-7-2】	福原学園経理規則	

九州共立大学

【資料 3-7-3】	福原学園経理規則施行規程	
【資料 3-7-4】	大学ホームページ (情報開示⇒Ⅲその他公開情報⇒情報公開〈財務状況〉)	
【資料 3-7-5】	月次収支報告書	
【資料 3-7-6】	平成 28 年度監査報告書	
【資料 3-7-7】	内部監査規程	

基準 4. 自己点検・評価

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
4-1. 自己点検・評価の適切性		
【資料 4-1-1】	九州共立大学自己点検・評価実施規程	【資料 3-3-8】と同じ
【資料 4-1-2】	大学ホームページ⇒情報開示⇒Ⅲ. その他公開情報 1. 自己評価報告書	
【資料 4-1-3】	九州共立大学自己点検・評価実施規程	【資料 3-3-8】と同じ
【資料 4-1-4】	学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画	【資料 F-6】と同じ
【資料 4-1-5】	九州共立大学平成 29 年度 事業計画アクションプラン	
【資料 4-1-6】	学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書	【資料 F-7】と同じ
【資料 4-1-7】	平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表	
【資料 4-1-8】	九州共立大学 IR 推進体制連関図	
【資料 4-1-9】	九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	【資料 2-2-29】と同じ
【資料 4-1-10】	平成 28 年度福原学園ファクトブック	【資料 1-2-3】と同じ
【資料 4-1-11】	学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書	【資料 F-7】と同じ
【資料 4-1-12】	学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画	【資料 F-6】と同じ
4-2. 自己点検・評価の誠実性		
【資料 4-2-1】	平成 28 年度福原学園ファクトブック	【資料 1-2-3】と同じ
【資料 4-2-2】	学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画	【資料 F-6】と同じ
【資料 4-2-3】	学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書	【資料 F-7】と同じ
【資料 4-2-4】	九州共立大学 平成 29 年度事業計画アクションプラン	【資料 4-1-5】と同じ
【資料 4-2-5】	平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表	【資料 4-1-7】と同じ
【資料 4-2-6】	平成 28 年度新入生調査集計結果	
【資料 4-2-7】	平成 28 年度学生生活実態調査アンケート結果報告	【資料 2-6-2】と同じ
【資料 4-2-8】	平成 28 年度授業評価アンケート集計結果	【資料 2-3-7】と同じ
【資料 4-2-9】	平成 28 年度福原学園ファクトブック	【資料 1-2-3】と同じ
【資料 4-2-10】	学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画	【資料 F-6】と同じ
【資料 4-2-11】	九州共立大学 平成 29 年度事業計画アクションプラン	【資料 4-1-5】と同じ
【資料 4-2-12】	学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書	【資料 F-7】と同じ
【資料 4-2-13】	平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表	【資料 4-1-7】と同じ
【資料 4-2-14】	九州共立大学における 100 円定食キャンペーンはどのように利用されているか (2014 年度の利用実態分析)	【資料 2-7-11】と同じ
【資料 4-2-15】	学校法人福原学園 平成 29 年度事業計画 ※大学ホームページ⇒情報開示⇒Ⅲ. その他公開情報 2. 事業計画情報公開〈事業計画〉	【資料 F-6】と同じ
【資料 4-2-16】	学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書 ※大学ホームページ⇒情報開示⇒Ⅲ. その他公開情報 3. 事業計画情報公開〈事業報告〉	【資料 F-7】と同じ
【資料 4-2-17】	九州共立大学 平成 29 年度事業計画アクションプラン	【資料 4-1-5】と同じ
【資料 4-2-18】	平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表	【資料 4-1-7】と同じ
【資料 4-2-19】	平成 28 年度授業評価アンケート集計結果	【資料 2-3-7】と同じ
4-3. 自己点検・評価の有効性		
【資料 4-3-1】	2016 年度授業評価アンケート(質問用紙サンプル)	【資料 2-3-6】と同じ

九州共立大学

【資料 4-3-2】	授業改善報告書	【資料 2-6-11】と同じ
【資料 4-3-3】	2016 年度ミニアンケート(サンプル)	【資料 2-6-10】と同じ
【資料 4-3-4】	平成 28 年度福原学園ファクトブック	【資料 1-2-3】と同じ
【資料 4-3-5】	学校法人福原学園 平成 28 年度事業報告書	【資料 F-7】と同じ
【資料 4-3-6】	平成 28 年度九州共立大学 事業計画アクションプラン実績報告一覧表	【資料 4-1-7】と同じ
【資料 4-3-7】	学校法人福原学園平成 29 年度事業計画	【資料 F-6】と同じ
【資料 4-3-8】	九州共立大学 平成 29 年度事業計画アクションプラン	【資料 4-1-5】と同じ

基準 A. 社会連携・社会貢献

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
A-1. 大学が持っている物的・人的資源の社会への提供		
【資料 A-1-1】	平成 28 年度生涯学習研究センター年報	
【資料 A-1-2】	九州共立大学地域連携推進センター規程	
【資料 A-1-3】	九州共立大学地域連携推進委員会規程	
【資料 A-1-4】	九州共立大学と北九州市によるスポーツの振興及びスポーツによるまちのにぎわいづくり並びに人材育成等に関して連携・協力するための包括連携協定書	
【資料 A-1-5】	平成 28 年度九州共立大学「地域貢献・連携事業」報告書	【資料 1-3-12】と同じ
【資料 A-1-6】	平成 28 年度九州共立大学事業計画アクションプラン実績報告書一覧	【資料 4-1-7】と同じ
A-2 学外の教育研究機関及び企業・団体との協力関係		
【資料 A-2-1】	大学コンソーシアム関門規約	
【資料 A-2-2】	大学コンソーシアム関門平成 28 年度事業報告	
【資料 A-2-3】	平成 28 年度大学コンソーシアム関門受講者登録数	
【資料 A-2-4】	まちなか ESD センター運営規程	
【資料 A-2-5】	まなびと講座参加人数 (学生・一般)	
【資料 A-2-6】	平成 28 年度単位互換開放科目一覧 (学園内 3 大学)	
【資料 A-2-7】	平成 28 年度福原学園ファクトブック	
【資料 A-2-8】	平成 28 年度企業・団体等との共同研究一覧	